



PartitionMagic®

日本語ユーザーガイド

PartitionMagic 7.0 ユーザーガイド

2001年8月

© 1997–2001 PowerQuest Corporation

All rights reserved. This product and/or its use may be covered by one or more of the following patents: 5,675,769; 5,706,472; 5,930,831; 6,088,778; 6,108,759; 6,173,291; 6,185,666; 6,178,487; 6,178,503. Additional patents may be pending. Please refer to www.powerquest.com/legal_notices for additional information about PowerQuest's patents.

本ソフトウェアおよびマニュアルの使用または使用結果に対するすべての責任は、お客様にあります。本マニュアルは、ソフトウェアライセンス契約書に記載されている場合を除き、いかなる目的でも、電子的または機械的な方法で複製することはできません。

本ソフトウェアおよびマニュアルは著作権法で保護されています。ソフトウェアの所有権を含め、その他すべての権利は PowerQuest Corporation にあります。PartitionMagic、PowerQuest、およびPowerQuestのロゴは、米国およびその他の国におけるPowerQuest Corporationの登録商標です。Drive Image、DriveCopy、SmartSector、およびDriveMapperは、PowerQuest Corporationの商標または登録商標です。DOS、Microsoft、Windows、およびWindows NTはMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。NetWareはNovellの登録商標です。Disk ManagerはOnTrack Corporationの商標です。EZ-DriveはMicro House Internationalの商標です。その他すべてのブランドおよび製品名は、それぞれの会社の商標または登録商標です。本マニュアルに表示されているハードウェアのイラストは、Western DigitalとQuantum Corporationから許可を受けて提供されたものです。これらのイラストは著作権法で保護されており、Western DigitalまたはQuantum Corporationから許可を受けた場合のみ使用することができます。

株式会社ネットジャパン

〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-18-3

sales@netjapan.co.jp

<http://www.netjapan.co.jp>

PowerQuest® エンドユーザーライセンス契約書

重要：PowerQuest 社のソフトウェアを使用する前に以下をよくお読みください。

本ライセンス契約は、お客様（「エンドユーザー」）と PowerQuest Corporation（「PowerQuest」）との間の契約書です。このソフトウェアを使用することにより、エンドユーザーは以下の条項を受け入れたことになります。本ライセンス契約において、「本ソフトウェア」という用語は、本ライセンス契約が同封されている CD またはディスク媒体上に含まれているソフトウェアを意味します。「本ソフトウェア」には、PowerQuest 以外の者によって提供または供与されている別途ライセンスの対象となるソフトウェアは含まれません。また、本ライセンス契約はそうしたソフトウェアについてなんらの権利も供与するものではありません。

エンドユーザーがここに記載する条項に合意しない場合には、当該 CD ないしディスク媒体が含まれているソフトウェア・パッケージ、ならびに、本製品のその他のコンポーネントを破棄するか、または、開封せずにそのまま購入場所まで返却しなければなりません。

1. 所有権

本ソフトウェアおよび付属書類は、PowerQuest またはそのライセンサーの所有物であり、米国および日本の著作権法、商標法、特許法およびトレードシークレットに関する法律、ならびに国際条約の諸規定によって保護されています。本ソフトウェアおよびその一切のコピー、修正、翻訳および組み込まれた部分の独占的な所有権は、つねに PowerQuest およびそのライセンサーに帰属します。

2. ライセンスの許諾

PowerQuest はここに、エンドユーザーに対して、本ライセンス契約の条項に基づいて本ソフトウェアを使用する非独占的かつ譲渡不能のライセンスを許諾します。本ソフトウェアを一時的にメモリにロードしたり、永続的にメモリにインストールすると、本ソフトウェアをコンピュータ上で使用したものとみなされます。PowerQuest からの書面による許可を事前に得ることなしに、本ライセンスを譲渡または移転することはできません。また、無許可で行われた譲渡は無効とみなされます。

本ソフトウェアは、ライセンスを購入したコンピュータに対して、1 コピーのみ使用できます。本ソフトウェアの認定コピーは、エンドユーザーによって所有またはリースされた 1 台のコンピュータ上でのみ使用できます。本ソフトウェアをネットワーク上で利用する場合でも、本ソフトウェアに対するアクセスは、特定の 1 台のコンピューターからしか行うことができません。本ソフトウェアが特定の 1 台のコンピューターからすでにアクセスされている場合、追加のライセンスを購入せずに、他のコンピューター上で本ソフトウェアを使用することはできません。本ソフトウェアのすべてのコピーには、著作権、商標、および特許の通知が含まれていなければなりません。

本ライセンス契約は、エンドユーザーの一身専属的なもの（個人あるいは法人）です。そのため、エンドユーザーは、本ライセンス契約下の利益あるいは権利を、第三者に譲渡ないし移転してはならず、また、第三者の便宜やデータのために本ライセンス契約を行使してはなりません。サービス代理店、システムインテグレータ、付加価値再販業者、あるいはそれ以外のサービスプロバイダーである場合、および本ソフトウェアを顧客のコンピュータで使用する場合は、それぞれ適切なライセンスを購入しなければなりません。

バックアップコピー：エンドユーザーは、本ライセンス契約のもとに認可されたコピーに加え、バックアップ用としてのみ本ソフトウェアのコピーを 1 コピー作成することができます。

アップデートおよびサポート：エンドユーザーは、本ソフトウェアの付属書類に記載されたテクニカルサポートを受けることができます。エンドユーザーは、随時公表される PowerQuest の方針に従い、サイトライセンスによって本ソフトウェアのほかのユーザーに提供されるのと同様の条件で、ソフトウェアのアップデートを受け取ることができます。アップデートには、一般に www.netjapan.co.jp で入手可能なパッチまたは PowerQuest によるバグの修正が含まれます。

期間：本ライセンス契約は、本ソフトウェアの購入日から有効となり、解約されるまで有効です。エンドユーザーは、本ソフトウェア、付属書類、ならびに一切のコピーを破棄することにより、いつでも本ライセンス契約を解除できます。

3. 無許可の使用

本ライセンス契約で明示的に許可されている場合を除き、PowerQuest からの書面による明示的な許可を事前に得ることなく、本ソフトウェアまたはその付属書類を電子的またはその他の手段で使用、コピー、修正、改変または転送することはできません。また、本ソフトウェアを翻訳、リバース・プログラミング、ディスアセンブリ、逆コンパイル、およびリバース・エンジニアリングすることもできません。

4. 輸出規制

コンピューター・ソフトウェアの輸出および最終エンドユーザーに関してのアメリカ合衆国の条例による規制の下で、本ソフトウェアの使用が許諾されています。エンドユーザーは、1979 年の輸出管理法に限らず、随時改訂され公表されているアメリカ合衆国の関連条例および法規を、充分に遵守することに同意するものとします。

5. 米国政府による使用の制限

エンドユーザーが米国政府の省庁での使用を目的として本ソフトウェアを取得する場合は、以下の条項が適用されます：本ソフトウェアは民間の費用のみで開発されたものであり、本ソフトウェアとその付属書類は制限付き権利を付して提供されます。米国政府による本ソフトウェアの使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013 のテクニカルデータおよびコンピュータソフトウェアの権利に関する条項 (c)(1)(ii)、または 48 CFR 52.227-19 の商用コンピュータソフトウェアの制限付き権利に関する条項 (c)(1) および (2) のいずれかの既定により制限されます。契約業者/製造元 PowerQuest Corporation/P.O. Box 1911/Orem, UT 84059-1911/U.S.A.

6. 限定的保証

(a)PowerQuest は、エンドユーザーに対して以下を保証します：(i)本ソフトウェア(第三者ソフトウェアを含まない)がほぼ付属書類通りに作動すること、および、(ii)本ソフトウェアがディスク媒体上に適切に記録されていること。この限定的保証は、購入の日から90日間有効です。PowerQuestは、本ソフトウェアと共に提供される第三者ソフトウェアについては保証しませんが、PowerQuestは、その所有者ないしライセンサーによる保証をエンドユーザーに移行することに合意します。(b)この限定的保証は、本ライセンス契約の条項や本ソフトウェアおよび付属書類上の指示に従わずに改変、損傷、乱用、誤用ないし使用された本ソフトウェアには適用されません。(c)この限定的保証に基づくPowerQuestの責任およびエンドユーザーに対する唯一の救済は、本ソフトウェアの修復または交換、あるいは、本ソフトウェアの購入価格の返済に限定されます。PowerQuestは、本ソフトウェアが、エンドユーザーの保管する領収書のコピーを添えて、保証期間内にPowerQuestまたはその代理店に返還されない限り、この限定的保証に基づく責任を負いません。本ソフトウェアの交換されたものについては、当初の保証期間の残存期間または30日間のうち、いずれか長い期間につき保証されるものとします。(d)この保証は、明示または暗黙を問わず、商品性、特定の用途への適合性、および第三者の権利侵害についての保証、または商慣行や取引過程で発生する保証を含むがそれに限定されない、本ライセンス契約中に明記されていないその他一切の保証に代わるとともに、それらを排除するものです。(e)この保証はエンドユーザーに特定の法的権利を与えます。エンドユーザーは、居住地域によって異なるほかの権利を与えられる場合もあります。(f)エンドユーザーがユーザ登録を怠った場合、PowerQuestはソフトウェアのアップデートサービスを行うことができず、エンドユーザーは実行とその結果に一切の責任を負うことになります。

7. 責任の制限

いかなる場合においても、本ソフトウェアに関するPowerQuestの責任は、本ソフトウェアに対してエンドユーザーが実際に支払ったライセンス料の範囲に限定されます。限定的保証で既定される条件下での購入価格の返済を除き、PowerQuestまたはその供給者は、いかなる場合においても、本ソフトウェアの使用または使用不能に関連して生じた直接的損害、間接的損害、特別損害、付随的損害、結果的損害、および業務上の利益の喪失、業務の中断による損失、業務情報の喪失、またはその他の金銭的損失を含むがそれに限定されない損害について、たとえかかる損害の発生の可能性を知らされていた場合であっても、(契約によると、不法行為によると、保証によると、またはその他一切の法律上の根拠によるとに関わらず)一切の責任を負いません。居住する地域によっては、付随的損害または結果的損害に対する責任の除外または制限が認められず、上記の制限が適用されない場合があります。

8. 権利の放棄

本ライセンス契約のいずれかの当事者による、特定の状況下での本ライセンス契約の特定の部分の不履行は、本ライセンス契約で権利の放棄とはみなされません。当該当事者は、その状況下で本契約の残りの部分を実行することができ、また他の状況下で本契約のすべてまたは一部を実行することができます。

9. 完全な合意

本ライセンス契約は、本ライセンス契約の主題に関して、エンドユーザーとPowerQuestとの間の完全な合意を構成します。本ライセンス契約はユタ州法を準拠法とします。本ライセンス契約に関連して発生する訴訟はすべて、ユタ州に所在する州裁判所または連邦裁判所においてのみ訴追されます。本契約の一部が無効とされた場合でも、本契約の残りの部分は有効で拘束力を持ち、強制可能です。

エンドユーザーが本契約について質問がある場合、または、エンドユーザーがなんらかの理由によりPowerQuest、または、PowerQuestの日本総代理店である(株)ネットジャパンに連絡をとる場合には、下記までご連絡ください。

PowerQuest Corporation/1359 North Research Way, Building K/Orem UT 84097 U.S.A.
株式会社ネットジャパン/〒101-0032東京都千代田区岩本町2-18-3 NBS 岩本町ビルディング
Copyright © 1994-2001, PowerQuest Corporation. All rights reserved.

本ソフトウェアは米国特許法をはじめ、米国ならびにその他の地域で懸案中の特許法によって保護される可能性があります。PowerQuestはPowerQuest Corporationの登録商標です。

目次

序章

PartitionMagic とは何か？	1
新機能	1
電子版ユーザーガイドの利用	2

第 1 章: はじめに

PartitionMagic のシステム可動条件	4
Windows 上で PartitionMagic をインストールする	4
緊急用ディスクの作成	5
PartitionMagic を実行する前に	6
PartitionMagic の実行	7
PartitionMagic のパスワードの設定	10
PartitionMagic Pro のみが提供する機能	11
PartitionMagic のアンインストール	11

第 2 章: PartitionMagic の基本事項

PartitionMagic のメインウィンドウ	14
緊急用ディスクのメインウィンドウ	16
手順の概要	17
ハードディスクの選択	18
パーティションの選択	18
操作項目の選択	19
操作を元に戻す	19
未実行の操作の表示	20
システムへの変更設定の適用	20
サポートされるファイルシステム	21
PartitionMagic のプログラム設定項目の変更	23
ハードドライブのデフラグの実行	24
ヘルプの表示	25

第 3 章: パーティションの管理

ディスク状態の診断	28
パーティションのサイズ変更と移動	28
パーティションの作成	34
パーティションの削除	44
パーティションの削除を元に戻す	45
パーティションラベルの変更	46
パーティションの初期化	47
パーティションのコピー	48
パーティションのエラー診断	50
パーティションの結合	52
パーティションの分割	54

パーティション情報の表示	56
ディスクエラーのスキャン	60
第 4 章: 高度なディスクの操作	
ドライブレターの変更	64
不良セクタの再診断	64
パーティションの表示および非表示	65
ルートディレクトリのサイズ変更 (FAT のみ)	66
アクティブパーティションの設定	67
クラスタサイズの変更	68
第 5 章: パーティションの変換	
パーティションを変換する手順	72
FAT パーティションから FAT32 への変換	73
FAT パーティションから NTFS への変換	73
FAT32 パーティションから FAT への変換	74
FAT32 パーティションから NTFS への変換	74
FAT/FAT32 パーティションから 4K 境界割り当てへの変換	75
NTFS パーティションから FAT または FAT32 への変換	75
パーティションの論理または基本パーティションへの変換	78
第 6 章: ウィザードの使用	
概要	82
ウィザードの実行	82
新規パーティションの作成ウィザード	83
パーティションサイズの変更ウィザード	84
空き領域の再配置ウィザード	84
パーティションの結合ウィザード	84
パーティションのコピーウィザード	84
第 7 章: PartitionMagic Pro の機能	
リモートエージェント	86
スクリプト処理	93
コマンドラインスイッチ	93
第 8 章: PartitionMagic ユーティリティの使用	
DriveMapper によるドライブレター参照の変更	98
PQBoot による起動可能パーティションの変更	100
第 9 章: BootMagic の使用	
はじめに	104
BootMagic の設定	107
BootMagic のパスワードの設定	108
BootMagic メニューへの OS の追加	108

BootMagic メニューからの項目の削除	110
メニュー項目のプロパティの変更	110
デフォルト OS の設定	110
別のハードディスクからの起動	110
起動時間の設定	111
BootMagic の無効化	111
BootMagic メニューの使い方	112
BootMagic によるオペレーティングシステムのインストール	112
付録 A: 他のプログラムと一緒に PartitionMagic を使用する	
Norton Utilities	114
ディスク圧縮ユーティリティ	115
オペレーティングシステム起動ユーティリティ	116
ウィルス検出ソフトウェア	116
ドライブオーバーレイソフトウェア	117
SoundBlaster	117
GoBack	117
付録 B: トラブルシューティング	
一般的なトラブルシューティング	120
PartitionInfo による診断レポートの作成	125
エラーメッセージと対処方法	127
付録 C: テクニカルサポート	
テクニカルサポートへ連絡する前に	148
テクニカルサポートフォーム	148
テクニカルサポートを受けるための条件	148
テクニカルサポートの連絡先	149
旧バージョンのサポート期間について	149
補足	150
索引	151

序章

PartitionMagic とは何か？

PartitionMagic®を使用すると、データファイル、アプリケーション、オペレーティングシステムなどの重要な情報を格納するためのハードディスク上のパーティションをすばやく簡単に作成できます。情報を別のパーティションに格納することで、データの整理や保護が容易になり、ディスク領域の無駄を省くことができます。

PartitionMagicを使用すると、物理的に他のファイルから隔離することでデータを保護することができます。パーティションを分けると、バックアップも容易になります。

PartitionMagicを使用すると、1つのコンピュータ上で複数のオペレーティングシステムを安全に実行できます。PartitionMagicにはBootMagicが付属しています。BootMagicはパワフルなブートマネージャであり、新しいオペレーティングシステムを安全にインストールするのに役立ちます。また、コンピュータの起動時に使用するオペレーティングシステムを選択できるようになります。

FAT ファイルシステムの制限により、ハードディスク領域の約40%は無駄に使用されています。PartitionMagicでは、より効率的なパーティションサイズを使用することで、浪費されている領域をすばやく安全に回復します。PartitionMagicでは、FAT パーティションとFAT32 パーティションとの間でファイルシステムを変換することができます。

パワフルなパーティション作成機能に加え、PartitionMagicには各種のオプションが用意されています。たとえばパーティションの操作を行った際に、変更された内容をシステムに適用する前に表示することができます。また、ハードディスクジオメトリやハードウェアシステムに関する総合的な情報を表示したり、ルートディレクトリ (FATおよびFAT32) をサイズ変更してロングファイルネームのための領域を確保することもできます。

新機能

PowerQuest PartitionMagic 7.0 では、次の機能が追加されています。

- NTFS パーティションを結合する機能
- パフォーマンスの強化
- ハードディスクの最大 80GB までのサポート
- 緊急用ディスクによるパーティションの復元
- [Windows 上のデフラグを実行] との統合
- パーティションの分割機能がサブディレクトリに対応
- 外部 USB ハードディスクのサポート

電子版ユーザーガイドの利用

このユーザーガイドでは、PowerQuest PartitionMagic のセットアップ方法と使用方法について説明します。

PartitionMagic CD の Docs フォルダには、検索可能な PDF 版の本マニュアルが納められています。ファイル名は PM7.PDF です。最高の表示品質でご覧いただくためには、Adobe® Acrobat® バージョン 4.0 以降のご使用をお奨めします。Acrobat の最新バージョンについては、Adobe の Web サイト (www.adobe.com または www.adobe.co.jp) より無料でダウンロードできます。PDF 版のマニュアルでは、相互参照 (目次と索引のページ番号など) をクリックすると、関連項目にジャンプできます。また、Web サイトへの参照をクリックすると、ブラウザが起動され Web サイトに移動します。Acrobat では、ほかの項目にリンクしているテキスト部分に手の形のポインタを置くと、指を指す形のポインタに変わります。

第 1 章

はじめに

この章で説明する内容は次のとおりです。

- PartitionMagic のシステム可動条件
- Windows 上で PartitionMagic をインストールする
- 緊急用ディスクの作成
- PartitionMagic を実行する前に
- PartitionMagic の実行
- PartitionMagic のパスワードの設定
- PartitionMagic Pro のみが提供する機能
- PartitionMagic のアンインストール

PartitionMagic のシステム可動条件

PartitionMagic for Windows には、54MB 以上のハードディスク領域、CD-ROM ドライブ (任意の速度)、3.5 インチフロッピードライブ、そして次に示すプロセッサおよびメモリ要件が必要です。

オペレーティングシステム	最小 RAM	最小プロセッサ
Windows 95/98	32MB	486 または互換
Windows Me	32MB	Pentium/150MHz または互換
Windows NT 4.0 Workstation (SP4 を適用)	32MB	486/33 または互換
Windows 2000 Professional	64MB	Pentium/133MHz または互換
Windows XP	64MB	Pentium/233MHz または互換

PartitionMagic Pro は、RAID レベル 0 (ディスクストライピング) と RAID レベル 5 (パリティ付きストライピング) をサポートします。

PartitionMagic の緊急用ディスク版には、486DX/33MHz 以上のプロセッサ、8MB の RAM (NTFS パーティションには 16MB、FAT32 パーティションには 32MB を推奨します。一部の大規模パーティションには最大 64MB が必要になることがあります)、および 3.5 インチフロッピーディスクドライブが必要です。

Windows 上で PartitionMagic をインストールする

重要： PartitionMagic は、ネットワークドライブではなくローカルドライブにインストールする必要があります。

1. CD-ROM ドライブに PartitionMagic CD を挿入します。
2. インストールプログラムが自動的に起動されない場合は、Windows のタスクバーから [スタート] → [ファイル名を指定して実行] をクリックします。
3. 「drive:¥AUTORUN」と入力します。ここで drive は、CD-ROM ドライブのドライブレターです。
4. [インストール] をクリックし、画面に表示されるインストール指示に従います。

インストール中に PartitionMagic のライセンス契約がハードディスクにコピーされます。コピー先のデフォルトのパスとファイル名は、C:¥Program Files¥PowerQuest¥PartitionMagic [Pro] 7.0¥License.txt です。

緊急用ディスクの作成

DOS、Windows 3.x、またはLinux マシンから PartitionMagic を実行するための緊急用ディスクを、PartitionMagic CD から作成できます。また、Windows 上で緊急用ディスクを作成することもできます。

緊急用ディスクは次のような場合に役に立ちます。

- PartitionMagic を実行したいが、PartitionMagic の Windows 版がサポートしているオペレーティングシステムを持っていない場合。
- PartitionMagic がインストールされたパーティションを非表示にしているときに、PartitionMagic を実行してそのパーティションを表示する必要がある場合。
- 誤ってパーティションをFAT32に変換してしまい、オペレーティングシステムがFAT32をサポートしていないためにコンピュータが起動しない場合。緊急用ディスクを使えば、パーティションをFATに戻すことができます。
- CDまたはハードドライブ上のPartitionMagicにアクセスできないときにPartitionMagicを実行する必要がある場合。

この手順を開始する前に、1.44MB の空のフロッピーディスクを3枚用意してください。

1. 緊急用ディスクは3とおりの方法で作成できます。

どこから作成するか	操作手順
PartitionMagic CD (Windows を持っていない場合に便利です)	<p>1a. PartitionMagic CD の DOS-OS2 フォルダを開きます。</p> <p>1b. 「MAKEDISK A:」と入力します。ここでA:はフロッピーディスクドライブのドライブレターです。</p> <p>この操作により、DOS 版の PartitionMagic をハードディスクにインストールすることができます。ハードディスクへインストールすると、PartitionMagic のファイル (システム ファイルを除く) はディスクのルートにある PQMAGIC ディレクトリにインストールされます。フロッピーディスクは必要なくなります。</p>
PartitionMagic の メインウィンドウ	メニューバーから [ツール] → [緊急ディスクの作成] をクリックします。
Windows	[スタート] → [プログラム] → [PowerQuest PartitionMagic 7.0] → [緊急用ディスクの作成] をクリックします。

2. 初期化済みの空の 1.44MB ディスクを 3.5 インチディスクドライブに挿入し、[OK] をクリックします。
3. ウィンドウの下部にあるプログレスバーに表示される指示に従います。

緊急用ディスクには、以下のファイルが含まれます。

PartitionMagic 7.0 ディスク 1	PartitionMagic 7.0 ディスク 2
<ul style="list-style-type: none">• Autoexe2.bat• Autoexec.bat• Command.com• Ega.cpi• Keyb.com• Mode.com• Partinfo.exe (ユーティリティプログラム)• PTEDIT (ユーティリティプログラム)• その他のシステム (.SYS) ファイル• MSCDEX.exe (Windows 9x/Me のみ)• NWCDEX.exe (Windows NT/2000/XP のみ)• Fdisk.com (Windows NT/2000/XP のみ)	<ul style="list-style-type: none">• Autoexec.bat• Command.com• Mouse.com• PMHelp.dat (ヘルプファイル)• PQMagic.exe• PQMagic.ovl• PQMagic.pqg• PQPB.rtc• Rescue.txt• zAbout.pqg• Boot.ini (Windows NT/2000/XP のみ)

日本語版の緊急用ディスクを作成する場合は、3 枚目のディスクにフォントと PQPB.RTC ファイルが格納されます。

PartitionMagic を実行する前に

PartitionMagic を実行する前に、ハードディスクをバックアップすることをお勧めします。PartitionMagic は十分なテストを行って安全性と信頼性を確認していますが、それ以外の要因 (たとえば停電、オペレーティングシステムのバグ、ハードウェア障害) でデータの安全性が損なわれるおそれがあります。ハードディスクに大きな変更を加えるユーティリティを使用する前に、データをバックアップしてください。

PartitionMagic は、ウィルス検出ソフトウェアや GoBack® のようなバックアップソフトウェアなど、ほかの低レベルのディスクユーティリティが動作している間は実行できません。PartitionMagic を起動する前にそのようなユーティリティをすべて終了してください。

PartitionMagic を実行する前にディスクのチェックを実行することをお奨めします。これを実行すれば、問題を避けることに役立ちます。

実行するバージョンの PartitionMagic が動作中のオペレーティングシステム (と可能なら Service Pack) でサポートされていることを確認してください。4 ページの「PartitionMagic のシステム可動条件」を参照してください。

PartitionMagicの実行

重要： PartitionMagic は圧縮されていないローカルドライブから起動する必要があります。PartitionMagicをネットワークドライブから起動することはできません。

PartitionMagic は、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0 Workstation、または Windows 2000 Professional 上で起動できます。その他のオペレーティングシステム上では、緊急用ディスクから PartitionMagic を起動しなければなりません。

実行場所	操作手順
Windows の [スタート] メニュー	[スタート] → [プログラム] → [PowerQuest PartitionMagic 7.0] → [PartitionMagic 7.0] をクリックします。
Windows エクスプローラ	Windows で [スタート] → [プログラム] → [エクスプローラ] をクリックします。次に、任意のドライブオブジェクトを右クリックし、[PartitionMagic 7.0] をクリックします。
マイコンピュータ	[マイコンピュータ] アイコンを右クリックし、[PartitionMagic 7.0] をクリックします。

緊急用ディスクによる PartitionMagic の起動

1 枚目の緊急用ディスクからコンピュータを起動すると、PQMAGIC が自動的に実行されます。指示があれば、2 枚目の緊急用ディスクを挿入します。

緊急用ディスクの作成は、緊急用ディスクを作成するのに役立つウィザードです。このディスクは、コンピュータを起動して DOS 用の PartitionMagic (PQMAGIC) を実行するために使用されます。

準備

緊急用ディスクから PartitionMagic を起動する前に、次の点を確認してください。

- サードパーティのディスクキャッシュは使用しないでください。
- 変更するパーティションにアクセスしたり変更を加えたりする TSR (終了後常駐) プログラムは無効にするかアンロードしてください。

ハイバネーション状態にある Windows 2000 Professional、Windows XP Professional、または Windows Me マシン上で PartitionMagic を起動することはできません。緊急用ディスクまたは Windows 用 PartitionMagic を使用するには、Windows 2000、Windows XP、または Windows Me を正常にシャットダウンしておく必要があります。

緊急用ディスクの制約

緊急用ディスクから PartitionMagic を起動する場合は、以下の機能は使用できません。

- リモートエージェント (回線接続) (Pro 版のみ)
- パーティションの分割
- パーティションの完全消去
- 最後の変更を元に戻す
- ウィザード

起動シーケンスにネットワーク、SCSI、CD-ROM ドライバなどを追加することにより 1 枚目の緊急用ディスクの容量が足りなくなる場合は、chkdsk.com、fdisk.exe、ptedit.exe、および partinfo.exe をディスクから削除できます。これらのファイルはこの順番で削除し、追加ファイルを収めるのに必要な領域だけを確保することをお奨めします。これらのファイルは PartitionMagic CD の [UTILITY] フォルダに含まれており、後で必要になればそこから読み込むことが可能です。

国際キーボードまたは国際文字セットを使用している場合は、緊急用ディスクの AUTOEXE2.BAT および CONFIG.SYS ファイルを変更する必要があります。

PartitionMagic の緊急用ディスクを使用して NTFS パーティションを診断すると、通常より大幅に時間がかかる場合があります。PartitionMagic では、移動、コピー、およびサイズ変更の操作の前後に診断を実行するため、PartitionMagic の緊急ディスク版でこれらの操作を実行すると、Windows 版を使用する場合より処理速度が低下する可能性があります。

コマンドラインスイッチ

次のコマンドラインオプションは、特に断りがない限り、Windows 版と DOS (緊急用ディスク) 版の PartitionMagic でサポートされます。複数のオプションを指定する場合、その順序は重要ではありません。

PartitionMagic Pro が提供する追加のコマンドラインスイッチの一覧については、93 ページの「コマンドラインスイッチ」を参照してください。

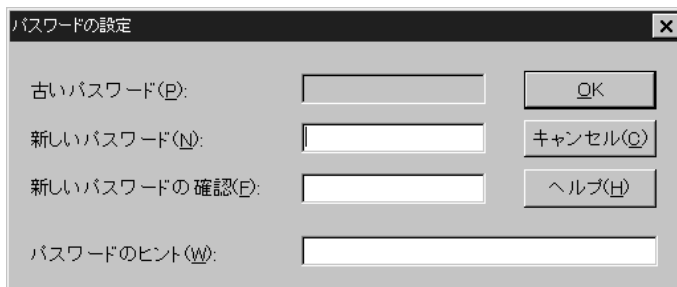
スイッチ	説明
/?	実行するバージョンの PartitionMagic で使用するすべてのコマンドラインオプションスイッチを表示します。
/CAS	パーティション内のすべてのセクタをコピーします。
/CBS	すべての不良セクタを診断します。
/CEC	拡張シリンダを診断します。
/DBG	デバッグメッセージを有効にします。
/IFC	ファイルシステムの診断を無視します。

スイッチ	説明
/I24	1024 シリンダ境界を無視します。
/MUP	不明な種類のパーティションを移動できます。
/NBS	不良セクタの診断を無効にします。 PartitionMagic Pro では、 Set Default Bad Sector Test State コマンドが同じ機能を実行します。
/NRB	PartitionMagic に対して、プログラムの終了後に再起動しないように指示します。
/NSS	スプラッシュ画面を表示しません。
/PQB	<p>バッチファイルを強制的に指定した場所にします。起動モードでいくつかの操作を実行する必要があるとき、PartitionMagic ではバッチファイルを作成します。</p> <p>構文：PQMAGIC /PQB=C:¥</p> <p>ここで、C: はバッチファイルを保存する場所です。</p>
/RAV	PartitionMagic に対して、ディスクへの書き込み内容をすべて読み込んで検証するように伝えます。このオプションを有効にすると処理時間が長くなりますが、処理操作結果は正確です。
/UVM	PartitionMagic に対して、仮想メモリを使用するように伝えます。
/WFS	すべてのパーティションの削除後に最初のセクタの内容を消去します。

PartitionMagic のパスワードの設定

PartitionMagic for Windows が起動する前に入力するパスワードを割り当てることができます。

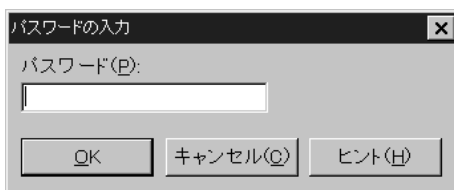
1. [一般]→[パスワードの設定]をクリックします。
[パスワードの設定] ダイアログボックスが表示されます。



2. 新しいパスワードを入力して、Tab キーを押します。
3. 確認のためにパスワードをもう一度入力して、Tab キーを押します。
4. (必要に応じて) ヒントを追加します。
5. [OK] をクリックします。

パスワードの入力

PartitionMagic を起動したときに、パスワードが割り当てられていると、[パスワードの入力] ダイアログボックスが表示されます。



1. PartitionMagic に割り当てられているパスワードを入力します。
パスワードを忘れたときは、[ヒント] をクリックすると手がかりが表示されます。
2. [OK] をクリックします。

パスワードの変更

1. [一般]→[最後の変更を元に戻す]をクリックします。
2. 変更前のパスワードを入力して、Tab キーを押します。
3. 新しいパスワードを入力して、Tab キーを押します。
パスワード保護を解除するためには、新しいパスワードのフィールドを空白のままにしておきます。
4. 確認のためにパスワードをもう一度入力して、Tab キーを押します。
5. (必要に応じて) ヒントを変更します。
6. [OK]をクリックします。

PartitionMagic Pro のみが提供する機能

PartitionMagic Pro では、PartitionMagic の市販版が提供する機能のほかに次の機能があります。PartitionMagic の市販版を使用している場合は、PartitionMagic Pro の専用機能に関する記述は無視する必要があります。

- スクリプト処理 (Pro 版のみ)
- 回線接続 (リモートエージェント、Boot Disk Builder など)

PartitionMagic のアンインストール

1. Windows のタスクバーから [スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。
2. [アプリケーションの追加と削除]をダブルクリックして、[PartitionMagic 7.0]を選択します。
3. [追加と削除]をクリックします。

第 2 章

PartitionMagic の基本事項

この章で説明する内容は次のとおりです。

- PartitionMagic のメインウィンドウ
- 緊急用ディスクのメインウィンドウ
- 手順の概要
- ハードディスクの選択
- パーティションの選択
- 操作項目の選択
- 操作を元に戻す
- 未実行の操作の表示
- システムへの変更設定の適用
- サポートされるファイルシステム
- PartitionMagic のプログラム設定項目の変更
- ハードドライブのデフラグの実行
- ヘルプの表示

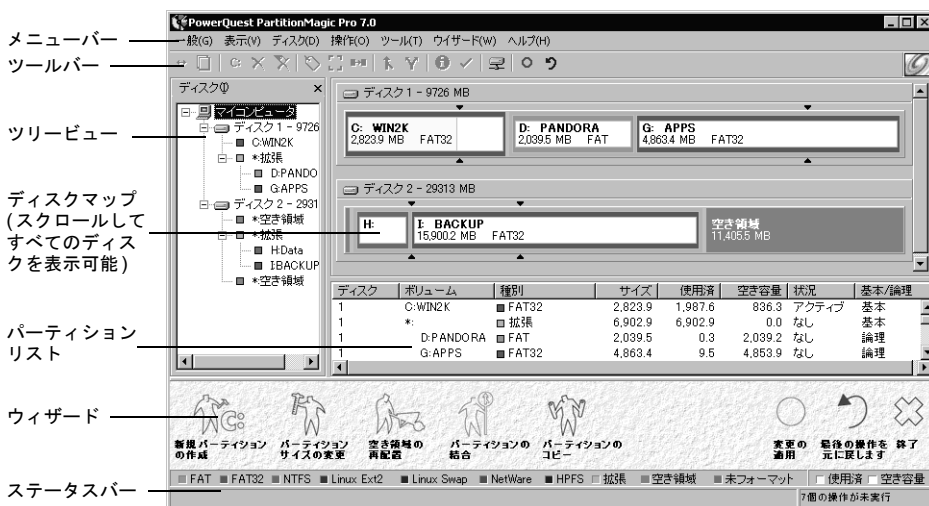
PartitionMagicのメインウィンドウ

メインウィンドウには、コンピュータ上のディスクがエクスプローラ型のツリービューに表示されます。また、各ディスクのマップ、および選択されたディスクのパーティションのリストも表示されます。

画面の上部にはメニューバーとツールバーが表示されます。メニューバーを使用して、PartitionMagicのすべての機能にアクセスできます。メニューコマンドを選択すると、画面下部のステータスバーにそのコマンドの機能が表示されます。ツールバーを使用すれば、頻繁に使用するオプション機能にすばやくアクセスできます。ツールバーのボタンにポインタを置くと、そのボタンの機能がステータスバーに表示されます。

[表示] メニューのコマンドをクリックすることにより、ツールバー、ツリービュー、ウィザードボタン、凡例の表示/非表示、およびディスクマップの拡大縮小を、切り替えることができます。

PartitionMagicを緊急用ディスクから起動した場合には、メインウィンドウの外観が異なります。16ページの「緊急用ディスクのメインウィンドウ」を参照してください。



パーティション情報

パーティション情報の領域には、選択したハードディスクのパーティションに関する情報が表示されます。この領域は、情報をグラフィカルに表示するディスクマップと、パーティション情報をテキストで表示するパーティションリストの2つの領域から構成されます。

ディスクマップ

ディスクマップでは、パーティションをほぼ一定の比率で拡大または縮小表示し、空き領域(パーティションに割り当てられていない領域)も表示します。**[表示]→[ディスクマップの拡大縮小]**をクリックすれば、ディスクを拡大または縮小表示することもできます。各パーティションは、使用しているファイルシステムによって色分けされています。選択したハードディスクに論理パーティションがある場合は、拡張パーティション内に論理パーティションが表示されます。

各パーティションはファイルシステム別に色分けされ、パーティション内の使用済み領域および未使用領域も色分けされています。白色(未フォーマット)または黄色(不明)のパーティションに対しては、操作が制限されています。**PartitionMagic** ウィンドウの下部にあるステータスバーのすぐ上に、凡例が表示されます。この凡例で、ツリービュー、ディスクマップ、パーティションリストで使用されている各種の色について理解できます。凡例は表示または非表示にもできます。凡例を非表示にすると、パーティション情報の表示領域が広くなります。

2GB 起動領域および 1024 シリンダ制限をマークする三角形のインジケータがあります。領域マーカーは、誤って基本パーティションを起動不可能にすることのないように、パーティションを作成、移動、またはサイズ変更するときに役に立ちます。起動領域の詳細については、**PartitionMagic** オンラインヘルプの「**BIOS の 1024 シリンダ制限について**」および「**2GB 起動領域について**」を参照してください。

パーティションリスト

パーティションリストは、各パーティションの以下の情報を表示します。ドライブレター、ボリュームラベル、ファイルシステムの種類、サイズ、使用領域と未使用領域の値(メガバイト)、ステータス、パーティションが基本パーティションであるか論理パーティションであるか。

基本パーティションのドライブレターは、左寄せで表示され、その後にコロンとボリューム名が示されます。論理パーティションのドライブレターとボリュームラベルはインデントされて表示されます。以下のパーティションについては、ドライブレターとしてアスタリスク(*)が表示されます。

- 非表示のパーティション
- 拡張パーティション
- アクティブなオペレーティングシステムによってサポートされていないファイルシステムのパーティション
- 空き領域

パーティションには、以下のパーティション状況が定義されています。

- **アクティブ**：コンピュータの起動に使用されるパーティション
- **非表示**：ドライブレターを持たないパーティション。パーティションは、オペレーティングシステム、または**PartitionMagic**を使って非表示にすることができます。オペレーティングシステムを使用した場合は、アクティブパーティションを除くすべての基本パーティションが非表示になります。**Windows 2000/XP Professional**上では、非表示パーティションがドライブレターを持つことができます。
- **なし**：アクティブでも非表示でもないパーティション

ウィザード

いくつかの一般的なパーティション操作をすばやく簡単に行えるようにするために、**PartitionMagic**には次のウィザードが用意されています。

- 新規パーティションの作成
- 空き領域の再配置
- パーティションのサイズ変更
- パーティションの結合
- パーティションのコピー

ウィザードを起動するには、ウィザードのアイコンをクリックするか、**[ウィザード]**メニューのコマンドを選択します。ウィザードの使用法の詳細については、82ページの「概要」を参照してください。

緊急用ディスクから**PartitionMagic**を実行した場合は、ウィザードを使用できません。

緊急用ディスクのメインウィンドウ

PartitionMagicを緊急用ディスクから起動したときに表示されるメイン画面は、**Windows**から起動したときとは異なります。

- **メニューバー** — **PartitionMagic**のすべての機能にアクセスできます。
- **ツールバー** — 頻繁に使用するオプション機能にすばやくアクセスでき、どのディスク上で操作したいかを選択できます。
- **パーティション情報** — ディスク上のパーティションがグラフとテキストの両方で表示されます。
- **ステータスバー** — 保留中の処理数と、現在選択されているオプション機能の概略が表示されます。



手順の概要

作業を実行する場合は、次の一般的な手順に従います。

1. ハードディスクおよびパーティションを選択します。

ハードディスクおよびパーティションを選択する手順については、この章で説明しています。PartitionMagicで操作を行うときには、まずこの手順を実行しなければなりません。

2. 操作を選択し、実行したい変更内容に関する詳しい情報を入力します。
3. システムに変更を適用します。

ウィザードを使用して行える作業もあります。ウィザードの詳細については、82ページの「概要」を参照してください。

ハードディスクの選択

ハードディスクを選択するには3つの方法があります。

- メインウィンドウの左側にあるツリービューで、ディスクのアイコンをクリックします。
- ディスクマップで、ディスクのタイトルバーをクリックします。コンピュータに複数のハードディスクがある場合は、必要に応じてディスクマップ領域をスクロールします。
- **[ディスク]**メニューからディスクを選択します。

ディスクを選択すると、そのディスク上のパーティションがメインウィンドウのパーティションリストに表示されます。

PartitionMagic は、Windows で外部USB ハードドライブをサポートします。

リムーバブルメディアでの PartitionMagic の使用

PartitionMagic は、リムーバブルディスクでの使用を考慮していません。ネットジャパン テクニカルサポートでは、リムーバブルメディアにパーティション操作を行ったときに発生した問題に対しては、その解決策を提供していません。

Windows 2000 ディスク

Windows 2000 では、基本ディスクとダイナミックディスクを使用します。ダイナミックディスクに対しては、PartitionMagic を実行することはできません。

パーティションの選択

パーティションを選択するには3つの方法があります。

- メインウィンドウの左側にあるツリービューで、パーティションをクリックします。ツリービューが表示されていない場合は、**[表示]**→**[ツリービュー]**をクリックします。
- ディスクマップ上でパーティションをクリックします。コンピュータに複数のハードディスクがある場合は、必要に応じてディスクマップ領域をスクロールします。
- パーティションリストでパーティションをクリックします。

選択されたパーティションはパーティションリスト上で強調表示されます。

(PartitionMagic Pro のみ) リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションを選択できます。85 ページの「PartitionMagic Pro の機能」を参照してください。

操作項目の選択


ディスクとパーティションを選択した後、ツールバー、コンテキストメニュー、メニューバー、またはキーボードを使用して操作項目を選択できます。選択したパーティションに対して操作を実行できない場合は、その操作項目は使用不可能になります(メニュー項目が淡色表示になります)。

- ツールバーのいずれかの操作項目ボタンをクリックします。
ツールバーのボタンにポインタを移動すると、ボタンの機能を説明するポップアップウィンドウが表示されます。
- ディスクマップまたはパーティションリストで、変更するパーティションを右クリックし、表示されたコンテキストメニュー上の操作項目をクリックします。
- メニューバーで、**[操作]**をクリックし、目的の操作項目を選択します。
- **Alt+O**を押し、目的の操作項目のショートカット文字(下線付きの文字)を入力します。

[操作]メニューの項目については、本書の第3章、第4章、および第5章を参照してください。

操作を元に戻す

最後に行った操作を元に戻すには、3つの方法があります。

- ツールバーの  をクリックします。
- **[一般]→[最後の変更を元に戻す]**をクリックします。
- **Ctrl+Z**を押します。

ウィザードを使用して操作を行った場合は、**[最後の変更を元に戻す]**を選択すると、ウィザードが実行したすべての変更が元に戻ります。

実行したすべての変更を破棄して最初からやり直す場合は、**[一般]→[すべての変更の破棄]**をクリックするか、**Ctrl+D**を押します。

未実行の操作の表示

PartitionMagic に対する操作は、ユーザーが適用するまでキューに保持されています。未実行の操作は、いつでも表示することができます。

1. [表示]→[未実行操作の表示]をクリックします。

[現時点で未実行の操作] ダイアログボックスが表示されます。




未実行の操作のリストから、最後の変更を元に戻したり、すべての変更を破棄したり、すべての変更を適用したり、ウィンドウを閉じたりできます。

PartitionMagic を緊急用ディスクから実行している場合は、このウィンドウから未実行の操作に変更を加えることはできません。

システムへの変更設定の適用

[操作]メニューを使用してタスクを実行すると、変更した内容がディスクマップとパーティションリストに反映されます。ただし、変更を実際に適用するまでシステムには反映されません。いくつかの操作を行ってすべての変更内容を一度に適用することができます。

設定が変更されただけでシステムには反映されていない場合は、メインウィンドウの右下隅のステータスボックスに処理が待機中であることが表示されます。ウィザードアイコンが表示されていて未実行の操作がある場合、[変更の適用]アイコンと[最後の変更を元に戻す]アイコンがウィンドウの下部に表示されます。

システムに変更を加えるには、[一般]→[変更の適用]をクリックするか、またはツールバーの  をクリックします。ウィザードアイコンが表示されている場合は、ウィンドウの下部の[変更の適用]アイコンをクリックすることもできます。開いているファイルがあると、PartitionMagicは場合により、コンピュータを再起動して起動モードで変更を適用する必要があります。

[変更の適用]→[初期起動]をクリックすると、適用される操作のリストを表示できます。

変更を破棄して最初からやり直す場合は、[一般]→[すべての変更の破棄]をクリックします。一部のパーティションは削除しても元に戻すことができますが、それ以外の変更は、一度適用すると元に戻せません。

サポートされるファイルシステム

PartitionMagicでは、次のパーティション種別を作成、変更できます。変更を加える前に、パーティション種別とマシン上のオペレーティングシステムがPartitionMagicでサポートされていることを確認します。

パーティション 種別	説明
拡張	1台のディスクに作成できるパーティションの最大数は4つですが、拡張パーティションでは4つ以上のパーティションを作成することができます。拡張パーティション内に論理パーティションを作成し、ディスク領域をさらに分割して格納することができます。拡張パーティションに直接データを保存することはできません。データを格納するには、拡張パーティションの内部に論理パーティションを作成する必要があります。
拡張X	拡張Xパーティションの機能は拡張パーティションと似ていますが、ドライブの最初の1024シリンダの制限がありません。ただし一部のオペレーティングシステムでは、認識されません。 2.2以前のLinuxカーネルでは、拡張Xパーティションをサポートしていません。
FAT	ファイルアロケーションテーブル(FAT)とクラスタを使用します。FATファイルシステムはDOS、Windows 3.x、およびほとんどのWindows 95で使用されています。FATパーティションには、新型のオペレーティングシステムのいずれからでもアクセスできます。
FAT16x	FAT16xは、Microsoft社によって開発された独自のファイルシステムであり、1024シリンダの制限を超えて、最大8GBまでのFATパーティションを作成することができます。

パーティション 種別	説明
FAT32	<p>FAT32はFATファイルシステムの拡張版です。FATシステムではファイルアロケーションテーブルに16ビットエントリが使用されますが、FAT32では32ビットエントリが使用されます。このため、サイズの大きいディスクやパーティション(最大2テラバイト)に対応できます。FAT32パーティションの最小サイズは256MBです。</p> <p>FAT32パーティションにアクセスできるのは、Windows 95 OSR2 (バージョン4.00.950B以降)、Windows 98、Windows Me、およびWindows 2000のみです。DOS、Windows 3.x、Windows NT 3.51/4.0、および古いバージョンのWindows 95では、FAT32が認識されないため、FAT32パーティション上のファイルは使用できません。</p>
FAT32x	<p>FAT32xは、Microsoft社によって開発された独自のファイルシステムであり、1024シリンダの制限を超えて、FAT32パーティションを作成することができます。Windows 95 OSR2とそれ以降のバージョンのWindowsは、FAT32xパーティションを使用できます。</p>
Linux Ext2	<p>Linux Ext2ファイルシステムにアクセスできるのは、UNIXのフリーウェアバージョンであるLinuxのみです。このファイルシステムでは、最大4テラバイトまでのパーティションがサポートされます。</p>
Linux Swap (Linuxスワップ)	<p>Linuxスワップファイルを格納します。使用可能なLinuxスワップファイルの最大値は128MBです。ただし、バージョン2.2.x以降のLinux Kernelを使用している場合は、この制限は適用されません。ハードディスクの物理ジオメトリにより、Linuxのスワップパーティションを作成するときに表示されるデフォルトサイズが、やや大きい値を示す場合があります。</p>
NTFS	<p>ニューテクノロジーファイルシステム(NTFS)にアクセスできるのは、Windows NTおよびWindows 2000のみです。NTFSはシステム構造に大きな領域を使用するため、400MB未満のディスク上では使用しないでください。</p>
未フォーマット	<p>Unformatted (未フォーマット)パーティションではディスク領域は確保されますが、ファイル構造は作成されていません。</p>
空き領域	<p>空き領域とは、現在どのパーティションにも割り当てられていないハードディスク領域のことです。</p>

PartitionMagic のプログラム設定項目の変更

1. メインウィンドウで、[一般]→[環境設定]をクリックします。

有効な設定項目の横にはチェックマークが表示されます。

現在のオペレーティングシステムがFAT32パーティションをサポートしているかどうかを示します。



2. チェックボックスをクリックして設定項目の有効/無効を切り替え、[OK]をクリックします。

Windows NT/2000/XP 用 64K FAT クラスタを使用可能にする

この設定を有効にすると、64KBのクラスタでFATパーティションを作成し、PartitionMagicで最大4GBのFATパーティションを作成できるようになります。

重要： DOS、Windows 3.x、Windows 95、Windows 98、およびWindows Meでは、32Kを超えるクラスタサイズをサポートしていないため、これらのオペレーティングシステムでは64Kクラスタのパーティションにアクセスできません。64Kパーティションは、Windows NT/2000/XPだけで使用できます。複数のオペレーティングシステムを使用している場合、PowerQuestでは64Kクラスタの使用はお奨めしません。

有効な場合、[パーティションのサイズ変更/移動]ダイアログボックスと[クラスタサイズの変更]ダイアログボックスで、64KBのクラスタサイズが選択できます。

FAT上のOS/2 EAエラーを無視する

この設定項目は、PartitionMagicがFATパーティションを診断するときにOS/2の拡張属性エラーを無視するかどうかを指定します。

警告： OS/2を使用している場合は、この設定を有効にしないでください。問題が検出されないためにデータが失われる可能性があります。

不良セクタ診断を省略する

PartitionMagic では、パーティションの変更時に、ハードディスク上に不良セクタがないかどうかを詳しく検査します。ただし、拡張 IDE や SCSI など、新しいタイプのハードディスクでは、不良セクタは内部的に処理されるため、このような検査は必要ありません。このため、PartitionMagic では、**[不良セクタ診断を省略する]** でこれらの検査を省略できるようになっています。この設定が有効な場合、**[サイズ変更/移動]**、**[作成]**、**[コピー]**、**[フォーマット]** などの処理速度が速くなります。

警告： 不良セクタの診断を省略しているときにハードディスクに不良セクタがあると、データが失われる場合があります。

不良セクタの診断はデフォルトでオンになっています。この設定は、各ハードディスクに対して個別に設定できます。古いディスクと新しいディスクを併用している場合、古いディスクに対して診断を実行し、新しいディスクでは診断を省略することもできます。ディスクの横に表示されているチェックマークは、このディスクに対する診断が省略されることを表します。

ハードディスクの保護設定をする

この設定では、PartitionMagic によって変更されないようにハードディスクを保護することができます。この設定は、各ハードディスクに対して個別に設定できます。

この設定の適用方法にはいくつかの例外があります。

- ディスクに起動パーティションがある場合、Windows NT の起動初期設定 (BOOT.INI) ファイルなどのいくつかのファイルが変更されます。
- 自動的に DriveMapper を実行するように設定している場合、初期設定ファイルやショートカットファイルなどのいくつかのファイルが変更されます。

ハードドライブのデフラグの実行

ハードドライブのデフラグを実行すると、ファイルが連続的に編成されてデータ記憶域が最適化されます。PartitionMagic for Windows 内で Windows のデフラグ・プログラムを実行できます。ディスクマップ内のパーティションを右クリックして、メニューから **[Windows 上のデフラグを実行]** を選択します。PartitionMagic をロックして、デフラグ・プログラムを実行します。ディスクの断片化を修復してデフラグ・プログラムが終了すると、PartitionMagic はロックを解除して処理を続行します。

ヘルプの表示

PartitionMagic のヘルプでは、特定の作業の段階的な操作手順だけでなく、各機能に関する詳しい情報を提供しています。

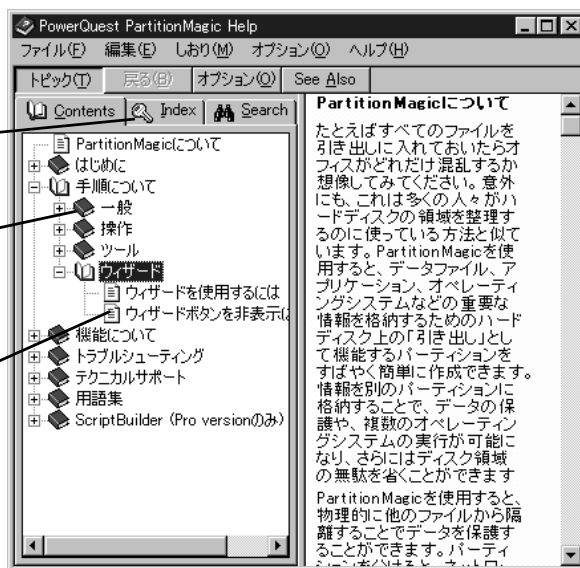
ヘルプを表示するには、PartitionMagic のメインウィンドウでメニューバーの[ヘルプ]→[目次]をクリックします。

PowerQuest PartitionMagic ヘルプは、いくつかのブックおよびページから構成されています。

[トピック一覧]タブ(鍵のマーク)により情報を検索します。

本をダブルクリックすると、ブック内のページを表示できます。

ページをダブルクリックすると、そのページを読むことができます。



各ブックはPartitionMagic の特定の側面に焦点を絞っているため、必要な情報をすばやく探すことができます。トピックをダブルクリックすると、右側のウィンドウに情報が表示されます。

鍵のマークの付いたタブをクリックすると、キーワードを使ってトピックを検索することができます。

コンテキストヘルプ

ダイアログの右下にある[ヘルプ]をクリックすると、ダイアログのコンテキストに応じたヘルプを開くことができます。ウィザードのダイアログで[ヒント]をクリックすると、ウィザードが実行している処理に関する情報が表示されます。

README ファイル

README.TXT ファイルには、このマニュアルの執筆後に変更された情報、マニュアルやヘルプシステムの訂正事項、およびインストールや環境設定に関する情報が説明されています。

第 3 章

パーティションの管理

この章で説明する内容は次のとおりです。

- ディスク状態の診断
- パーティションのサイズ変更と移動
- パーティションの作成
- パーティションの削除
- パーティションの削除を元に戻す
- パーティションラベルの変更
- パーティションの初期化
- パーティションのコピー
- パーティションのエラー診断
- パーティションの結合
- パーティションの分割
- パーティション情報の表示
- ディスクエラーのスキャン

ディスク状態の診断

PartitionMagic は、プログラムの起動時および操作の完了時に毎回優れた分析と検証システムをバックグラウンドで実行し、ディスクの状態を診断します。最初の診断では、ディスクがスキャンされます。このとき、PartitionMagic の正常な動作を妨げる可能性のあるパーティションの問題があると、報告されます。この診断は、事前に警告システムとして働き、ディスクの状態がユーザーに通知されます。また、変更前にディスクの構造を詳細に分析し、検証します。

使用している物理ディスクが最初の状態の診断に合格すると、ディスクのパーティションを選択して、そのパーティションに対して PartitionMagic のオプション機能を実行することができます。問題が発見されると、パーティションリストの代わりにエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージはディスクに対して変更が加えられる前に表示されるため、示されるのは PartitionMagic による問題ではなく、使用中のディスクに関する問題です。PartitionMagic が自動的に修復可能なエラーを検出すると、ユーザーに通知されます。修復を指示すると、PartitionMagic が安全にエラーを修復します。ディスクの問題を解決してから、PartitionMagic を再起動してください。詳細については、124 ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」を参照してください。

起動時の状態の診断のほか、PartitionMagic は、処理中に次の 2 つの状態の診断を実行します。1 つは操作を開始する前に行われ、パーティション内のファイルシステムの状態を診断します。これは CHKDSK や ScanDisk と同様です。もう 1 つの診断は操作の完了後に行われ、ディスク上のデータを検査します。PartitionMagic は操作の開始から完了までの間ディスクの状態を監視し、何らかの異常を発見するとすぐにユーザーに通知します。

パーティションのサイズ変更と移動

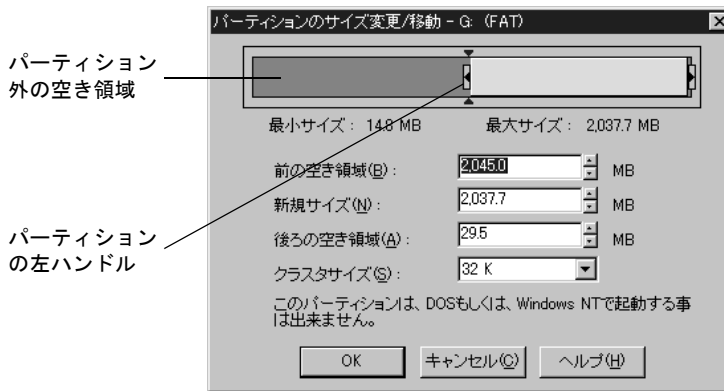
[サイズ変更/移動] を使用して、パーティションのサイズを変更したり、パーティションをハードディスク内の別の位置へ移動できます。

1. サイズ変更または移動するパーティションを選択します。

ディスクアドミニストレータで作成された Windows NT のボリュームセットやパーティ付きストライプセットを移動することはできません。

2. [操作]→[サイズ変更/移動] をクリックします。

[パーティションのサイズ変更/移動] ダイアログボックスが表示されます。



ダイアログボックスの上部にあるディスクマップには、現在のパーティションのサイズが表示されます。ここには、パーティションの使用済み容量と空き容量、およびパーティションに隣接する空き領域(ある場合)もグラフ表示されます。パーティションマップの下には、変更可能なサイズ範囲(最小値と最大値)が表示されます。

3. パーティションをサイズ変更するのか移動するのかを選択します。

オプション操作 操作手順 の種類

移動

1. パーティションにポインタを置きます。

ポインタがに変化します。

2. パーティションを任意の位置にドラッグします。

パーティションを移動するには、隣接する空き領域が必要です。隣接する空き領域がなく、パーティションに未使用領域がある場合は、パーティションを縮小してから移動します。

また、不明なパーティション、[エラー診断]処理で障害が検出されたパーティション(詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」を参照)、および空き領域は移動できません。

移動(続き)

Windows NT Workstation (Service Pack 4 以上) のシステムパーティションは4GBを超えて移動することはできません。4GBを超えて移動すると Windows NT Workstation が起動できなくなります。

重要： 起動パーティションを移動する場合は注意が必要です。ある一定の範囲を超えて移動されたオペレーティングシステムは起動できなくなります。詳細については、37ページの「起動可能なパーティションを作成する」を参照してください。

サイズ変更

1. パーティションの左または右ハンドルにポインタを置きます。
ポインタが \longleftrightarrow に変化します。
2. パーティションが必要なサイズになるまでハンドルをドラッグします。

また、[前の空き領域]、[新規サイズ]、および[後ろの空き領域]ボックスに新しい値を入力したり、ボックスの横の矢印ボタンをクリックして、パーティションのサイズを変更することもできます。入力した値は、ドライブのジオメトリに応じて修正される場合があります。矢印ボタンを使用すると、パーティションのサイズを最小の変更幅で変更できるので、サイズを微調整できます。変更はディスクマップに反映されます。

パーティションを小さくするには、パーティションに未使用領域が必要です。パーティションを大きくする場合は、パーティションの隣に空き領域が必要です。パーティションのサイズ変更の詳細については、後の「パーティションのサイズ変更に関する注意」を参照してください。

重要： (Windows NT のみ) NTFS のシステムパーティションを 7.8GB を超えるサイズに変更すると、Windows NT Workstation が起動できなくなる場合があります。NTFS システムのパーティションを誤ってこの制限値を超えるサイズに変更してしまった場合は、PartitionMagic 緊急用ディスクを使って NTFS システムのパーティションを 7.8GB 以下にサイズ変更することにより、システムを復旧できます。

ディスクに不良セクタがないことがわかっている場合は、[環境設定]の[不良セクタ診断を省略する]を選択するとサイズ変更と移動の動作が高速になります。

4. (必要に応じて)[**クラスタサイズ**]ドロップダウンリストをクリックして新しいサイズを選択するか、既に選択済みの推奨クラスタサイズを使用します。

[**前の空き領域**]、[**新しいサイズ**]、および[**後ろの空き領域**]の値が変更され、パーティションのサイズがどのように変化するかを確認できます。

このオプションは、FATおよびFAT32パーティションに対してのみ使用できます。詳細については、68 ページの「クラスタサイズの変更」を参照してください。

5. [OK]をクリックします。

パーティションのサイズ変更に関する注意

パーティションのサイズ変更はデータをまとめるだけであり、圧縮するわけではありません。パーティションを小さくするには、パーティションに未使用領域が必要です。パーティションを大きくするには、パーティションの隣に空き領域が必要です。ディスク上に空き領域があっても、拡張したいパーティションに隣接していない場合は、他のパーティションを移動して領域の位置を調整します。

重要： パーティションのサイズを小さくする場合、そこにオペレーティングシステムが含まれているときは、特に注意が必要です。オペレーティングシステムで必要とするサイズに加えて 50MB 以上の領域をパーティション内に残してください。スワップファイル、ドライバ、その他のファイルのために、更に領域が必要になる場合もあります。また、ある一定の範囲を超えて移動された場合オペレーティングシステムが起動できなくなることもあります。詳細については、37 ページの「起動可能なパーティションを作成する」を参照してください。

FAT パーティションや FAT32 パーティションを縮小すると、ハードディスク上の浪費領域を減らすことができます。FAT パーティションや FAT32 パーティションのサイズを変更すると、クラスタも最適なサイズに自動的に変更されます。詳細については、68 ページの「クラスタサイズの変更」を参照してください。

パーティションのサイズを変更する際には、以下の制限に注意してください。

- パーティション内に空き容量がない場合、パーティションを縮小することはできません。縮小できるのは、ディスクマップに示される使用済みサイズに小さなバッファ領域を加えたサイズまでです。[**サイズ変更/移動**]操作を行うと、必要に応じてデータはパーティションの前方にまとめられますが、圧縮は行われません。FAT パーティションの構造上、多くの場合はパーティションをもう一度サイズ変更して、最初のサイズ変更のときよりも更に小さいサイズや大きいサイズに変更することができます。
- 場合によって、パーティションに空き容量が含まれないと FAT パーティションを大きくできないこともあります。完全なパーティションがあり、それに隣接した空き領域が豊富にあるにもかかわらずパーティションを拡張できない場合は、パーティション内のファイルをいくつか削除して PartitionMagic の作業用領域を確保する必要があるかもしれません。まず少しだけ (1MB 以下) パーティションを拡張し、PartitionMagic に必要なバッファ領域を確保することで、パーティションを拡張できるようになりま

す。クラスタ境界を越えてパーティションをサイズ変更するためにどのくらいの領域が必要かについては、ヘルプの「FATパーティションを拡張する前にディスク領域を解放する」にある表を参照してください。

- NTFSパーティションのサイズを変更する場合に、事前に最小サイズを算出するのは困難です。サイズ変更中またはNTFSパーティションの移動中にPartitionMagicで領域が不足すると、PartitionMagicは処理の途中でエラーを返します。NTFSパーティションとデータの整合性に影響はありません。
- FATパーティションは2GBまでのサイズ制限があります。ただし、Windows NT (Service Pack 4以上) または Windows 2000/XP でのFATパーティションは4GBまで拡張可能であり、さらに64KBのクラスタサイズを持ちます。

シナリオ 1：論理パーティションへの空き領域の追加

このシナリオでは、論理パーティションに領域を追加する手順を示しています。パーティションサイズの変更ウィザードを使っても同じことを行えます。

構成例

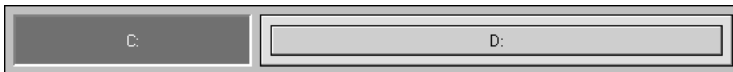
以下のパーティションを含む1GBハードディスク1台

- Windows 98が動作するアクティブな基本FAT32パーティション1つ(C:)
- 1つの論理FATパーティション(D:)を含む拡張パーティション1つ



目的

ドライブC:のサイズを縮小し、新しく作成した空き領域をドライブD:に追加します。



手順

1. C:をサイズ変更して、D:に追加したい領域の分だけC:を縮小します。
C:のサイズを変更して右側に空き領域を作成します。
2. 作成した空き領域を含むようにD:を拡張します。
拡張パーティションはドライブD:が収まるように自動的に拡張されます。
3. システムに変更を適用します。

結果

ドライブ D: に追加ファイル用の領域が追加されます。

シナリオ 2：基本パーティションへの空き領域の追加

構成例

以下のパーティションを含む 4GB ハードディスク 1 台

- Windows 98 が動作するアクティブな基本 FAT32 パーティション 1 つ (C:)
- 非表示の基本 NTFS パーティション 1 つ
- 1 つの論理 FAT パーティション (D:) と空き領域のブロックとを含む拡張パーティション 1 つ



目的

空き領域のブロックを NTFS パーティションに追加します。



手順

1. ドライブ D: を右側に移動し、空き領域が左側に来るようにします。
2. 空き領域を含むように NTFS パーティションを拡張します。
拡張パーティションは新しい NTFS パーティションのサイズが収まるように自動的にサイズ変更されます。
3. システムに変更を適用します。

結果

NTFS パーティションに余裕ができ、ドライバやスワップファイルなどのオペレーティングシステムファイルを収容するのに十分な領域が確保されます。

パーティションの作成

基本パーティション、拡張パーティション、および論理パーティションの作成には、**[作成]**を使用します。

複数のハードディスクやパーティションがあるときは、実際の処理手順や利用可能なオプションが以下の説明と異なる場合があります。複雑なシステムでのパーティションの作成例については、このユーザーガイドの41 ページから始まるシナリオを参照してください。

1. 空き領域のブロックを選択します。

空き領域がない場合は、既存のパーティションをサイズ変更または削除して空き領域を作成する必要があります。パーティションのサイズ変更および削除の詳細については、28 ページの「パーティションのサイズ変更と移動」および44 ページの「パーティションの削除」を参照してください。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上にパーティションを作成できます。

1 台のハードディスクに作成できるパーティションの最大数は、基本パーティションだけの場合は4 つ作成できます。拡張パーティションを作成する場合は、基本パーティションを3 つ、拡張パーティションを1 つ作成できます。拡張パーティションの内部に論理パーティションを作成して、更に細かくパーティションを分割することもできます。

2. **[操作]**→**[作成]**をクリックします。

[パーティションの作成] ダイアログボックスが表示されます。



3. **[パーティション種別]** ドロップダウンリストから、**[論理パーティション]** または **[基本パーティション]** を選択します。

一般的には、オペレーティングシステムのインストール用に基本パーティションを作成し、データやアプリケーションの保存など、その他の用途に論理パーティションを作成します。複数のハードディスクを使用している場合は、オペレーティングシス

ムとアプリケーションを別々のディスクにインストールすると処理速度が速くなります。作成したいパーティションの種類がわからない場合は、ヘルプの「パーティションを理解する」を参照してください。

オペレーティングシステムをインストールする予定であれば、基本パーティションを作成します。詳細については、37 ページの「起動可能なパーティションを作成する」および38 ページの「新しいオペレーティングシステムのインストール」を参照してください。

[論理パーティション]を選択すると、自動的に拡張パーティションが作成され、その内部に論理パーティションが格納されます。既に拡張パーティションが存在する場合は、論理パーティションを格納できる大きさにサイズが拡張されます。ただし、この場合、拡張パーティションの内部または隣接した場所に空き領域が必要です。

ハードディスク上に基本パーティション(拡張パーティションを含む)が既に4つ作成されていると、**[論理パーティション]**は選択できません。また、既存の拡張パーティションの内部または隣接した場所にある空き領域を選択しなかった場合も、このオプションは選択できません。

物理ディスク上に第2、第3、または第4の基本パーティションを作成すると、PartitionMagic は新しい基本パーティションを表示パーティションとして作成します。ただし、アクティブパーティション設定を実行すると、アクティブにするパーティション以外の基本パーティションは自動的に非表示になります。

4. **[ファイルフォーマット]** ドロップダウンリストから、使用するファイルシステムを選択します。

[FAT] は最も一般的なファイルシステム種別です。これは DOS およびすべてのバージョンの Windows で使用されます。

[FAT32] は Windows 95 OSR2、Windows 98、Windows Me、Windows 2000、および Windows XP で使用されます。

[NTFS] は Windows NT、Windows 2000、Windows XP で使用されます。

[Linux Ext2] と **[Linux Swap]** は Linux でのみ使用されます。

[拡張] を選択すると拡張パーティションが作成されます。拡張パーティションには論理パーティションをいくつでも含むことができます。ハードディスクに既に拡張パーティションがある場合、または4つの基本パーティションがある場合は、**[拡張]** オプションは選択できません。

[未フォーマット] を選択すると、ハードドライブに未フォーマットパーティションが作成されます。

5. (必要に応じて)新しいパーティションのラベルを入力します。

ラベルには、NTFS パーティションでは32文字までの英数字、その他のファイルシステム種別では11文字までの英数字が使用できます。

6. **[サイズ]** ボックスに、作成するパーティションの容量を入力します。または、**[空き領域のパーセント]** ボックスに、作成するパーティションの空き領域の割合を入力します。

ディスク領域を効率よく使用できる推奨サイズが自動的に算出されます。この値をそのまま使用するか、別の値に変更します。

Windows NT 4.0 (Service Pack 4以上)のシステムパーティションを作成する場合、4GBを超えて作成することはできません。

7. 指定したサイズが利用可能な空き領域よりも小さい場合は、パーティションを空き領域の先頭または末端に配置できます(先頭を推奨)。**[位置]** ボックスで、**[空き領域の先頭]** または **[空き領域の末端]** をクリックします。
8. 再起動後に新しいパーティションに割り当てるドライブレターを **[ドライブレター]** ボックスに入力します。
9. **[OK]** をクリックします。

新しく作成した基本パーティションにオペレーティングシステムをインストールする場合は、38 ページの「新しいオペレーティングシステムのインストール」を参照してください。

警告： ハードウェアやシステムの環境設定の違いによって矛盾が生じることがあるため、1つのコンピュータにアプリケーションまたはオペレーティングシステムパーティションを作成した後でそのハードディスクを別のコンピュータに移すことは避けてください。データが失われる場合があります。

ドライブレターの変更の管理

新しいパーティションを作成するとドライブレターが変更される場合があります。たとえば、ハードドライブ上に1つの基本パーティション(C:)がありCD-ROMドライブが1つ(D:)あるときに、ハードドライブに新しい論理パーティションを作成すると、コンピュータの再起動後は新しいパーティションがD:となり、CD-ROMドライブがE:に変わります。その結果、ハードドライブ上のプログラムでCD-ROMにリンクされていたものは、ファイルのパスが変わってしまったため動作しなくなります。

そのような場合のために、DriveMapperを使ってアプリケーションのショートカット、初期設定ファイル、およびレジストリ項目におけるドライブレター参照を自動的に更新するように選択することをお勧めします。ただし、ドライブレター参照を手作業で更新してもかまいません。98 ページの「DriveMapperによるドライブレター参照の変更」を参照してください。

DriveMapperを使うことでファイルへの参照を更新することができますが、影響を最小限にするために、新しいパーティションはすべて一番大きい番号のディスク(3ディスクシステムであればディスク3)に作成し、既存のパーティションの右側に作成するように心がけてください。

起動可能なパーティションを作成する

オペレーティングシステムのインストール先パーティション(起動可能なパーティション)を作成する場合は、事前に次の内容を理解しておく必要があります。

オペレーティングシステム	起動する場所	サポートされるパーティション種別	起動コード境界	必要な領域
DOS 6.22 以前	基本	FAT	2GB	16MB
Windows 95A	基本	FAT	2GB	180MB
Windows 95B	基本	FAT または FAT32	8GB	180MB
Windows 98	基本	FAT または FAT32	8GB	390MB
Windows 98 SE	基本	FAT または FAT32	8GB**	390MB
Windows Me	基本	FAT または FAT32	8GB**	685MB
Windows NT	基本 *	FAT または NTFS	2GB	230MB
Windows 2000	基本 *	FAT、FAT32、 または NTFS	8GB**	1GB
Windows XP	基本 *	FAT、FAT32、 または NTFS	8GB**	1GB より大
Linux (LILO***)	基本または論理	Linux Ext2****、 Linux Swap	8GB	250MB より大

* Windows NT/2000/XPは第1ドライブの基本パーティションから起動する必要があります。ただし、このパーティションに格納する必要のあるファイルの数は限られています。残りのファイルは論理パーティションに置くことができます。この論理パーティションはどのドライブにあってもかまいません。Windows NT/2000/XP 起動パーティションを他のオペレーティングシステムと共有することもできます。また、Windows NTはFATパーティションにインストールし、Windows 2000/XPはFATまたはFAT32パーティションにインストールしてください。インストール時には、パーティションをNTFSに変換できます。

** LBA (Logical Block Addressing) 互換のマスターブートレコード(MBR)がある場合、Windows Me/2000/XPではブートコード境界がNULLに設定されます。

*** LILO を論理パーティションにインストールする場合は、拡張パーティションの1つ目の論理パーティションにインストールしてください。

**** LinuxがLinux Ext2パーティションにインストールされている場合は、FAT、FAT32、およびNTFS(読み取り専用)のパーティション種別も使用できます。

重要： 起動パーティションの作成、移動、またはサイズの変更を行う場合は、上の表にある起動コードの領界内でパーティションが始まっていないとオペレーティングシステムを起動できません。現在のオペレーティングシステムでは、8GBを超えるパーティションを認識できます(ただし、DOS 6.22以前を除く)。詳細については、ヘルプの「BIOSの1024シリンダ制限を理解する」および「2GB起動コード領界を理解する」を参照してください。PartitionMagic メインウィンドウのディスクマップには、2GB 起動領界と 1024 シリンダ (8GB) 制限のインジケータが表示されます。

2GB 起動コード境界の範囲外で起動可能なパーティションを作成、移動、またはサイズの変更を行おうとすると、警告メッセージが表示されます。警告メッセージが表示されても操作を続けると、パーティションは起動できなくなるか、表示されなくなります。いずれの場合も、PartitionMagic 緊急用ディスクを使ってパーティションを起動コード領界内に戻せば問題は解決します。

システムに SCSI ディスクが含まれる場合は、起動可能な Linux パーティションの前のパーティションを削除すると Linux が起動できなくなることがあります。このような場合は、Linux ブートディスクより起動し、LILO の起動情報を修復する必要があります。

一部の I/O カード (一般に古い RAID カード) を使用した場合、DOS 上ではディスクの先頭 8GB にしかアクセスできません。その結果、オペレーティングシステムパーティションのサイズを 8GB を超えて変更し、パーティションが起動できなくなった場合、PartitionMagic 緊急用ディスクでそのドライブのパーティションを操作できない可能性があります。オペレーティングシステムパーティションのサイズを 8GB を超えて変更する場合は、十分な注意が必要です。

新しいオペレーティングシステムのインストール

複数のオペレーティングシステムをインストールする場合は、それぞれのオペレーティングシステムについて以下の手順に従います。オペレーティングシステムのインストールの詳細については、PartitionMagic CD の Docs フォルダにある OPERATE.PDF を参照してください。

1. 既にインストールしている場合は BootMagic を無効にします。
2. PartitionMagic の緊急用ディスクを作成します。
5 ページの「緊急用ディスクの作成」を参照してください。
3. 新しいパーティションを作成し、そのパーティションをアクティブにします。基本パーティション [Linux Ext2] に Linux をインストールする場合、そのパーティションをアクティブにする必要があります。ただし、ハードディスク上の最初の論理パーティションに Linux をインストールする場合はそのパーティションをアクティブにする必要はありません。
詳細については、67 ページの「アクティブパーティションの設定」を参照してください。

ほとんどのオペレーティングシステムは基本パーティションにインストールする必要があります。例外については、37 ページの「起動可能なパーティションを作成する」を参照してください。

オペレーティングシステムのインストール先であるパーティションがオペレーティングシステムをサポートするかどうかが確かでない場合は、パーティションの作成ウィザードを使ってオペレーティングシステム用の新しいパーティションを作成する必要があります。83 ページの「新規パーティションの作成ウィザード」を参照してください。

4. すべてのプログラムを閉じてから、オペレーティングシステムのインストールディスクセットを使ってコンピュータを再起動します。

5. オペレーティングシステムをインストールします。

ネットジャパンテクニカルサポートでは、オペレーティングシステムのインストールに関するご質問は受け付けておりません。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

6. 既に BootMagic をインストール済みなら、PartitionMagic の緊急用ディスクを使って、BootMagic がインストールされているパーティションをアクティブにします。

BootMagic をインストールしていない場合は、PartitionMagic の緊急用ディスクを使って、BootMagic がインストールされるオペレーティングシステム用パーティションをアクティブにします。次に、BootMagic をインストールします。

7. BootMagic がインストールされている場合、(場合により) オペレーティングシステムを BootMagic の環境設定に追加して、起動するオペレーティングシステムを選択できるようにします。

BootMagic の詳細については、103 ページの「BootMagic の使用」を参照してください。

8. コンピュータを再起動します。

シナリオ 1 : Windows NT Workstation の基本パーティションの作成

システム構成例

Windows 98 が動作するアクティブな基本 FAT32 パーティション 1 つ (C:) を含む 4GB ハードディスク 1 台



目的

ドライブ C: を縮小します。作成した空き領域内に、Windows NT をインストールするための基本 FAT パーティションを作成します。



手順

1. ドライブ C: のサイズを 1GB だけ小さくします。詳細については、28 ページの「パーティションのサイズ変更と移動」を参照してください。

Windows NT をインストールするパーティションを作成する場合は、ディスクの最初の 2GB 以内にパーティションを作成する必要があります。そうでないと Windows NT が起動できません。場合によっては、既存のパーティションをディスクの末端に移動してから、ディスクの先頭に Windows NT パーティションを作成する必要があります。

2. 以下の情報を使用して、空き領域に基本パーティションを作成します。

[ファイルフォーマット]: [FAT] を選択します。Windows 2000 を使用している場合以外、[FAT32] は選択しないでください。それ以前のバージョンは FAT32 パーティションを認識しません。

[ラベル]: 必要であればラベルを入力します。

[サイズ]: 「1250」と入力します。

重要: 次の手順に進む前に、Windows NT のインストール CD およびディスクがあることを確認してください。ない場合は、コンピュータを起動できなくなります。

3. 新しいパーティションをアクティブにします。詳細については、67 ページの「アクティブパーティションの設定」を参照してください。
4. システムに変更を適用します。

重要: Windows NT をインストールする前に、すべてのパーティションがシリンダ 1024 より前で終わっていることを確認してください。そうでないと、Windows NT がインストールされず、すべてのパーティションが壊れているというメッセージが表示されます。すべてのパーティションをサイズ変更および移動できない場合は、Microsoft から最新のドライバを入手する必要があります。Microsoft の Web サイトにある記事 ID: Q197667 を参照してください。

5. 1 枚目の Windows NT インストールディスクセットを使って、コンピュータを再起動します。

6. Windows NT のインストールを完了します。

ネットジャパンテクニカルサポートでは、オペレーティングシステムのインストールに関するご質問は受け付けておりません。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

7. BootMagic の環境設定に Windows NT を追加して、コンピュータを起動または再起動するたびに、起動したいオペレーティングシステムを選択できるようにします。詳細については、103 ページの「BootMagic の使用」を参照してください。

結果

コンピュータが再起動すると、使用可能なオペレーティングシステムの一覧が表示されます。この例の場合は、Windows 98 と Windows NT です。起動したいオペレーティングシステムを選択します。

シナリオ 2：セカンダリハードディスクに論理パーティションを作成

システム構成例

ディスク 1 — 以下のパーティションを含む 4GB ディスク 1 台

- Windows 95 が動作するアクティブな基本 FAT32 パーティション (C:) 1 つ
- 1 つの論理 FAT パーティション (E:) を含む拡張パーティション 1 つ



ディスク 2 — 以下のパーティションを含む 2GB ディスク 1 台

- 1GB の FAT32 基本パーティション 1 つ (D:)
- 1GB の未パーティション空き領域



CD-ROM ドライブ 1 つ (F:)

目的

ディスク 2 に 1GB の論理 FAT パーティションを作成します。



手順

1. ディスク 2 を選択します。
2. 以下の情報を使用して、1GB の空き領域に論理パーティションを作成します。

[ファイルフォーマット]: [FAT] を選択します。

[ラベル]: 必要であればラベルを入力します。

[サイズ]: 計算済みの値をそのまま使用します。

[パーティション種別]: [論理パーティション] を選択します。

再起動後、このパーティションにはドライブ F: が割り当てられます。また、論理パーティションが収まるように拡張パーティションが自動的に作成されます。

3. システムに変更を適用します。

結果

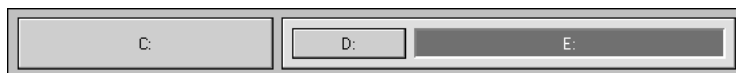
コンピュータの再起動後、新しい論理パーティションにはドライブ F:、CD-ROM にはドライブ G: が割り当てられます。

シナリオ 3 : Linux 論理パーティションの作成

システム構成例

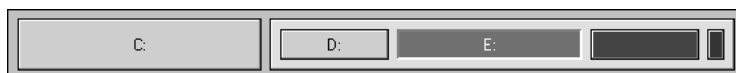
以下のパーティションを含む 6GB ハードディスク 1 台

- Windows 95 が動作するアクティブな基本 FAT パーティション (C:) 1 つ
- 1 つの論理 FAT パーティション (D:) と 1 つの論理 FAT32 パーティション (E:) を含む拡張パーティション 1 つ



目的

ドライブ E: を縮小します。作成した空き領域内に、1 つの論理 Linux Ext2 パーティションと 1 つの論理 Linux Swap パーティションを作成します。



手順

1. ドライブ E: のサイズを 550MB だけ小さくします。詳細については、28 ページの「パーティションのサイズ変更と移動」を参照してください。
2. 以下の情報を使用して、空き領域に論理パーティションを作成します。
[ファイルフォーマット]: [Linux Ext2] を選択します。
[ラベル]: 必要であればラベルを入力します。
[サイズ]: 「500」と入力します。
3. 以下の情報を使用して、空き領域にもう 1 つ論理パーティションを作成します。
[ファイルフォーマット]: [Linux Swap] を選択します。
[サイズ]: 「50」と入力します。
4. システムに変更を適用します。
5. Linux インストールディスクセットを使用してコンピュータを再起動します。
6. Linux のインストールを完了します。

Linux をインストールする場合は、アクティブパーティションを変更する必要はありません。

ネットジャパントクニカルサポートでは、オペレーティングシステムのインストールに関するご質問は受け付けておりません。詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

警告: BootMagic のような起動ユーティリティを使用している場合、LILO (Linux Loader) はルートディレクトリを含む Linux Ext2 パーティションにインストールする必要があり、マスターブートレコードにインストールしてはなりません。LILO をマスターブートレコードにインストールすると、ほかのオペレーティングシステムが起動できなくなる場合があります。

7. (必要に応じて) BootMagic の環境設定に Linux を追加して、コンピュータを起動または再起動するたびに、起動したいオペレーティングシステムを選択できるようにします。BootMagic の詳細については、103 ページの「BootMagic の使用」を参照してください。

結果

コンピュータが再起動すると、使用可能なオペレーティングシステムの一覧が表示されます。この例の場合は、Windows 95 と Linux です。起動したいオペレーティングシステムを選択します。

パーティションの削除

パーティションを削除するには、**[削除]**を使用します。パーティションが削除され、内部のデータはアクセスできなくなります。**[削除してシュレッド]**を使用すると、ディスクセクタを上書きして、選択したパーティション内のデータを破壊します。シュレッドを使ってパーティションを破棄すると、破棄したそのパーティションを元に戻すことはできません。

1. 削除するパーティションを選択します。

拡張パーティションを削除する場合は、事前に内部の論理パーティションを削除しておく必要があります。空き領域をシュレッドすることはできません。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションを削除できます。

2. **[操作]**→**[削除]**をクリックします。

[パーティションの削除]ダイアログボックスが表示されます。



3. **[削除]**または**[削除してシュレッド]**をクリックします。

4. **[OK]**をクリックします。

パーティションを削除するとドライブレターが変更される場合があります。その場合、アプリケーションのショートカット、初期設定ファイル、およびレジストリ項目が誤ったドライブを参照するため、アプリケーションが動作しなくなります。

システムにSCSIディスクが含まれる場合は、起動可能なLinuxパーティションの前のパーティションを削除するとLinuxが起動できなくなることがあります。このような場合は、Linuxブートディスクより起動し、LILOの起動情報を修復する必要があります。

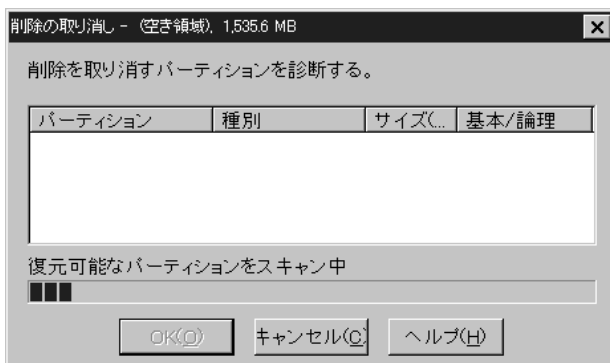
パーティションの削除を元に戻す

[削除を元に戻す]によって、ディスクから削除されたパーティションが復元されます。FAT、FAT32、およびNTFS パーティションを削除できます。[削除を元に戻す]は、間違っ
て削除してしまったパーティションを復元するのに最良の方法です。パーティションへの
書き込み、既存のパーティションのサイズ変更などの変更を行った後にパーティションの
削除を元に戻す場合は、46 ページの「パーティションの削除を元に戻すことについての制
限」を参照してください。

1. 検索したい空き領域を選択します
2. [操作]→[削除を元に戻す]をクリックします。

重要： 選択した空き領域に対して未実行の操作がある場合は、パーティションの削
除を元に戻せません。未実行の操作がある場合は、[削除を元に戻す]アイコ
ンおよびメニューオプションが淡色表示になり、アクセスできません。

[削除を元に戻す]ダイアログボックスが表示され、選択した空き領域が検索されます。



削除を元に戻すことが可能な基本パーティションおよび論理パーティションがすべて
スクロール可能なリストに表示されます。空き領域内にパーティションがない場合、
または、削除を元に戻すことが可能なパーティションがない場合は、「削除を元に戻せ
るパーティションはありません」というメッセージが表示されます。

3. スクロール可能なリスト内で、削除を元に戻したいパーティションのチェックボッ
クスをクリックします。

複数のパーティションの削除を一度に元に戻すことは可能ですがお奨めしません。優
先させたいパーティションから先に、一度に1つずつ削除を元に戻してください。そ
うすることによって、パーティション内のデータの状態が保証されます。
4. [OK]をクリックします。

パーティションの削除を元に戻すことについての制限

状況によっては、削除したパーティションを元に戻せなかったり、スクロール可能なリストに表示されないことがあります。これは次のような場合です。

- ハードディスクに4つの基本パーティションが存在している場合は、基本パーティションを元に戻せません。
- 削除した論理パーティションが現在拡張パーティションに含まれていない場合は、元に戻せません。
- 削除した基本パーティションが現在拡張パーティションに含まれている場合は、元に戻せません。
- パーティションにファイルシステムエラーがある場合。**PartitionMagic**がパーティションを検出すると、元に戻す前にエラーがないかどうか検査します。パーティションにエラーがある場合は、元に戻せません。
- 他のパーティションやファイルシステムによってパーティションの全部または一部が上書きされている。この制約があるため、**[削除を元に戻す]**ダイアログボックスにパーティションが2つ表示されている場合、いずれか1つの削除を元に戻すと、残りのパーティションはリストに表示されなくなります。
- 削除された2つのパーティションが同じディスク領域の一部を要求している。これらの削除を元に戻した場合のデータの状態は保証されません。たとえば、E:、F: という、それぞれ500MBの2つのパーティションがあるとします。このF:を削除し、E:のサイズを変更して、領域すべて(1GB)を要求したとします。データをE:に保存します。その後で、E:を削除します。パーティションの削除を元に戻す場合、**[削除を元に戻す]**ダイアログボックスにはE:とF:が両方とも表示されます。E:を復元すると、F:はダイアログボックスに表示されなくなります。これは、同じ領域が既に要求されたためです。ただし、E:ではなくF:を復元した場合は、E:に保存したデータの一部を復元できます。F:の削除を元に戻すと、コンピュータが起動できなくなるか、アプリケーションが実行できなくなる場合があります。

パーティションラベルの変更

パーティションのラベルを変更するには、**[ラベル]**を使用します。意味のある名前を付けることで、パーティションが管理しやすくなります。

1. ラベルを変更したいパーティションを選択します。
リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションのラベルを変更できます。
2. **[操作]→[ラベル]**をクリックします。

[パーティションのラベル] ダイアログボックスが表示されます。



3. [新しいラベル] ボックスに新しいラベルを入力します。

NTFS ボリュームラベルには、最大32文字の英数字を使用できます。FAT ボリュームラベルには、最大11文字の英数字を使用できます。ただし、* ? [] < > | + = : ; , . ¥ / ” は使用できません。

4. [OK] をクリックします。

パーティションの初期化

[フォーマット] 操作でパーティションを初期化することができます。ただし、同時に内部のデータがすべて消去されます。初期化により、異なるファイルシステムをパーティションに格納することができます。

PartitionMagic には、パーティション内の既存ファイルを破壊せずに別のファイルシステムに変換するためのオプション機能があります。71 ページの「パーティションの変換」を参照してください。

1. 初期化するパーティションを選択します。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションを初期化できます。

2. [操作] → [フォーマット] をクリックします。

[パーティションのフォーマット] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ファイルフォーマット] ドロップダウンリストから、使用するファイルシステムの種別を選択します。

パーティションのサイズによっては、使用できないファイルシステムもあります。

4. (必要に応じて) パーティションのラベルを入力します。

5. [OK] をクリックします。

パーティションのコピー

パーティションの正確な複製を作成するには、[コピー] を使用します。パーティションをコピーするには、パーティションのサイズ以上の空き領域が必要です。

パーティションをコピーする理由としては、次のようなものがあります。

- 新しいバージョンのオペレーティングシステムにアップグレードしたり、異なる種類のオペレーティングシステムをインストールする前に、オペレーティングシステムを複製しておくため。この結果、古いオペレーティングシステムのウィンドウ、プログラムアイコン、およびプロパティがどのように設定されていたかを後で調べることができます。
- 容量の小さいハードディスクの内容を、容量の大きい新しいハードディスクにすばやく移動するため。
- パーティションの相対順序を変更するため。
- パーティションのバックアップを作成するため。

1. コピーするパーティションを選択します。

ディスク上にパーティションをコピーするのに十分な空き領域がないときは、[コピー] コマンドが淡色表示になります。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシンにパーティションをコピーしたり、リモートマシンからパーティションをコピーしたりできます。

PartitionMagic では、Windows NT のストライプセット、パリティ付きストライプセット、または二重/ミラーセットをコピーすることはできません。

2. [操作]→[コピー]をクリックします。

[パーティションのコピー] ダイアログボックスが表示されます。



3. [ディスク] ドロップダウンリストから、コピー先のディスクを選択します。
4. パーティションリストから、コピー先となる空き領域を選択します。
5. 指定したパーティションが利用可能な空き領域よりも小さい場合は、パーティションを空き領域の先頭または末端に配置できます (先頭を推奨)。[位置] で [空き領域の先頭] または [空き領域の末端] をクリックします。

論理パーティションをコピーして、残したいなら、未使用領域が拡張パーティション内で使用可能であることを確認します。また、パーティションのコピー後に、それを論理パーティションに変換できます。

6. [OK] をクリックします。

コピーされたパーティションのサイズ、ファイルシステム種別、およびデータは、元のパーティションと同一です。ただし、ジオメトリの異なる物理ディスクにコピーした場合は、サイズが多少変わります。

パーティションのエラー診断

パーティションの状態を診断するには、[エラー診断]を使用します。

PartitionMagic は、起動されるたびに、接続されているすべてのドライブとそのパーティションに対する診断を行います。診断で問題が発見されると、パーティションリストウィンドウの[種別]列の下に「障害を検出しました」と表示されます。この診断は[エラー診断]とは別のもので、[エラー診断]ほど入念な診断ではありません。

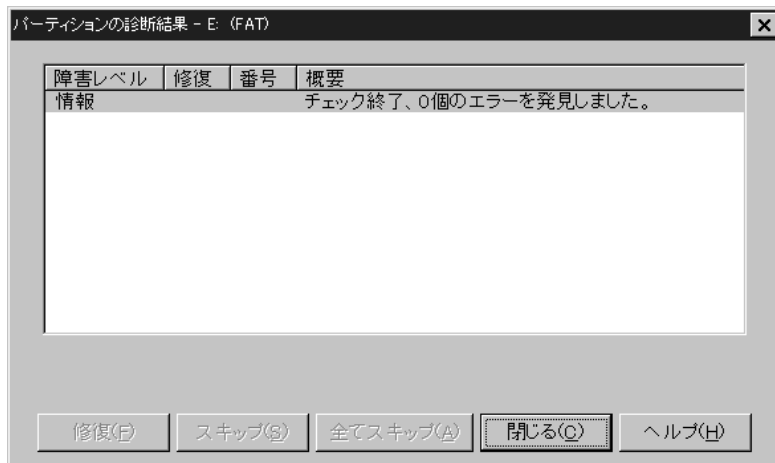
1. 診断するパーティションを選択します。

PartitionMagic で診断できるパーティションは、ロック可能なパーティション(オープンファイルがないパーティション)のみです。パーティションにオープンファイルがある場合は、メニューの[エラー診断]オプションは淡色表示になります。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションを診断できます。

2. [操作]→[エラー診断]をクリックします。

[パーティションの診断結果]ダイアログボックスが表示されます。



[エラー診断]でエラーが検出されなかった場合は、「情報」エントリが表示され、[概要]列に「チェック終了、0個のエラーを発見しました。」と表示されます。

[エラー診断]が失敗すると、パーティションリストの[使用済み]列と[空き]列に「診断が失敗しました」と表示されます。検出されたエラーは修復してください。詳細については、123 ページの「診断エラーを解決する」を参照してください。

[エラー診断]によってエラー(たとえば、NTFS ボリューム上にクロスリンクされたファイル、失われたクラスタ、不良ディレクトリの情報がある、など)が検出され、そのエラーが修復可能な場合、ダイアログボックスの下部の[修復]ボタンが選択可能になります。エラーが見つかるたびに、次の情報が表示されます。

- [障害レベル]には、問題の重大度が次のいずれかの基準で表示されます。

障害レベル	説明
情報	表示された情報は役に立つ情報です。しかし、問題は深刻ではありません。エラーには該当しません。
警告	検出されたエラーは、問題を引き起こす可能性があります。
エラー	問題は発生していますが、PartitionMagic を使用してパーティションを変更することはできます。ScanDisk または CHKDSK を実行してエラーを修復するか、表示されていれば[修復]をクリックします。
重大	致命的な問題です。PartitionMagic を使用してパーティションを変更することはできません。

- NTFS ボリューム上の問題が修復された場合は、[修復]に[はい]が表示されます。FAT または FAT32 のパーティションには適用できません。
 - [番号]には、エラー番号が表示されます。詳細については、127 ページの「エラーメッセージと対処方法」を参照してください。
 - [概要]には、問題の内容が簡潔にまとめられています。
3. エラーを修復するには、修復する問題を選択し、[修復]をクリックします。
 4. 表示されたエラーを1つスキップするには、[スキップ]をクリックします。
表示されたエラーをすべてスキップするには、[全てスキップ]をクリックします。
 5. 診断結果を確認して、NTFS のエラーを修復したら、[閉じる]をクリックします。

DOS および Windows の CHKDSK ユーティリティとは異なり、[エラー診断]では、パーティションの状態や構造に関する情報は表示されません。このような情報を表示するには、[情報]オプションを使用します。詳細については、56 ページの「パーティション情報の表示」を参照してください。

PartitionMagic では、FAT パーティションの OS/2 拡張属性エラーが診断されます。OS/2 を使用しない場合、または以前使用していたが現在は使用していない場合、このエラーは発生しません。環境設定で[FAT 上の OS/2 EA エラーを無視する]を有効にしてください。詳細については、23 ページの「PartitionMagic のプログラム設定項目の変更」を参照してください。OS/2 を使用している場合は、[FAT 上の OS/2 EA エラーを無視する]を有効にしないでください。このエラーを検出できないとデータが失われる可能性があります。

パーティションの結合

ディスク上で互いに隣接する2つのFAT、FAT32、またはNTFSパーティションを結合することができます。ディスク上に設定できるパーティション数の上限に達してしまい、なおかつパーティションを削除したくない場合は、パーティションを結合すると便利です。また、複数のFATパーティションを結合して1つの大きなFAT32パーティションまたはNTFSパーティションに変換したいときにも便利です。

重要： パーティションのサイズおよび含まれるデータの量によっては、パーティションの結合には非常に長い時間(数時間)がかかります。マシンが操作の実行中であるかどうかを調べる場合は、NumLock キーを押してライトが点滅するかどうか確認してください。キーボード上でNumLock キーが押されたことを認識するのに数秒かかる場合があります。パーティションを結合する場合は、システムを長時間使用しなくてもよい時間にスケジュールすることをお奨めします。**PartitionMagicが処理を実行している間にコンピュータをシャットダウンしたり電源を切ったりすると、ファイルシステムが壊れて、データが失われます。プロセスが完了するまで、システムをシャットダウンしないでください。**

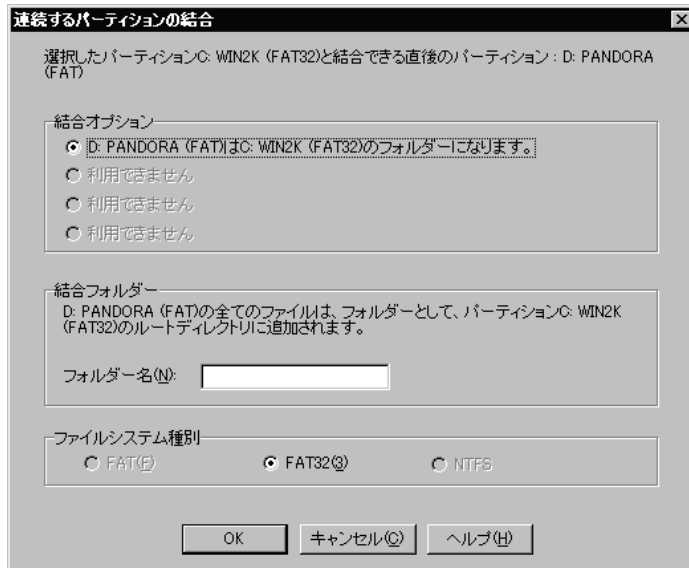
1. 結合する2つのパーティションの一方を選択します。

重要： 圧縮パーティションを結合しないでください。追加情報については、115 ページの「ディスク圧縮ユーティリティ」を参照してください。

2つの隣接するNTFSパーティションを結合する場合、それらは同じバージョン種別と同じクラスタサイズを持つ必要があります。クラスタサイズが異なる場合、パーティションを結合することができません。追加情報については、75ページの「FAT/FAT32パーティションから4K境界割り当てへの変換」を参照してください。NTFSパーティションのバージョン種別とクラスタサイズを表示するには、ディスクマップ中のパーティションを右クリックし、**[情報]**を選択して**[NTFS 情報]**タブをクリックします。

2. **[操作]**→**[結合]**をクリックします。

[連続するパーティションの結合] ダイアログボックスが表示されます。



3. **[結合オプション]** グループボックスで、結合したいパーティションをクリックします。
一方のパーティションの内容がもう一方のパーティション内のフォルダに移動します。
異なるオペレーティングシステムを含むパーティションを結合することは避けてください。
4. **[結合フォルダ]** グループボックスで、保持するほうのパーティションに作成する新しいフォルダの名前を入力します。
5. 保持するほうのパーティションのファイルシステム種別 (FAT、FAT32、またはNTFS) をクリックします。

2つのNTFSパーティションを結合する場合は、NTFSオプションが自動的に選択されます。

重要： FAT パーティションを結合する場合、FAT32 パーティションにアクセス可能な場合以外はFAT32パーティションに変換しないように注意してください。Windows 95の古いリリースはFAT32パーティションにアクセスできません。Windows 95 OSR2とそれ以降のバージョンのWindowsは、FAT32xパーティションにアクセスできます。

6. **[OK]** をクリックします。

メインウィンドウのディスクマップに、結合されたパーティションが表示されます。

パーティションの分割

[分割]を使用して、FATまたはFAT32パーティションを2つの連続するパーティションに分けることができます。1つのパーティション内に大規模なデータセットを持つ場合やデータとアプリケーションが混在する場合は、パーティションの分割が有用である場合があります。

新しいパーティションは、元のパーティションの右側に作成されます。元のパーティションと新しいパーティションが占めるハードディスク領域の合計は、分割前に元のパーティションが占めていた領域と等しくなります。パーティションのファイルシステムは変更されません。たとえば、2GBのFATパーティションを分割した場合、分割後の左右のパーティションの合計サイズは2GBで、両方ともFATパーティションです。

パーティションを分割するときには、新しいパーティションに含めるファイルおよびフォルダを選択できます。新しいパーティションには、ラベルの指定、基本パーティションか論理パーティションかの指定、パーティションの新しいサイズの指定を行うこともできます。

1. 分割するパーティションを選択します。

分割できるのは、100MB以上のパーティションだけです。

FATパーティションには少なくとも5%の未使用領域が含まれていなければなりません。含まれていない場合は、メニューの[分割]コマンドが淡色表示になります。FAT32パーティションを分割する場合は、10%の未使用領域が必要です。

PowerQuestでは、オペレーティングシステムのパーティションを分割したり、Windowsのフォルダやプログラムファイルを新しいパーティションに移動することはお奨めしません。

2. [操作]→[分割]をクリックします。



- [分割]が[操作]メニューで淡色表示(使用不可)されるのは、既にハードディスクに許された上限である4つの基本パーティション(3つの基本パーティションと1つの拡張パーティションなど)があるときに、さらに基本パーティションを分割しようとする場合などです。ただし、拡張パーティション内の論理パーティションは分割できます。
3. [データ]タブをクリックします。
4. [元のパーティション]グループボックスで、新しいパーティションに移動するファイルとフォルダを選択して、一重右矢印をクリックします。
- 選択したファイルやフォルダを新しいパーティションから削除するには、左矢印をクリックします。すべてのファイルとフォルダを新しいパーティションに移動するには、二重右矢印をクリックします。左矢印をクリックすれば、選択したファイルやフォルダを元のパーティションに戻すこともできます。ただし、各パーティションにはそれぞれ最低1つのファイルまたはフォルダが含まれている必要があります。
5. (必要に応じて)新しいパーティションの名前を[ラベル]テキストボックスに入力します。

6. 新しいパーティションのパーティション種別を[基本/論理]ドロップダウンリストから選択します。

[分割]操作で元のパーティションを基本パーティションから論理パーティションに変更したり、論理パーティションを基本パーティションに変更することはできません。

7. [サイズ]タブをクリックします。

8. 右端にあるバーをディスクマップ内の適当な位置に移動したり、[サイズ]テキストボックスにMBの値を入力することで新しいパーティションのサイズを指定します。

元のパーティションは残りの領域を使用するように調整されます。

元のパーティションと新しいパーティションのいずれも、40MB以上のサイズでなければなりません。4GBを超えるハードディスクの場合、PartitionMagicはパーティションのサイズが47MB以上になるように切り上げます。

9. [OK]をクリックします。

新しいパーティションのサイズは、可能な最小サイズと、新しいパーティションに追加するファイルの合計バイト数によって決まります。残っている空き領域があれば、パーティション内のデータに基づいて、2つのパーティションに比例配分されます。たとえば、2つのパーティションが2GBを使用している場合に、元(左側)のパーティションに700MBのデータを含め、新しい(右側)のパーティションに300MBのデータを含めると、使用可能な空き領域は1GBになり、元のパーティションには700MB、新しいパーティションには300MBの未使用領域が配分されます。

パーティション情報の表示

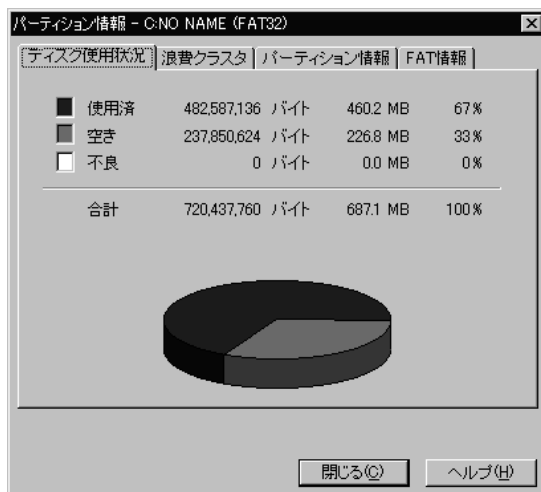
選択したパーティションの状態と構造に関する情報を表示するには、[情報]を使用します。

1. 情報が必要なパーティションを選択します。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションに関する情報を表示できます。

2. [操作]→[情報]をクリックします。

[パーティション情報] ダイアログボックスが表示されます。



さまざまな情報がタブ別に表示されます。特定のページを表示するには、タブを直接クリックします。タブは、常にページの最上部に表示されています。各ページは、パーティションのファイルシステム別にまとめられています。

- 見たいページのタブをクリックします。
各ページの内容については、この後で説明します。
- 内容を確認したら、[閉じる]をクリックします。

使用状況

[ディスク使用状況] ページは、FAT、FAT32、およびNTFS ファイルシステムに関してのみ表示されます。このページには、次の情報がバイト単位、メガバイト単位、およびパーセント単位で表示されます。

- [使用済み] — パーティション内の使用済み領域(クラスタによる浪費領域を含む)
- [空き] — パーティション内の空き領域
- [不良] — パーティション内の不良領域
- [合計] — パーティションの総領域([使用済み]、[空き]、[不良]の合計)

浪費クラスタ

[浪費クラスタ] ページは、FAT および FAT32 ファイルシステムを使用しているパーティションに関してのみ表示されます。

このページには次の情報が表示されます。

- **[現在のクラスタサイズ]**—現在のクラスタサイズ(バイト単位またはキロバイト単位で表示)
- **[データ]**—パーティションに格納されているデータ(バイト単位およびメガバイト単位で表示)
- **[浪費]**—パーティション内の浪費領域(バイト単位およびメガバイト単位で表示)
- **[合計]**—使用済み容量の合計(バイト単位およびメガバイト単位で表示)。**[データ]**と**[浪費]**の合計

パーティション情報

[パーティション情報] ページは、すべての種類のパーティションに関して表示されます。これには、空き領域と拡張パーティションも含まれます。このページには次の情報が表示されます。

- **[パーティションの種別]**には、パーティションやファイルシステムの種別(FAT、FAT32、NTFSなど)が16進数とテキストで表示されます。16進数による区別は、パーティション種別を表す一般的な方法です。
- **[シリアル番号]**は、パーティションのファイルシステムでシリアル番号が使用されている場合に表示されます。

ページの下段にはパーティションの物理情報が表示されます。

- **[先頭物理セクタ]**には、パーティション開始位置の論理番号と場所(シリンダ、ヘッド、およびセクタ番地)が表示されます。
- **[最終物理セクタ]**には、パーティション終了位置の論理番号と場所(シリンダ、ヘッド、およびセクタ番地)が表示されます。
- **[物理セクタ総数]**には、パーティションのセクタ数が表示されます。
- **[物理ジオメトリ]**には、パーティションが置かれている物理ディスクの合計シリンダ数、ヘッド数、セクタ数が表示されます。

ファイルシステム別の情報ページ

[パーティション情報] ダイアログボックスの最終ページは、選択したパーティションのファイルシステムによって変わります。たとえば、ファイルシステムがFATまたはFAT32の場合は、**[FAT 情報]** ページが表示され、NTFSの場合は**[NTFS 情報]** ページが表示されます。

FAT 情報

このページは、FAT または FAT32 ファイルシステムのパーティションに関して表示されます。

上段には次の情報が表示されます。

- **[セクタ /FAT]**には、各ファイルアロケーションテーブルに含まれるセクタ数と、選択されたパーティションにあるファイルアロケーションテーブルの数が表示されます。

- **[ルートディレクトリの許容量]**には、ルートディレクトリに指定できるエン트리数とセクタ数が表示されます。FAT32のルートディレクトリは必要に応じて拡張できるため、FAT32パーティションの場合は何も表示されません。
- **[先頭FATセクタ]**には、パーティション内のFAT開始位置の論理セクタ値が表示されます。
- **[先頭データセクタ]**には、パーティション内のデータ部分開始位置の論理セクタ値が表示されます。

中段には次の情報が表示されます。

- パーティション内にあるファイルのバイト数、ファイル数、および非表示ファイルの数。
- パーティション内にあるディレクトリのバイト数、ディレクトリ数、および非表示ディレクトリ数。

下段の**[FAT エクステンション]**には、次の情報が表示されます。

- OS/2拡張属性で使用されているバイト数、および拡張属性の影響を受けるファイル数とディレクトリ数。
- ロングファイルネームに使用されるバイト数、およびロングファイルネームを使用しているファイル数とディレクトリ数。

NTFS 情報

このページは、NTFS ファイルシステムを使用しているパーティションに関して表示されます。上段には次の情報が表示されます。

- **[NTFS バージョン]**は、NTFS のバージョン番号を表示します。NTFS バージョンはOSのバージョンとは一致していません。たとえば、Windows NT 4.0はNTFS version 1.3を使用します。
- **[バイト/NTFSセクタ]**には、選択されたパーティション内の各論理セクタのバイト数が表示されます物理セクタ単位のバイト数は常に512です。
- **[クラスタサイズ]**には、選択されたパーティションにある各クラスタのサイズとセクタ数が表示されます。
- **[先頭MFTクラスタ]**には、マスターファイルテーブル(MFT)の先頭クラスタの論理番号が表示されます。
- **[ファイルレコードのサイズ]**には、MFTのファイルレコードのサイズが表示されます。

下段に表示される情報は、Windows NTのCHKDSKでレポートされる内容と似ています。

- パーティション内のファイル数およびこれらに割り当てられているバイト数とクラスタ数
- ファイルクラスタで浪費されているバイト数

- インデックス(ディレクトリ)の数と、これらに割り当てられているバイト数とクラスタ数
- ほかのシステム構造体で使用するために確保されているバイト数とクラスタ数

ディスクエラーのスキャン

MS ScanDisk は、Windows 9x および Windows Me に付属するユーティリティであり、PartitionMagic から実行できます。ScanDisk はパーティションをスキャンしてエラーを検査し、エラーがあれば修復します。[エラー診断] 操作もエラーをスキャンしますが、FAT または FAT32 のパーティションのエラーは修復しません。

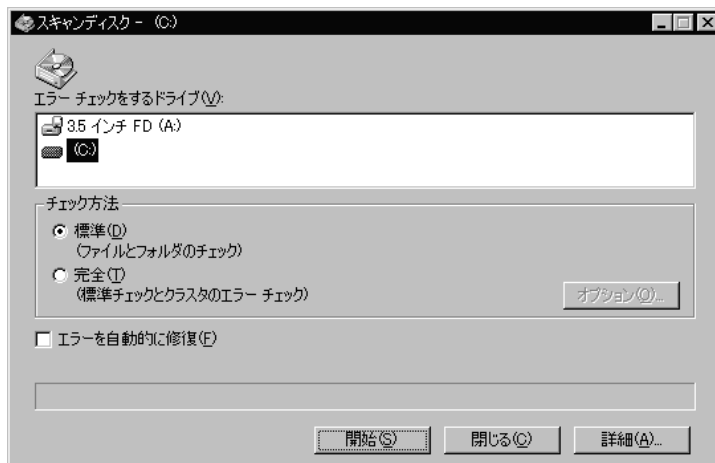
Windows NT を使用している場合は、PartitionMagic から ScanDisk の代わりに NT CHKDSK を実行する必要があります。CHKDSK の画面は ScanDisk の画面と異なります。CHKDSK の詳細については、Windows NT のマニュアルを参照してください。

1. エラーをスキャンするディスクを選択します。

ScanDisk でスキャンできるのは、ドライブレターが割り当てられているパーティションだけです。非表示パーティション、拡張パーティション、空き領域、またはアクティブなオペレーティングシステムでサポートされていないファイルシステムのパーティションはスキャンされません。

2. メニューバーの [操作] → [MS ScanDisk] (または [NT チェックディスク]) をクリックします。

[スキャンディスク] ダイアログボックスが表示されます。



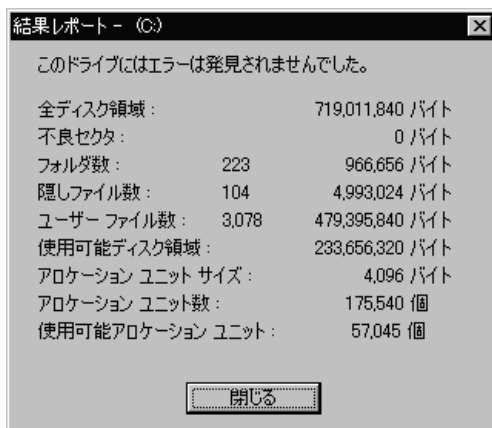
3. [チェック方法] ボックスで、[標準] または [完全] をクリックします。

[完全] を選択すると、不良セクタの検査が行われます。

4. (必要に応じて)[エラーを自動的に修復]をクリックします。

5. [開始]をクリックします。

ScanDisk が完了すると、[結果レポート]ダイアログボックスが表示され、パーティション上のエラー(検出された場合)に関する情報とその他のディスク統計情報(ディスクの総領域、不良セクタのバイト数、総アロケーション数など)が表示されます。



MS ScanDisk の詳細については、Windows のヘルプを参照してください。

第 4 章

高度なディスクの操作

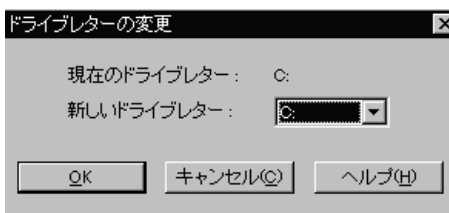
この章で説明する内容は次のとおりです。

- ドライブレターの変更
- 不良セクタの再診断
- パーティションの表示および非表示
- ルートディレクトリのサイズ変更(FATのみ)
- アクティブパーティションの設定
- クラスタサイズの変更

ドライブレターの変更

[ドライブレターの変更]を使用すると、Windows NT/2000/XPで認識され、サポートされているパーティションのドライブレターを変更できます。Windows 9xまたはWindows Meが動作している場合は、この操作は利用できません。

1. ドライブレターを変更するパーティションを選択します。
2. [操作]→[拡張]→[ドライブレターの変更]をクリックします。
[ドライブレターの変更]ダイアログボックスが表示されます。



3. [新しいドライブレター]ボックスに、パーティションに割り当てるドライブレターを入力するか、選択します。
4. [OK]をクリックします。

不良セクタの再診断

[不良セクタの再診断]によって、FATまたはFAT32パーティション上で不良と診断されたセクタを検査し、使用可能な不良セクタを回復することができます。

FATまたはFAT32ファイルシステムでは、一定数のセクタをまとめたクラスタ単位でファイル保存用のディスク領域が割り当てられます。不良セクタもクラスタ単位で検索されるため、クラスタ内の1つのセクタに問題がある場合もクラスタ全体が「不良」と診断されます。不良クラスタの有無は[情報]を使用して調べることができます。詳細については、56ページの「パーティション情報の表示」を参照してください。

パーティションの移動やサイズ変更、またはクラスタのサイズを拡張する場合、新しいクラスタに一部でも不良と診断されたことがあるクラスタが含まれていると、実際には不良セクタのないクラスタであっても「不良」と診断されます。同様に、クラスタのサイズを縮小すると、不良クラスタが複数の不良クラスタに分割されてしまいます。このような作業を行った後で不良セクタが報告された場合は、[不良セクタの再診断]を使って、不良と診断されたセクタを回復できます。

1. 再診断するパーティションを選択します。

2. [操作]→[拡張]→[不良セクタの再診断]をクリックします。

[不良セクタの再診断]ダイアログボックスに、不良と診断されたセクタを再診断して不良セクタがない場合は回復するとの説明が示されます。

3. このまま診断を続けるには、[OK]をクリックします。

不良と診断されたセクタの中には、場合によって正常に機能しない不安定なセクタがあります。[不良セクタの再診断]では、このような不安定なセクタは健全なセクタと診断されます。これらのセクタが正常に機能しなかった場合は、データが失われる可能性があります。最新のハードディスクでは、自動的に不良セクタを検出して不良セクタを再マップするため、一般的に不良セクタは見られません。最新のハードディスクで不良セクタに関するエラーメッセージが返された場合は、ディスクを交換することをお奨めします。

パーティションの表示および非表示

[パーティションを非表示にする]によって、好ましくないアクセスからパーティションを保護できます。この操作はFAT、FAT32、およびNTFSのパーティションで実行できます。

パーティションを非表示にした場合は、次にコンピュータを起動したときにそのパーティションにドライブレターが割り当てられません。

1. 非表示にするパーティションを選択します。

リモートエージェントが動作している場合は、リモートマシン上のパーティションを表示または非表示にできます。

2. [操作]→[拡張]→[パーティションを非表示] (または[パーティションを表示])をクリックします。

Windows NT/2000/XPが動作している場合以外は、複数の基本パーティションを表示にするとマシンが起動できなくなることがあります。

[パーティションを非表示にする]ダイアログボックスに、ドライブレターが変更される可能性があるという警告メッセージが表示されます。

3. パーティションを非表示にする場合は、[OK]をクリックします。

Windows 9xおよびWindows Me上では、パーティションの表示および非表示によって他のパーティションのドライブレターが変更されてしまうことがあります。これによって、コンピュータの起動やアプリケーションの実行が不可能になる場合があります。そのような場合のために、DriveMapperを使って、パーティションの表示または非表示の結果変更されたドライブレター参照を自動的に更新することをお奨めします。

ハードディスクに複数の基本パーティションがある場合は、デフォルトで1つのみ表示されます。**[アクティブ設定]**を使用すると、選択された基本パーティションが表示され、他の基本パーティションは非表示になります。複数の基本パーティションを表示することは可能ですが、お奨めしません。

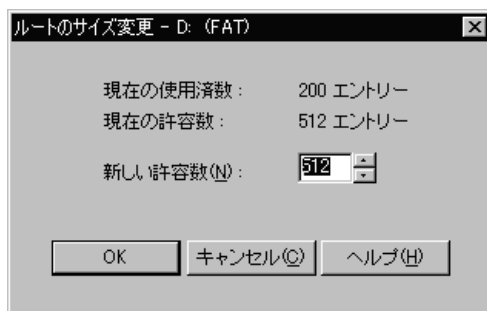
Windows NT/2000/XP では、パーティションが自動的に非表示にはなりませんので、複数の基本パーティションを表示状態にすることができます。注意：BootMagicを使用した場合、デフォルトでは1つしか基本パーティションを表示させることができません。詳細については、BootMagicのマニュアルを参照してください。

ルートディレクトリのサイズ変更 (FAT のみ)

[ルートのサイズ変更]を使用すると、FAT パーティションのルートディレクトリに保存できる最大エン트리数を変更できます。ルートエントリの数は、パーティションの初期化時に設定されます。サブディレクトリやFAT32 パーティションの場合と異なり、数が自動的に拡張されることはありません。Microsoft のロングファイルネームをルートディレクトリに使用している場合は、ルートエントリの数を増やすことも検討してください。この操作の間に、パーティション内部のデータが破壊されることはありません。

1. ルートディレクトリのサイズを変更するパーティションを選択します。
2. **[操作]→[拡張]→[ルートのサイズ変更]**をクリックします。

[ルートサイズの変更] ダイアログボックスが現れ、使用されているエン트리数と現在の最大数が表示されます。



3. **[新しい容量]** ボックスに、設定するルートディレクトリのエン트리数を入力するか、選択します。
入力した数は現在のクラスタアラインメントを維持する値に丸められます。
4. **[OK]** をクリックします。

ルートディレクトリの容量を増やしたときに、パーティションの先頭にある数ファイルを移動してしまふことがあります。たとえば、DOS、Windows 95/98 のオペレーティングシステムがインストールされている場合、IO.SYS や MSDOS.SYS などのファイルを移動してしまいます。ルートディレクトリが起動パーティションにあり、ルートディレクトリのサイズを変更した後で起動できなくなった場合は、SYS.COM を実行して、移動されたファイルをディスクの先頭に戻してください。

アクティブパーティションの設定

[**アクティブ設定**]を使用すると、あるパーティションをコンピュータの起動元であるアクティブパーティションとして設定できます。PowerQuest にはパーティションをアクティブにする方法が、PartitionMagic (Windows 版または緊急用ディスク版)、BootMagic、PQBoot の複数あります。ここでは、PartitionMagic からアクティブパーティションを変更する方法について説明します。

ハードディスク上で一度にアクティブにできるパーティションは1つだけです。また、パーティションからコンピュータを起動するためには、パーティションが最初のハードディスクに存在し、そのパーティションにオペレーティングシステムがインストールされていることが必要です。コンピュータを起動すると、最初のハードディスクのパーティションテーブルが読み込まれ、アクティブなパーティションが検出されて、そのパーティションから起動します。

重要： パーティションをアクティブにする前に、そのパーティションが起動可能なパーティションであることを確認します。パーティションが起動可能でない場合や、起動可能かどうかがわからない場合は、必ず起動ディスクを用意しておいてください。

パーティションにオペレーティングシステムをインストールする場合、パーティションをアクティブにする必要があります。

パーティションの表示や非表示を行えない Windows 9x および DOS の FDISK プログラムとは異なり、PartitionMagic では FAT、FAT32、および NTFS の基本パーティションを非表示にすることができます。他の基本パーティションを非表示にすることにより、複数のオペレーティングシステムのインストールや、アクティブに設定するパーティションの選択が簡単になります。たとえば、Windows 95 を使用しているシステムで、別のパーティションに Windows NT をインストールする場合は、Windows 95 のパーティションを縮小して、基本パーティションをもう 1 つ作成します。これをアクティブなパーティションとして設定してから、Windows NT のインストールディスクからコンピュータを起動します。

1. アクティブに設定するパーティションを選択します。
2. コンテキストメニューの[操作]→[拡張]→[アクティブ設定]をクリックします。

(Windows NT/2000/XP のみ) IDE ハードディスクと SCSI ハードディスクが一緒に使用されている場合は、先頭ディスクを起動ドライブとして認識するとは限りません。

Partition Magic は Windows から報告された順序でドライブを表示します。その結果、

起動デバイスがドライブ 1、2 などと表示されます。PartitionMagic は、アクティブパーティションが存在しないと間違って報告することもあります。どのドライブが起動ドライブであるかを必ず確認しておいてください。

[アクティブパーティション設定] ダイアログボックスが表示されます。



3. [OK] をクリックします。

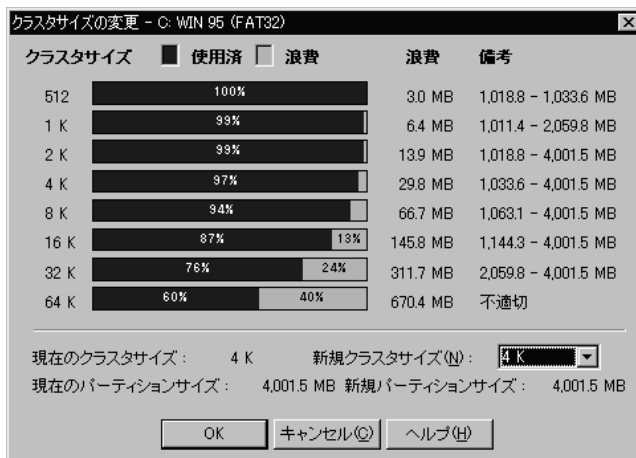
クラスタサイズの変更

[クラスタのサイズ変更] を使用すると、FAT パーティションと FAT32 パーティションのクラスタサイズを変更できます。クラスタのサイズを縮小すると、ハードディスクの浪費領域を回復できる場合があります。

FAT と FAT32 パーティションでは、すべてのファイルが「クラスタ」と呼ばれる割り当て単位で格納されます。パーティションの各ファイルには、最低 1 つのクラスタが割り当てられます。クラスタのサイズは、パーティションのサイズによって決まります。パーティションに格納されたファイルのサイズがパーティションのクラスタサイズのちょうど整数倍であった場合を除き、ファイルには浪費領域が含まれます。パーティションが大きければクラスタも大きくなり、浪費領域も増えます。詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

1. クラスタのサイズを変更するパーティションを選択します。
2. [操作] → [拡張] → [クラスタサイズの変更] をクリックします。

[クラスタサイズの変更] ダイアログボックスが表示されます。



Partition Magic では、各クラスタサイズについて以下の情報を表示します。

- ・ 現在選択されているパーティションに対してそのクラスタサイズを選択した場合に、どのくらいの領域が使用され、どのくらいの領域が浪費されるかを棒グラフとパーセンテージによって示します。
- ・ 浪費領域(メガバイト単位)
- ・ パーティションサイズの許容範囲(メガバイト単位)などの情報
- ・ クラスタサイズから要求されるパーティションがパーティションのデータやファイルに対して小さすぎる場合は、[備考]列に「不適切」と表示されます。64KBのクラスタサイズは Windows NT/2000/XP でしか使用できないため、64KB クラスタサイズの[備考]列には「不適切」と表示されます。64KB クラスタサイズにすることも可能ですが、お奨めしません。詳細については、23 ページの「Windows NT/2000/XP 用 64K FAT クラスタを使用可能する」を参照してください。

[クラスタサイズの変更] ダイアログボックスの下部には、現在のクラスタサイズと新規クラスタサイズ、および現在のパーティションサイズと新規クラスタサイズに基づいた新規パーティションサイズに関する情報が表示されます。

3. ダイアログボックスに表示されている情報に基づいて、使用する(使用可能な)クラスタサイズを決定して、[新規クラスタサイズ] ドロップダウンリストから選択します。

Partition Magic では、パーティションとクラスタのサイズに関し、オペレーティングシステムおよびファイルシステムの制限に従っています。選択したパーティションに対して、無効なクラスタのサイズを選択することはできません。

データベースやスワップファイルなど、サイズの大きい1つのファイルが格納されたパーティションに対して、最小のクラスタサイズを使用しないでください。

小さいクラスタサイズを選択すると、パーティションのサイズも縮小され、パーティションの隣接する位置に空き領域ができます。新しいパーティションを作成することによって、この空き領域を使用できます。

FAT16 パーティションはクラスタサイズに合うように自動的にサイズ変更されます。

警告： Windows NT または Windows 2000 で 2GB 以上 4GB 以内のディスクを使用する場合のみ、64K クラスタサイズを選択できます。

4. [OK] をクリックします。

クラスタサイズのデフォルト値

パーティションのクラスタサイズは、次の表に示すパーティションのサイズに基づいて、DOS の FORMAT 操作によって設定されます。

DOS および Windows の FAT クラスタサイズのデフォルト値

パーティションサイズ (MB)	FAT の種類	クラスタあたりの セクタ数	クラスタサイズ
0-15	12 ビット	8	4K
16-127	16 ビット	4	2K
128-255	16 ビット	8	4K
256-511	16 ビット	16	8K
512-1,023	16 ビット	32	16K
1,024-2,047	16 ビット	64	32K
2,048-4,096	16 ビット	128	64K*

* Windows NT および Windows 2000 でディスク容量が 2 ～ 4GB の場合のみ使用できます。

Windows 95 OSR2、Windows 98、Windows Me、および
Windows 2000 の FAT32 クラスタサイズのデフォルト値

パーティションサイズ (GB)	クラスタあたりの セクタ数	クラスタサイズ
0.256- 8.01	8	4K
8.02-16.02	16	8K
16.03-32.04	32	16K
> 32.04	64	32K

第 5 章

パーティションの変換

この章で説明する内容は次のとおりです。

- パーティションを変換する手順
- FAT パーティションから FAT32 への変換
- FAT パーティションから NTFS への変換
- FAT32 パーティションから FAT への変換
- FAT32 パーティションから NTFS への変換
- FAT/FAT32 パーティションから 4K 境界割り当てへの変換
- NTFS パーティションから FAT または FAT32 への変換
- パーティションの論理または基本パーティションへの変換

パーティションを変換する手順

以下のファイルシステム形式を変換できます。

- FAT パーティションを FAT32 に
- FAT パーティションを NTFS に (Windows NT/2000/XP のみ)
- FAT32 パーティションを FAT に
- FAT32 パーティションを NTFS に (Windows 2000/XP のみ)
- FAT/FAT32 を 4K 境界割り当てに
- NTFS パーティションを FAT に
- NTFS パーティションを FAT32 に

基本パーティションを論理パーティションに変換したり、論理パーティションを基本パーティションに変換することもできます。

重要： PartitionMagic を緊急用ディスクから実行している場合は、FAT または FAT32 パーティションを NTFS に変換することはできません。

重要： 圧縮ドライブのファイルシステム種別を変換することはお奨めしません。最初にドライブの圧縮を解除してから、変換を実行してください。

基本的な変換手順 (ステップ 1～5) を以下に示します。ただし、各ファイルシステム種別に対して、変換を開始する前に知っておく必要のある情報があります。変換手順を実行する前に、この章の対応する見出しを参照してください。

1. 変換するパーティションを選択します。

2. [操作]→[変換]をクリックします。

[パーティションの変換] ダイアログボックスが表示されます。



3. [変換先] で、パーティションの変換後のファイルシステムを選択します。

変換するパーティションのファイルシステム形式によって、一部のオプションが淡色表示になっている場合があります。

パーティションを基本パーティションまたは論理パーティションに変換する場合は、78ページの「パーティションの論理または基本パーティションへの変換」を参照してください。

4. [OK]をクリックします。

FAT パーティションから FAT32 への変換

FAT32 パーティションはFAT パーティションより浪費ディスク領域が少なくなります。詳細については、68ページの「クラスタサイズの変更」を参照してください。ただし、次の点に注意してください。

- FAT32 パーティションにあるファイルにアクセスするには、Windows 95 OEM Service Release 2、Windows 98、Windows 2000、または Windows XP が必要です。上記のオペレーティングシステムのいずれかがマシンにインストールされていても、それ以外のオペレーティングシステムを使用している場合はFAT32 パーティションにアクセスできません。
- コンピュータの中には、すべてのメモリ内容をディスクに保存するレジューム機能(スリープモード)を備えているものもあります。この機能でFAT パーティションが必要となる場合があるため、FAT32に変換する前にコンピュータのマニュアルを参照するか、メーカーに問い合わせてください。
- FAT32 パーティションの最小推奨サイズは256MB です。

このプロセスの手順は、72 ページに示されています。

FAT パーティションから NTFS への変換

この変換は Windows NT、Windows 2000、Windows XP でのみ可能です。

[FAT から NTFS への変換]を実行すると、FAT パーティションを NTFS に変換するための Microsoft Convert ユーティリティが起動します。この変換を行うには、Windows NT/2000/XP 上で動作している必要があります。この変換は緊急用ディスクからは実行できません。

複数の OS を起動する場合、FAT から NTFS への変換は慎重に行う必要があります。NTFS にアクセス可能なのは Windows NT/2000/XP のみであり、DOS や Windows 9x、または Windows Me を起動すると、変換したパーティションのデータにはアクセスできません。

[OK]をクリックした後、未実行の操作がなく、Windows 2000 がパーティションをロックできる(開いているファイルがない)場合は、FAT パーティションが変換されます。未実行の操作がある場合は、まずそれらの操作を適用した後で、FAT から NTFS への変換を実行してください。操作を適用しないと、FAT ファイルの変換前に変更を適用するかどうか尋ねるメッセージが表示されます。変更を適用して変換を行う場合は、[OK]をクリックします。

開いているファイルがある場合は、変換ユーティリティがドライブに排他アクセスできないことを示すメッセージが表示され、即座に変換を行うかどうか尋ねられます。「Y」と入力すると、コンピュータはシャットダウンし、変換は再起動時に行われます。

FAT32 パーティションから FAT への変換

FAT ファイルシステムによりファイル記憶装置にディスク領域を割り当てる仕様であるため、この変換を完了するには、パーティションには少なくとも **300～400MB** の未使用領域が必要です。FAT パーティションは **2GB** に制限されているため、パーティションは約 **1.7GB** 以下のデータを持つ必要があります。コマンドがダイアログボックスで淡色表示されている場合は、一部のデータを削除して変換を有効にする必要があります。

FAT32 パーティションに **2GB** を超えるデータが収められている場合、このメニューコマンドは淡色表示になります。パーティションサイズが **2GB** より大きく、収められているデータが **2GB** 未満である場合は、パーティションを変換してもデータは失われません。ただし、新しいパーティションは **2039MB** になります。

この時点で、ルートディレクトリのエントリ数が多すぎるという **PartitionMagic** のメッセージが表示されることがあります。これは、FAT32 パーティションの場合と異なり、FAT パーティションでは、ルートディレクトリに格納できるエントリに上限があるためです。この場合、ルートディレクトリにあるファイルの一部を別の場所に移動またはコピーし、変換を再開します。

FAT32 パーティションから NTFS への変換

この変換は Windows 2000、Windows XP でのみ可能です。

[FAT32 から NTFS への変換] を実行すると、FAT32 パーティションを NTFS に変換するための **Microsoft Convert** ユーティリティが起動します。この変換を行うには、Windows 2000/XP 上で動作している必要があります。

DOS、Windows 9x、または Windows Me を起動した場合、NTFS パーティションのデータにはアクセスできません。

このプロセスの手順は、72 ページに示されています。

[OK] をクリックした後、未実効の操作がなく、Windows 2000/XP がパーティションをロックできる (開いているファイルがない) 場合は、FAT32 パーティションが変換されます。未実行の操作がある場合は、まずそれらの操作を適用した後で、FAT32 から NTFS への変換を実行してください。操作を適用しないと、FAT32 パーティションの変換前に変更を適用するかどうか尋ねるメッセージが表示されます。変更を適用して変換を行う場合は、[OK] をクリックします。

開いているファイルがある場合は、変換ユーティリティがドライブに排他アクセスできないことを示すメッセージが表示され、即座に変換を行うかどうか尋ねられます。「Y」と入力すると、コンピュータはシャットダウンし、変換は再起動時に行われます。

FAT/FAT32 パーティションから 4K 境界割り当てへの変換

NTFS パーティションとは異なり、FAT または FAT32 パーティションの最初のクラスタは、パーティションの先頭には配置されません。代わりに、すべての FAT クラスタは、システム領域に指定されたセクタグループの後に置かれます。このシステム領域に必要なセクタ数は可変であるため、最初のクラスタは特定の境界に割り当てられないことがあります。

FAT または FAT32 から NTFS への変換操作中に、システム領域内のすべてのセクタはクラスタに変換される必要があります。作成される NTFS パーティションのクラスタサイズは、システム領域内のセクタ数に依存します。システム領域内のセクタ数が 8 の倍数の場合、NTFS のクラスタサイズは最大 4K まで可能です (8 セクタ x 512 バイト / セクタ = 4K)。セクタ数が 8 の倍数でない場合、NTFS への変換では、より小さいセクタサイズを使用する必要があります。

FAT または FAT32 のパーティションを 4K 境界割り当てに変換する場合、操作処理ではシステム領域内のセクタ数を診断し、セクタ数が 8 の倍数かどうかを確認します。セクタ数が 8 の倍数でない場合、システム領域内のセクタ数をパディングして値を調整し、それに合わせてすべてのデータクラスタを移動します。これにより、後でパーティションを NTFS に変換する場合、作成される NTFS パーティションが 4K クラスタを持つことができます。

NTFS パーティションから FAT または FAT32 への変換

NTFS パーティションから FAT への変換では、DOS または Windows 9x/Me/NT/2000/XP からパーティションの内容を表示できます。

NTFS パーティションから FAT32 への変換では、Windows 95b/98/Me/2000/XP からパーティションの内容を表示できます。ただし、FAT32 パーティションは Windows 95a および Windows NT ではアクセスできません。

重要： NTFS から FAT に変換すると、ファイルシステム固有の情報が失われます。詳細については、76 ページの「FAT または FAT32 に変換するときに失われる NTFS 情報」を参照してください。

変換に失敗した場合は、76 ページの考えられる原因の一覧を参照してください。

NTFSパーティションからFATまたはFAT32への変換についての制限

NTFSは、FATやFAT32より更に拡張されたファイルシステムです。そのため、パーティションで使用するNTFSの機能、データタイプ、およびパーティションサイズによって、変換を完了できない場合もあります。

エラーメッセージが返され、変換が停止した場合は、一般的に次のような原因が考えられます。

- 変換対象のファイルシステムが現在のパーティションサイズに合っていません。
FAT32パーティションは256MBより大きくなければなりません。また、FATパーティションは2GB未満でなければなりません。
- メモリ上に残された、NTFSパーティションのデータが、まだハードディスクに書き込まれていません。
- Windows 2000/XPのNTFSパーティションには、圧縮ファイル、スパース(無駄なブロックを含む)ファイル、リバースポイント、または暗号化ファイルが含まれています。このような場合、スパースファイルを解凍または移動(または削除)して変換を繰り返すことができます。
- ファイルシステムに、クラスタの損失やファイルのクロスリンクなどのエラーが発生しています。問題を解決してから、変換をやり直してください。
- パーティション上で変換に必要な一時領域が不足しています。変換の最後の手順が完了するまでの間、NTFSシステムファイルとFAT32システムファイルの両方が必要になります。更に、NTFSのFRSには外部クラスタに移動して保存する必要のあるデータが含まれています。

FATまたはFAT32に変換するときに失われるNTFS情報

パーティションで使用する機能、データタイプ、およびパーティションサイズによっては、NTFSからFATまたはFAT32への変換が完了した後で、データや機能が失われる度合いについて警告が表示される場合があります。

警告	説明
エラー	<p>変換は不可能です。変換するパーティションがNTFSの拡張機能を使用しているため、予想外のデータや機能の損失が発生する場合があります。次のような場合にエラーが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none">いずれかのファイルに複数のデータストリームがあります。リンク拡張属性ファイルのユーザー定義属性デバイスエントリボリュームに無駄なブロックを含むファイルが存在します。不良セクタファイル以外の、無駄なブロックを含むファイルは、変換停止の原因になります。

警告

変換は可能です。変換の警告はエラーほど重大ではありませんが、FATやFAT32でサポートしていないNTFS固有の機能が失われる場合があります。この警告は、次のような場合に表示されます。

- ディスク使用割り当て - NTFS では、ユーザー用のディスク領域の大きさを制限する機能がサポートされています。変換後には、すべてのユーザーがすべてのハードディスク領域にアクセスできるようになります。
- アクセスコントロールリスト - ファイルにアクセスできる全ユーザーの一覧を保持するファイル属性です。変換後には、すべてのユーザーがすべてのファイルにアクセスできます。
- アクセスコントロールリストの索引 - 特定のアクセス権限が割り当てられているすべてのファイルのリストです。変換後には、すべてのユーザーがすべてのファイルにアクセスできます。
- FAST インデックスファイル - このファイルは Windows 2000 で作成される場合があります。変換後には、キーワードの索引すべてが失われます。
- 旧バージョンのファイル - NTFS にはファイルの各バージョンを保存する機能がありますが、ファイルの現バージョンのみが変換されて保存されます。

警告なし

変換は可能です。ただしファイルに与えられる機能は、NTFS パーティションの場合は、FAT/FAT32 よりも多くなります。Windows NT 4.0 を使用して NTFS パーティションから FAT パーティションにファイルをコピーした場合は、失われる機能に関する警告は表示されません。また、変換されない特定の機能に関する警告も表示されません。それは次のような機能です。

- NTFS によって内部でのみ使用される標準ジャーナルファイル - このファイルは NTFS ファイルシステムに加えられた変更のトランザクションログです。変換後には、ジャーナルファイルは失われます。
- NTFS 独自のファイル属性 - NTFS および FAT には、**[読み取り専用]**、**[アーカイブ]**、**[隠しファイル]**、**[システム]**などの標準ファイル属性があります。NTFS では、これ以外に追加ファイル属性を設定可能です。変換後には、そのような追加ファイル属性は失われます。

警告

説明

警告なし (続き)

- NTFS独自のファイルの日付 - 最終更新日はFATの日付に変換されます。変換後には、作成日、最終アクセス日、および最終更新日(ただし日付の変更のみ)が失われます。
- 信頼性の高い変更ジャーナル - このジャーナルファイルはWindows 2000における新機能です。変換後には、このファイルは失われます。

パーティションの論理または基本パーティションへの変換

ハードディスクの基本パーティション数が制限に達してしまい、基本パーティションを論理パーティションに変更する必要がある場合もあります。論理パーティションを作成すると、自動的に拡張パーティションに置かれます。その拡張パーティション内に更に論理パーティションを作成し、ディスクの最大パーティション数を増やすことができます。

オペレーティングシステムをインストールするために、論理パーティションを基本パーティションに変換する場合があります。起動可能パーティションにできるのは基本パーティションだけです。

重要： アクティブな基本パーティション(たとえば、Windows NT/2000 システムパーティション)を論理パーティションに変換すると、コンピュータがハードドライブから起動しなくなります。

1. ツールバーにある[ディスク]ドロップダウンリストから、変換するパーティションがあるディスクを選択します。
2. ディスクマップ、パーティションリスト、またはツリービューで、変換するパーティションを選択します。
3. ツールバーの[操作]→[変換]をクリックします。

[パーティションの変換]ダイアログボックスが表示されます。



4. **[基本]**または**[論理]**をクリックします。

5. **[OK]**をクリックします。

選択した基本パーティションと既存の論理パーティションの間にほかの基本パーティションがある場合は、基本パーティションを論理パーティションに変換することができません。

変換すると基本パーティションの数が4つを超えてしまう場合、またはパーティションの左側に1つまたは複数の論理パーティションがあり右側に1つまたは複数の論理パーティションがある場合は、論理パーティションを基本パーティションに変換することができません。

第 6 章

ウィザードの使用

この章で説明する内容は次のとおりです。

- 概要
- ウィザードの実行
- 新規パーティションの作成ウィザード
- パーティションサイズの変更ウィザード
- 空き領域の再配置ウィザード
- パーティションの結合ウィザード
- パーティションのコピーウィザード

概要

PartitionMagic には、一般的な作業を行うためのウィザードが5つ用意されています。ウィザードは、[操作]メニューを使用して手動で作業を行うのに代わる、別の方法を提供します。

ウィザードの実行



ウィザードを実行するには2つの方法があります。

- メニューバーを使う場合は、[ウィザード]をクリックし、実行したいウィザードをクリックします。
- または、PartitionMagic のメインウィンドウで目的のウィザードのアイコンをクリックします。ウィザードアイコンがメインウィンドウで表示されていない場合は、[表示]→[ウィザードボタン]をクリックします。

変更設定の適用

ウィザードが完了すると、入力した変更設定がメインウィンドウのディスクマップとパーティションリストに反映されます。ただし、実際に適用するまでは変更はシステムに反映されません。

ウィザードを使って入力した変更を適用 (またはキャンセル) するには3つの方法があります。

- ツールバーの  をクリックして変更を適用するか、ツールバーの  をクリックして変更を元に戻します。
- [一般]→[変更の適用] (または[すべての変更の破棄]または[最後の変更を元に戻す]) をクリックします。
- メインウィンドウの下部にある [変更の適用] または [最後の変更を元に戻す] アイコンをクリックします。アイコンがメインウィンドウの下部に表示されていない場合は、[表示]→[ウィザードボタン]をクリックします。

1つのウィザードを実行してから、別のウィザードを実行するかまたは他のパーティション操作を行った後で変更の適用 (または変更の破棄) を行うと、すべての未実行の変更を一度に適用または破棄することができます。

ウィザードアイコンを非表示にする

PartitionMagic のメインウィンドウの下部にあるウィザードボタンの表示/非表示を切り替えることができます。ウィザードボタンを非表示にすると、パーティションリストの表示領域が広がります。

1. [表示]→[ウィザードボタン]をクリックします。

選択した設定は、リセットするまで有効になります。

新規パーティションの作成ウィザード

新規パーティションの作成ウィザードは、新しい基本または論理パーティションを作成します。

新しいパーティションを作成する場合は、次の点に注意する必要があります。

- 新しいパーティションを作成するとドライブレターが変更される場合があります。たとえば、ハードドライブ上に1つの基本パーティション(C:)がありCD-ROMドライブが1つ(D:)あるときに、ハードドライブに新しい論理パーティションを作成すると、コンピュータの再起動後は新しいパーティションがD:となり、CD-ROMドライブがE:に変わります。その結果、ハードドライブ上のプログラムでCD-ROMにリンクされていたものは、ファイルのパスが変わってしまったため動作しなくなる可能性があります。このような場合、DriveMapperを実行してエラーを修復できます。
- 新しいパーティションに対して選択したファイルシステムによって、そのパーティションにアクセス可能なオペレーティングシステムシステムが決まります。ウィザードのダイアログボックスに、選択した項目に関する情報が表示されます。たとえばFAT32パーティションの作成を選択した場合、FAT32パーティションはWindows 95 OEM Service Release 2、Windows 98、Windows Me、およびWindows 2000で使用されるがWindows 3.xおよびDOSではそれにアクセスできない旨がウィザードによって表示されます。ダイアログボックスに表示される情報には十分注意してください。誤ってデータにアクセスできなくなるような事態も考えられます。
- Windows NTをインストールする前に、Windows NTが認識するすべてのパーティションがシリンダ1024よりも前で終わっていることを確認してください。そうでないと、Windows NTをインストールすることができず、すべてのパーティションが壊れているというメッセージが表示されます。すべてのパーティションをサイズ変更および移動できない場合は、MicrosoftのWebサイトにある記事ID:Q197667を参照し、最新のドライバを入手してから、Windows NTをインストールする必要があります。
- ウィザードから変更を適用してコンピュータを再起動すると、オペレーティングシステムによって新しいパーティションにドライブレターが割り当てられます。この段階で、新しいパーティションにデータを保存したりオペレーティングシステムをインストールすることができます。

新しく作成した基本パーティションにオペレーティングシステムをインストールする場合は、38ページの「新しいオペレーティングシステムのインストール」を参照してください。

パーティションサイズの変更ウィザード

パーティションサイズの変更ウィザードはパーティションのサイズを変更するために使用します。このウィザードでは、その結果が同じディスクの他のパーティションにどのように影響するかを指定することができます。たとえばパーティションC:とD:があり、C:のサイズを大きくする場合、D:の領域をC:に割り当てることができます。

ウィザードを使用せずにパーティションのサイズを変更する方法については、28 ページの「パーティションのサイズ変更と移動」を参照してください。

空き領域の再配置ウィザード

空き領域の再配置ウィザードは、ハードディスク上の空き領域が各パーティションで同じになるように、空き領域を再配置します。空き領域とは、パーティション内の未使用領域や、どのパーティションにも割り当てられていない領域を意味します。

1つのハードディスク上の空き領域を一度に再配置することができます。複数のディスクにまたがって空き領域を再配置することはできません。

ウィザードを使用せずに空き領域を再配置する方法については、28 ページの「パーティションのサイズ変更と移動」を参照してください。

パーティションの結合ウィザード

パーティションの結合ウィザードは、2つの隣接するFAT、FAT32、またはNTFSパーティションを結合するために使用します。2つのパーティションを選択すると、最初のパーティションが拡大されて2番目のパーティションを取り込みます。2番目のパーティションの内容は、最初のパーティションにフォルダとして追加されます。

パーティションを結合したら、DriveMapperを実行してドライブレターへの参照を更新することをお奨めします。ウィザードは、DriveMapperを自動的に実行するようにユーザーを促します。

パーティションのコピーウィザード

パーティションのコピーウィザードは、パーティションを複製するために使用します。コピーされたパーティションは、元のパーティションと同じサイズ、同じファイル種別で、同じデータを含んでいます。パーティションのコピーは、コピー先のハードディスクと空き領域を指定して実行します。必要に応じて、ウィザードは隣接するパーティションのサイズを変更して、コピーを実行するために十分な領域を作成します。

第 7 章

PartitionMagic Pro の機能

この章では、PartitionMagic Pro でのみ利用できる以下の機能について説明します。

- リモートエージェント
- スクリプト処理
- コマンドラインスイッチ

リモートエージェント

重要： リモートエージェントは PartitionMagic Pro でのみ利用可能です。PartitionMagic の市販版では回線機能は実行できません。

リモートエージェント(RA)は、リモートマシン上で動作する DOS アプリケーションであり、PartitionMagic は TCP/IP 接続を使用して回線経由でリモートエージェントにアクセスできます。リモートエージェントを使用すると、以下のことが可能です。

- リモートエージェント起動ディスクが動作しているリモートマシンと、PartitionMagic が動作している Windows マシンの間で、パーティションをコピーまたは移動する。
- リモートパーティションを削除する。
- リモートパーティションを作成する。
- リモートパーティションの状態を診断する。

過大なネットワークトラフィックが生じるため、リモートエージェントを使用してリモートマシン上の 1 つのハードディスクから同じマシン上の別のハードディスクにパーティションをコピーまたは移動することはできません。

3 段階の手順

[一般] メニューの [リモートエージェントの接続] コマンドの使用は、次の 3 段階の手順からなります。

1. Boot Disk Builder プログラムを使用してリモートエージェント起動ディスクを作成します。詳細については、87 ページの「リモートエージェント起動ディスクの作成」を参照してください。

このディスクを使用してリモートマシンを起動することにより、PartitionMagic が動作するコンピュータがリモートマシンと通信できるようになります。

2. 手順 1 で作成したリモートエージェント起動ディスクを使用して、リモートマシンを起動します。詳細については、91 ページの「リモートエージェント起動ディスクの使用」を参照してください。
3. [リモートエージェントの接続] オプションを使用して、PartitionMagic が動作しているマシンからリモートマシンにアクセスします。詳細については、92 ページの「リモートマシンにアクセスする」を参照してください。

これで、Windows マシンとリモートマシンの間で操作を行うことが可能になります。メインウィンドウの左側のツリービューとパーティションリストにリモートドライブ上のパーティションが表示され、ローカルパーティションと同様に選択できます。

リモートエージェント起動ディスクの作成

リモートエージェントを実行するには、リモートエージェント起動ディスクを作成する必要があります。このディスクは、Boot Disk Builder または DOS バッチファイルで作成できます。

Boot Disk Builder

Boot Disk Builder を使って、リモートエージェントを実行するための起動ディスクを作成できます。Boot Disk Builder は、PartitionMagic Pro のインストール時にインストールされます。PartitionMagic の市販版では、リモートエージェントは利用できません。

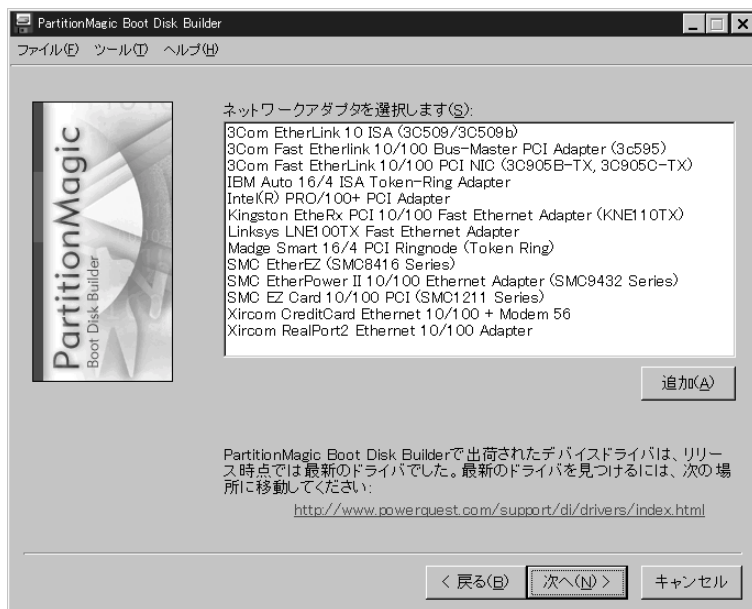
1. Windows のタスクバーから、[スタート]→[プログラム]→[PowerQuest PartitionMagic Pro 7.0]→[Boot Disk Builder] をクリックします。



2. Boot Disk Builder ウィンドウで、[次へ] をクリックします。

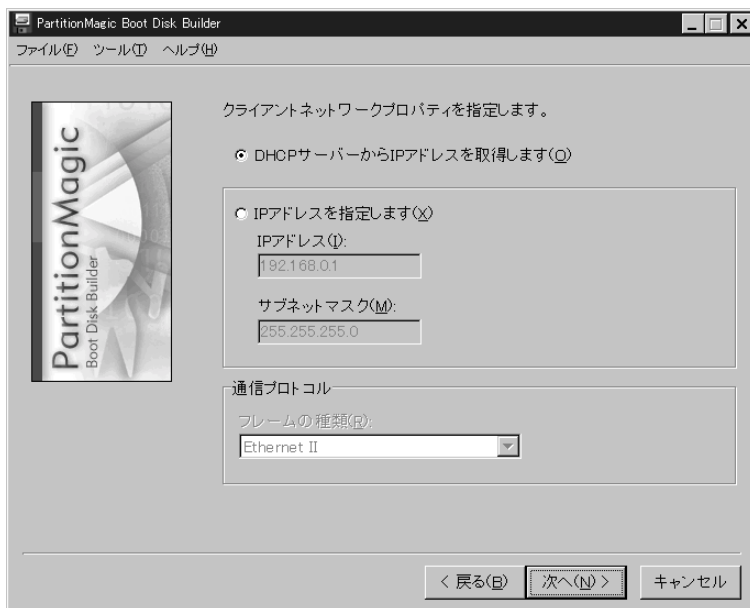
既に作成して保存した設定ファイルを使用するために、Boot Disk Builder のメイン画面から [ファイル]→[設定のロード] をクリックし、使用する設定ファイル (*.BDC) を選択して、[開く] をクリックします。

3. ネットワークアダプタが表示されている場合は、手順 7 に進みます。ネットワークアダプタが表示されていない場合は、**[追加]**をクリックします。ネットワークアダプタのドライバ情報ファイル(*.INF)を指定して、**[次へ]**をクリックし手順4を続行します。



4. リストから1つまたは複数のネットワークアダプタを選択して、**[次へ]**をクリックします。
5. Novell NetWare DOSクライアントのドライバファイルを指定し、**[次へ]**をクリックします。
6. **[完了]**をクリックします。
7. 使用するネットワークアダプタをリストボックスから選択します。

8. [次へ]をクリックします。



9. DHCPサーバーを使用する場合は、[DHCPサーバーからIPアドレスを取得します]をクリックします。この場合、ネットマスクとデフォルトゲートウェイは自動的に提供されます。

DHCPサーバーがない場合は、IPアドレスとサブネットマスクを指定します。

ネットワークのフレームタイプとして、Ethernet IIが表示されます。

10. [次へ]をクリックします。



11. DOS 起動ディスクを作成するドライブレターをクリックするか、[起動ディスクの内容をフォルダにコピーします]をクリックしてフォルダのフルパスを指定します。

12. 初期化済みのディスクを挿入します。

起動ディスクが既があり、Boot Disk Builderに付属のCaldera DOSファイルの代わりに通常のDOSファイルを使用したい場合は、次の手順を実行します。

- a. 起動ディスクを挿入し、[ツール]→[DOS 参照ディスクのロード]→[A: から]をクリックします。挿入した起動ディスクのファイルが、Boot Disk Builderのインストール先のREFDISKディレクトリにコピーされます。リモートエージェントに必要なファイル以外でファイルが多すぎる場合は、CONFIG.SYSファイルとCONFIG.SYSファイルで起動されるドライバ以外をすべて削除できます。
 - b. ダイアログボックスの下部にある[DOS ファイルの参照ディスクの使用]を選択します。
 - c. 起動ディスクを取り出して、リモートエージェント起動ディスクとして使用するフォーマット済みディスクを挿入します。最初に挿入した起動ディスクを取り出さないと、Boot Disk Builderはその上にファイルを上書きしてしまいます。
13. 後で使用するために選択内容を保存しておくには、[ファイル]→[設定の保存]をクリックし、ファイルに名前を付けて保存します。

14. 選択した内容を変更する場合は、**[戻る]**をクリックします。変更する必要がなければ、**[完了]**をクリックして起動ディスクを作成します。

選択したネットワークインターフェイスカードによっては、ネットワークファイルとリモートエージェントファイルに2枚のディスクが必要な場合があります。2枚目のディスクが必要な場合は、メッセージが表示されます。

起動ディスクが作成が終了したら、別の起動ディスクを作成することができます。

起動ディスクを使用すると、リモートエージェントが起動し、IPアドレス設定を指定できます。それにより、“回線を通じた”操作が可能になります。

起動ディスクのファイル

リモートエージェント起動ディスクには、以下のファイルが含まれています。

- NIC ドライバ
- AUTOEXEC.BAT
- COMMAND.COM
- CONFIG.SYS
- HIMEM.SYS
- IBMBIO.COM
- KICKNIC.COM
- LSL.COM
- MOUSE.COM
- MOUSE.INI
- NET.CFG
- PING.EXE
- RA.EXE
- RAHELP.TXT
- WATTCP.CFG

リモートマシンに起動可能パーティションがある場合は、起動ディスクからそのパーティションにファイルをコピーして、ハードディスクからリモートエージェントをDOSの下で実行することもできます。

リモートエージェント起動ディスクの使用

1. リモートマシンのフロッピードライブにリモートエージェント起動ディスクを挿入して、マシンを起動します。

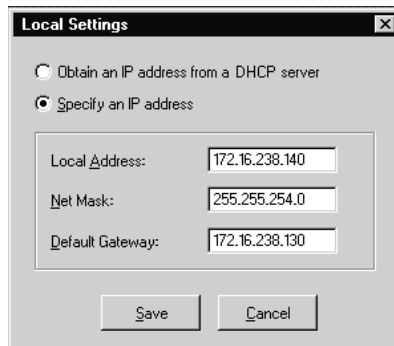
[Remote Agent] ダイアログボックスが表示されます。リモートエージェントはWindowsマシン上のPartitionMagicからの接続を待っています。

リモートマシンのIPアドレスの指定

リモートマシン上で最初にリモートエージェントを実行するときには、ネットワークの環境設定を指定しなければならないことがあります。

1. **[Remote Agent]** ダイアログボックスで、**[Settings]**をクリックします。
2. DHCPサーバーを使用する場合は、**[Obtain an IP address from DHCP Server]**をクリックします。

または、[Specify an IP address]をクリックし、静的なローカルアドレス、ネットマスク、およびデフォルトゲートウェイを入力します。




3. [Save]をクリックします。

[Local Settings] ダイアログボックスで指定した情報は、起動ディスクの WATTCP.CFG ファイルに保存されます。

これでリモートエージェントが使用可能になり、Windows マシン上の PartitionMagic Pro からの接続を待ちます。接続が確立されると、Windows マシンからパーティションのコピーなどの操作をリモートマシンに送信できます。

リモートマシンにアクセスする

リモートエージェント起動ディスクを使ってリモートマシンを起動すると、Windows マシン上の PartitionMagic Pro からリモートマシンにアクセスできるようになります。

1. Windows マシンから PartitionMagic Pro を起動します。
2. [一般]→[リモートエージェントの接続]をクリックするか、ツールバーの  をクリックします。
3. リモートエージェントが動作しているマシンのローカル IP アドレスを入力します。
4. [接続]をクリックします。
5. リモートマシン上で実行する操作を選択します。
メニュー上で淡色表示になっている操作は実行できません。

スクリプト処理

PowerQuest PartitionMagic Pro スクリプトを使用してコンピュータ上のパーティションとボリュームを変更できます。スクリプトとは、実行する処理操作を定義したテキストステートメントが記述されている ASCII テキストファイルです。ScriptBuilder またはテキストエディタを使用して、スクリプトファイルを作成できます。

スクリプト処理の詳細については、PartitionMagic Pro オンラインヘルプ、または PartitionMagic Pro CD の Docs フォルダにある PMSCRIPT.PDF ファイルを参照してください。

緊急用ディスクからのスクリプトの実行

PartitionMagic Pro を使用している場合は、緊急用ディスクの内容を修正して PartitionMagic がスクリプトファイルで自動的に実行されるようにできます。

1. PartitionMagic 7.0 ディスク 1 にある AUTOEXEC.BAT ファイルを開きます。
2. PQMAGIC を含む行を次のように編集します。「SCRIPT.TXT」は実行したいスクリプトファイルの名前で置き換えてください。

```
PQMAGIC /CMD=SCRIPT.TXT
```

重要： PQMAGIC コマンドを含む行の最後にはハードリターンを入れないでください。AUTOEXEC.BAT ファイルにそれ以外の変更を加えてはなりません。

3. AUTOEXEC.BAT ファイルを保存します。
4. AUTOEXEC.BAT ファイルを PartitionMagic 7.0 ディスク 2 とディスク 3 にコピーします。

このファイルの内容は 2 枚のディスク上で同じにする必要があります。内容が違っている場合、PartitionMagic が正しく動作しません。

1 枚目のディスクから起動すると、PartitionMagic は指定されたスクリプトファイルを実行します。スクリプトの詳細については、PartitionMagic ヘルプを参照してください。

コマンドラインスイッチ

PartitionMagic Pro には、PartitionMagic の市販版で提供されるコマンドラインスイッチに加え、ここで説明するコマンドラインスイッチがあります。

PartitionMagic の市販版と Pro 版でサポートするスイッチの一覧については、8 ページの「コマンドラインスイッチ」を参照してください。

次のコマンドラインオプションは、特に断りがない限り、Windows 版と DOS (緊急用ディスク) 版の PartitionMagic Pro でサポートされます。複数のオプションを指定する場合、その順序は重要ではありません。

スイッチ	説明
/CMD	スクリプトファイル名をプログラムに渡すために使用されるパラメータです。たとえば、PQMAGIC /CMD=script.txt は、PartitionMagic を起動し、script.txt と呼ばれるスクリプトを実行します。
/ERR	<p>重要： /ERR パラメータは、PartitionMagic Pro の緊急用ディスクバージョンでのみ使用できます (PQMAGIC.EXE)。</p> <p>エラーパラメータは、プログラムがエラー終了した場合に作成されるファイルを指定するために使用します。多くの操作では、スクリプト実行の後にマシンを再起動する必要があるため、PartitionMagic 内のエラーメッセージを常に表示できるわけではありません。/ERR スイッチを指定してプログラムがエラーで終了すると、/ERR で指定したファイルにエラー番号が置かれます。PartitionMagic がエラーなしで終了した場合、/ERR パラメータを指定したとしても、そのエラーファイルは削除されます。このパラメータを使うと、エラーファイルの有無を調べるプログラムを作成して、スクリプトの実行に成功したかどうかを判断できます。/ERR スイッチの代わりに /LOG スイッチを使用すると、発生するエラーはエラーの説明と一緒にログファイルに表示されます。前述のパラメータとともにエラーパラメータを使用する構文は、次のとおりです。</p> <pre>PQMAGIC /CMD=SCRIPT.TXT /LOG=RESULTS.FIL /ERR=ERROR.FIL</pre>
/LOG	<p>スクリプトからプログラムを実行する場合は、すべての処理をログに記録しておくようにしてください。/LOG パラメータは、/CMD パラメータを使ってスクリプト実行中の内容を正確に調べるときに最も有用です。/LOG パラメータを使用して、スクリプトコマンドのすべての実行結果を出力するログファイル名を指定します。指定したファイルには、実際にキーボードから入力してプログラムを実行したかのように、各コマンドとそのコマンドの結果が出力されます。</p> <p>RESULTS.FIL というログを指定する場合、コマンドラインは次のようになります。</p> <pre>PQMAGIC /CMD=SCRIPT.TXT /LOG=RESULTS.FIL</pre> <p>重要： ログファイルが作成されたパーティションを変更しないでください。ログファイルは、PQMAGIC を実行したパーティション上に作成されます。このパーティションを変更する場合は、/LOG スイッチを使用しないでください。/LOG スイッチを使用すると、パーティションが損傷します。</p>

スイッチ	説明
------	----

/NRF	<p>このパラメータを使用してファイル名を指定すると、そのファイルが存在する場合、スクリプトの実行を中止できます。このパラメータをログインスクリプトまたは <code>autoexec.bat</code> に指定するとにより、プログラムが2回実行されるのを避けることができます。/LOG ファイルまたは/ERR ファイルを指定した場合、/NRF パラメータによってこれらのファイルが検索され、ファイルが存在するとプログラムは実行されません。たとえば、/ERR オプションが含まれた前述のパラメータを使用してスクリプトを実行すると、プログラムは既に一度実行されているので、RESULT.FIL が存在する場合、次に示す構文によりプログラムの実行を中止できます。</p>
------	---

複数のファイルの有無を調べる必要がある場合は、/NRF パラメータをコマンドラインで複数回使えます。

```
PQMAGIC /CMD=SCRIPT.TXT /LOG=RESULTS.FIL  
/ERR=ERROR.FIL /NRF=RESULTS.FIL
```

/SCO	<p>このパラメータは、スクリプトの構文をチェックするために使います。このパラメータによって、操作が実行される前に常にパーティションが選択されていることが確認され、すべてのスクリプトコマンドの構文がチェックされます。選択されたパーティションステートメントで指定されているボリュームラベルが一意かどうかにもチェックされます。実際にスクリプトが実行されることはありません。構文チェックでは、移動する領域がないのにパーティションを移動しようとしたといった論理エラーを検出しません。</p>
------	---

このパラメータは、必要に応じて/LOG ファイルと一緒に使用できます。構文チェックが正しく行われた場合は、それを示すステートメントが表示されます。/SCO パラメータの使用方法は以下のとおりです。

```
PQMAGIC /CMD=SCRIPT.TXT /SCO
```

第 8 章

PartitionMagic ユーティリティの使用

この章で説明する内容は次のとおりです。

- DriveMapper によるドライブレター参照の変更
- PQBoot による起動可能パーティションの変更

DriveMapperによるドライブレター参照の変更

パーティションを作成、結合、削除、非表示、または表示すると、ドライブレターが変更される場合があります。その場合、アプリケーションのショートカット、初期設定ファイル、およびレジストリ項目が誤ったドライブを参照するため、アプリケーションが動作しなくなります。DriveMapperは、ドライブレターの参照を簡単に更新できるようにするウィザードです。

重要： DriveMapper は、ドライブレターの割り当てを変更しません。オペレーティングシステムに割り当てられたドライブレターへの参照を変更するだけです。

DriveMapperは、次の条件がすべて満たされた場合は自動的に実行されます。

- ドライブレターの割り当てに影響するような変更をシステムに適用した。
- Windows 95またはWindows 98上で作業している。
- ハードディスクにはFATパーティションまたはFAT32パーティションのみが含まれる。
- 複数のCD-ROMドライブまたはリムーバブルドライブを使用していない。

DriveMapperを手動で実行するには

1. PartitionMagicのメインウィンドウから、[ツール]→[DriveMapper]をクリックします。

Windowsタスクバーから、[スタート]→[プログラム]→[PowerQuest PartitionMagic]→[DriveMapper]をクリックすることもできます。

オペレーティングシステムとしてWindows NTまたはWindows 2000/XP Professionalだけを使用している場合は、DriveMapperの代わりに[ドライブレターの変更]を使用することをお奨めします。[ドライブレターの変更]を使うと、パーティションにドライブレターを恒久的に設定でき、他のパーティションの追加や削除によるドライブレターへの影響がなくなります。ただし、パーティションを結合または分割すると、Windows NT/2000/XPで[ドライブレターの変更]を使用した場合でもドライブレターが変更されます。

Windows 3.1またはWindows 95/98でデスクトップ環境を変えるユーティリティをインストールしてある場合は、ファイルがWindowsのシステムファイルと異なるドライブに格納されていると、DriveMapperでパスを調整できないことがあります。DriveMapperはWindowsプログラムであるため、Windowsがロードされていないと実行できません。デスクトップファイルを格納しているドライブのドライブレターが変更されると、Windowsを起動できなくなる可能性があります。

オペレーティングシステムでドライブレターを割り当てる方法の詳細については、121ページの「CD-ROMにドライブレターを割り当てる」を参照してください。

複数のオペレーティングシステムに対する DriveMapper の使用

複数のオペレーティングシステムが動作している場合は、DriveMapper を使用せずにアプリケーションを再インストールすることをお奨めします。以下のような問題があるため、複数のオペレーティングシステムに対して DriveMapper を使用することは困難であり、エラーが発生しやすくなります。

- ドライブレターの割り当てはオペレーティングシステムでサポートされるファイルシステムに基づいています。すべての FAT32 および NTFS パーティションをすべての FAT パーティションの後に配置しないと、現在動作しているオペレーティングシステムに基づいてドライブレターが変更され、DriveMapper がどのように変更を行うべきか正しく判断できなくなる場合があります。
- レジストリ設定は、現在のオペレーティングシステムに対してのみ変更されます。DriveMapper を別のオペレーティングシステムから手動で実行する場合、ファイルの参照は既に現在のオペレーティングシステムに変更されているため、変更するとその他のオペレーティングシステムでエラーが誘発されます。
- DriveMapper を実行すると、非表示パーティションに含まれるファイルは更新されません。異なるオペレーティングシステムに対して複数の基本パーティションを使用している場合は、更新されるアクティブな基本パーティションだけが表示されます。

正しい順序によるドライブレターの変更

DriveMapper は正しい順序でドライブレターを変更する必要があります。そうしないと、元の参照を他のドライブレターの変更に使用する前に置き換えてしまう可能性が生じます。

たとえば、ハードディスクに2つのパーティション(基本パーティション C: と論理パーティション D:) があり、1つの CD-ROM ドライブ E: がある場合を考えます。ここで C: と D: の間に論理パーティションを作成します。すると、ドライブレター D: は E: に変更され、E: は F: に変更されます。しかし、いくつかのファイル(ショートカットなど)内の参照はまだ元のドライブレター割り当てを反映しています。DriveMapper は、まずドライブ E: の参照を F: に変更してから、ドライブ D: の参照を E: に変更する必要があります。

DriveMapper は自動的に変更を正しい順序で行います。したがって、DriveMapper が選択したとおりの順序で変更を適用することを強く推奨します。

PQBootによる起動可能パーティションの変更

PQBoot (英語版のみ)を使用すると、起動可能な基本パーティションをすばやく簡単に切り替えることができます。PQBootは、アクティブパーティションを一時的に変更するだけで、BootMagicを使用したくないユーザーに適しています。BootMagicの詳細については、103 ページの「BootMagicの使用」を参照してください。

1. (Windows 95/98/Me、Windows NT workstation、または Windows 2000/XP Professional の場合) [スタート]→[プログラム]→[PowerQuest PartitionMagic 7.0]→[PQBoot]をクリックします。Windows 95/98/Me では、PQVXD.VXD が PQBOOT32.EXE と同じディレクトリにある場合のみ PQBoot32 が実行されます。

(DOS の場合) DOS プロンプトを表示します。PQBOOT.EXE または PQBOOTX.EXE を含むディレクトリに変更し、「PQBOOT」または「PQBOOTX」と入力して Enter キーを押します。

未使用領域が制限されたフロッピーディスクに収まる高速で規模の小さい実行可能ファイルを望むなら PQBOOT を使用します。ただし、PQBOOT は FAT または FAT32 のパーティションのボリュームラベルを正しく表示しない場合があります、NTFS パーティションのボリュームラベルはまったく表示しません。

実行可能ファイルのサイズとスピードが重大でない場合は PQBOOTX を使用します。PQBOOTX は、FAT、FAT32、および NTFS パーティションのすべてのボリュームラベルを表示します。

2. Windows を使用している場合はメッセージが表示され、PQBoot が MS-DOS モードで実行されること、そして処理を続けると他のプログラムがすべて終了されることが示されます。処理を続ける場合は、[はい]をクリックします。

PQBoot はすべての基本パーティションの一覧を表示します。

3. すべての起動可能なパーティションの一覧を表示しますので、起動可能な基本パーティションにするパーティションの ID 番号を入力します。ID 番号は最初の列に表示されています。

[Status] 列を見て、パーティションが起動可能であることを確認します。

4. Enter キーを押します。

PQBoot はパーティションをアクティブにし、コンピュータを再起動します。Windows NT 上で複数の表示された基本パーティションを保持する必要がある場合は、PQBoot を /M スイッチとともに使用する必要があります。

PQBootのコマンドラインスイッチ

PQBootではいくつかのコマンドラインスイッチが使用できます。これは、アクティブにしたいパーティションのID番号またはボリューム名を知っている場合に便利です。スイッチを使用する場合は、PQBootをDOSプロンプトから実行します。サポートされているスイッチは次のとおりです。

- /Aを指定すると、再起動せずにパーティションをアクティブにできます。
- /Mによって、各パーティションの表示/非表示の状態が保持されます。複数の表示されたパーティションを検索する Windows NT の場合は、/M スwitchを指定して PQBoot を起動する必要があります。
- /P:<番号>を指定すると、パーティションのID番号を使ってアクティブパーティションを選択できます。
- /Sを指定すると、ID番号やボリューム名などのパーティション情報が表示されます。
- /V:<ラベル>を指定すると、パーティションのボリュームラベルを使ってアクティブパーティションを選択できます。
- /?を指定すると、スイッチの簡単な説明と使い方の例が表示されます。

たとえば、利用可能な2つ目の起動可能パーティションを再起動せずにアクティブに設定するには、「PQBOOT /P:2 /A」と入力します。

コマンドラインスイッチによるPQBootの実行

1. DOSプロンプトを表示します。
2. PQBootを含むディレクトリに移動します。通常は、
C:\ProgramFiles\PowerQuest\PartitionMagic 7.0\UTILITY または
C:\ProgramFiles\PowerQuest\PartitionMagic Pro 7.0\UTILITY (PRO版) です。
3. (DOSの場合)「PQBOOT switch」か「PQBOOTX switch」と入力します。switchのところに該当するスイッチを入力します。
(Windows 95 以上の場合)「PQBOOT32 switch」と入力します。

第 9 章

BootMagic の使用

この章で説明する内容は次のとおりです。

- はじめに
- BootMagic の設定
- BootMagic のパスワードの設定
- BootMagic メニューへの OS の追加
- BootMagic メニューからの項目の削除
- メニュー項目のプロパティの変更
- デフォルト OS の設定
- 別のハードディスクからの起動
- 起動時間の設定
- BootMagic の無効化
- BootMagic メニューの使い方
- BootMagic によるオペレーティングシステムのインストール

はじめに

PowerQuest の BootMagic は、1 台の PC 上で複数のオペレーティングシステムを実行できる強力なディスク管理ツールです。コンピュータを起動または再起動するたびに、BootMagic メニューに起動可能な OS (オペレーティングシステム) のリストが表示されます。環境設定プログラムを使用して、BootMagic メニューに表示される OS を簡単に選択できます。デフォルト OS や起動時間など、起動時の各種のオプションも設定できます。

BootMagic では、OS 間を簡単に切り替えることができます。作業中に別の OS が必要になったときに、すぐに変更できます。新しい OS を試す場合も、必要に応じて古い OS にいつでも切り替えることができるので、リスクを避けることができます。

BootMagic のシステム構成

次の表は、BootMagic をインストールして使用するために推奨される最小限のシステム構成です。

ハードウェア/ソフトウェア	最低要件	推奨
プロセッサ	Intel/486SX	486 以上
RAM	4MB (Windows 9 x および Windows NT/2000 には追加メモリが必要)	16MB 以上
ハードディスク空き領域	10MB	10MB
CD-ROM ドライブ	何倍速でも可	何倍速でも可
3.5 インチフロッピーディスクドライブ	3.5 インチフロッピーディスクドライブ	3.5 インチフロッピーディスクドライブ
オペレーティングシステム	Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows XP、DOS 5.0 以降	Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、Windows XP、DOS 5.0 以降
モニタ	VGA	Super-VGA
ポインティングデバイス	なし	Microsoft マウスまたは互換ポインティングデバイス

サポートされているオペレーティングシステム

BootMagic は次の OS をサポートしています。

- Windows 98
- Windows 95
- Windows Me
- Windows NT 4.0
- Windows NT 3.51
- Windows 3.x (DOS 5以降がインストールされたものに限定)
- MS-DOS 5.0以降
- Windows 2000
- Windows XP
- MS-DOS 6.1以降
- Open DOS
- Linux
- BeOS
- ほかの大部分のバージョンの DOS
- その他の PC 互換 OS

BootMagic のインストール

BootMagic は、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 3.51/4.0、Windows 2000 Professional、Windows XP、および DOS 5.0 以降からインストールできます。

重要： BootMagic は、最初のハードディスクの FAT または FAT32 基本パーティションにインストールします。BootMagic のインストール時には最初のハードディスクから起動しなければなりません。そうしないと、正常に動作しない可能性があります。

1. CD-ROM ドライブに PartitionMagic CD を挿入します。

Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0、Windows 2000、または Windows XP では、CD-ROM ドライブに CD-ROM を挿入すると、セットアッププログラムが自動的に起動されます。

2. PartitionMagic CD からインストールする場合は、PartitionMagic セットアップ画面で [インストール] をクリックし、[BootMagic] をクリックします。BootMagic インストールプログラムが起動します。

DOS を使用している場合は、「drive:¥BTMAGIC¥DOS¥INSTALL.EXE」と入力します。ここで「drive」は CD-ROM ドライブのドライブレターです。

3. 画面に表示される指示に従って BootMagic をインストールします。

BootMagic をインストールすると、BootMagic によってシステムのハードディスクが検索されます。このとき、パーティションテーブルが参照され、現在インストールされている各オペレーティングシステムの情報が集められます。次に、環境設定プログラムが自動的に実行され、検出されたすべての OS が **BootMagic メニュー** に追加されます。

この時点で、メニューのリストに表示された項目の変更が必要になる場合もあります。BootMagic はほとんどの OS を確実に検出する一方で、非 OS パーティションも検出することもあります。たとえば、最初のディスクに NTFS 基本データパーティションがあると、

そのパーティションが Windows NT として検出されることがあります。データパーティションは、OS を含まずにデータだけを含むパーティションです。同様に、FAT16 または FAT32 の基本データパーティションが MS-DOS または Windows 95/98 として検出される場合があります。データパーティションは起動できないので、メニューリストから削除する必要があります。ほかの OS を追加または削除したり、OS 名とアイコンを分かりやすく変更することもできます。パスワード、新しい起動時間、または別のデフォルト OS を設定することもできます。

メニューのリストから OS でないパーティションを検出する方法については、BootMagic オンラインヘルプの「適切なオペレーティングシステムの検索」を参照してください。環境設定プログラムの使い方の詳細については、このガイドの 107 ページの「BootMagic の設定」またはオンラインヘルプを参照してください。

必要な変更を行った後で、**[保存して終了]** をクリックします。コンピュータを再起動すると、BootMagic メニューが表示されます。OS を起動するには、BootMagic メニューの対応するメニュー項目を選択します。

BootMagic 緊急用ディスクの作成

インストール中に、BootMagic 緊急用ディスクを作成することができます。DOS を使用している場合は、BootMagic DOS のインストール後に「drive:¥BTMAGIC.PQ¥MKRESCUE.BAT」を実行して、緊急用ディスクを作成します。システムのマスターブートレコード(MBR)を損傷または上書きしてしまった場合は、緊急用ディスクが必要です。BootMagic を間違えて無効にし、再び有効にしようとしても環境設定プログラムにアクセスできないときがあります。このような場合にも、緊急用ディスクが役立ちます。

警告： お客様が緊急用ディスクを作成していない場合、テクニカルサポートはお役に立ってないことがあります。

緊急用ディスクから BootMagic の環境設定プログラムを起動するには、緊急用ディスクから起動して画面に表示される指示に従います。

環境設定プログラムが起動すると、必要に応じて変更または追加を行うことができます。**[保存して終了]** をクリックして環境設定プログラムを終了すると、すべての必要なファイルが保存し直され、MBR が書き替えられます。プログラムは、正常な状態に戻ります。

ヘルプの表示

この章で説明しなかった BootMagic のすべての機能の情報については、オンラインヘルプを参照してください。

- Windows 環境設定プログラムのヘルプにアクセスするには、メニューバーから **[ヘルプ]** → **[目次]** を選択します。
- DOS 環境設定プログラムのヘルプにアクセスするには、メニューバーから **[ヘルプ]** → **[トピック一覧]** を選択します。
- 画面の各部分に対応したヘルプを表示するには、各ダイアログボックスの右下の **[ヘルプ]** をクリックするか、F1 キーを押します。

BootMagicの設定

BootMagicの環境設定プログラムは、DOS用のバージョンとWindows用のバージョンの2つがあります。2つのバージョンは、インターフェースが多少異なるだけで機能は同じです。

BootMagicの環境設定プログラムは、次の方法に従って手動で起動できます。

- Windowsで[スタート]→[プログラム]→[PowerQuest BootMagic]→[BootMagic 環境設定]を選択します。
- DOSで、「drive:¥BTMAGIC.PQ¥CONFIG.BAT」を実行します。
- PartitionMagicのメインウィンドウから、[ツール]→[BootMagic 環境設定]をクリックします。

環境設定プログラムを実行すると、BootMagicのメインウィンドウが表示されます。



このウィンドウで、環境設定プログラム、BootMagicメニュー、または各メニュー項目のパスワードを設定できます。ほかのオプションとして、BootMagicメニューのOSの追加と削除、BootMagicでのOSプロパティの変更、デフォルトOSの設定、起動時間の設定、BootMagicの無効化を行うこともできます。各オプションについて、以下に簡単に紹介します。バックグラウンドのビットマップを変更することもできます。BootMagicの環境設定の詳細については、オンラインヘルプを参照してください。

BootMagic のパスワードの設定

BootMagic では、環境設定プログラム、BootMagic メニュー、または各メニュー項目をパスワードで保護できるようになりました。

1. BootMagic のメインウィンドウで、[オプション]メニューをクリックします。
2. 環境設定プログラムを保護するには、[環境設定パスワードの設定]を選択します。
BootMagic メニューを保護するには、[起動時パスワードの設定]を選択します。
3. [古いパスワード]テキストボックスに現在のパスワードを入力します。
設定済みのパスワードがない場合、[古いパスワード]テキストボックスは空白のまま無効状態になります。
4. [新しいパスワード]テキストボックスに新しいパスワードを入力します。
5. [新しいパスワードの確認] テキストボックスに新しいパスワードをもう一度入力します。
6. [OK]をクリックします。

パスワードを削除するには、古いパスワードを入力して、新しいパスワードのフィールドを空白にします。

BootMagic メニューの項目別にパスワードを設定するには、メニュー項目のプロパティを変更します。詳細については、110ページの「メニュー項目のプロパティの変更」または BootMagic オンラインヘルプを参照してください。

BootMagic メニューへの OS の追加

1. BootMagic のメインウィンドウで、[追加]をクリックします。
[BootMagic に OS を追加] ダイアログボックスが表示されます。
2. (必要に応じて) [拡張] チェックボックスをチェックすると、ハードディスク上のすべてのパーティションが表示されます。これには、OS (論理パーティション上の Linux など) を含むパーティションとして認識されなかったパーティションも含まれます。
3. BootMagic メニューに追加する OS を選択します。

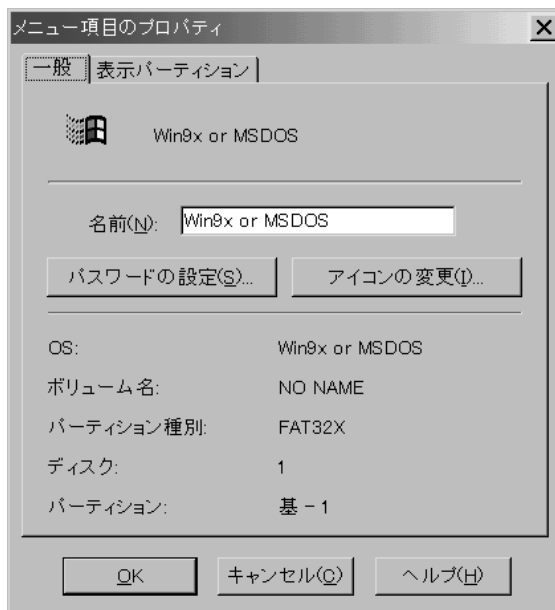
BootMagic で検出した OS が存在していなかったり、存在していても名前が異なる場合があります。必要な OS とパーティションを検索する方法については、BootMagic オンラインヘルプの「適切なオペレーティング システムを判断する」を参照してください。

警告： BootMagic メニューには、OS がインストールされていないパーティションを追加しないでください。OS がインストールされていないパーティションからはコンピュータを起動できません。OS がインストールされていないパーティションを追加してコンピュータを起動しようとすると、画面には何も表示されません。

この場合は、Ctrl+Alt+Deleteを押して、コンピュータをソフトブートします。次に、BootMagic メニューからDOSまたはWindowsを起動します。その後、BootMagic の環境設定プログラムを実行して、BootMagic メニューからOSでないメニュー項目を削除します。

4. [OK]をクリックします。

BootMagic の [メニュー項目のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



5. 必要なメニュープロパティを定義し、[OK]をクリックします。

起動メニューのプロパティの定義方法については、BootMagic オンラインヘルプの「BootMagic メニュー項目のプロパティ」を参照してください。

BootMagic メニューからの項目の削除

1. BootMagic のメインウィンドウで、[BootMagic 起動メニュー] のリストから、削除する項目を選択します。
2. [削除] をクリックします。

OS は、BootMagic メニューから削除されてもシステムからは削除されません。OS は、そのパーティションに残るので、必要になったときに再びメニューに追加できます。

メニュー項目のプロパティの変更

1. BootMagic のメインウィンドウで、変更する項目を選択します。
2. [プロパティ] をクリックします。
3. 必要に応じてプロパティを変更し、[OK] をクリックします。

各プロパティの詳細については、BootMagic オンラインヘルプの「BootMagic メニュー項目のプロパティ」を参照してください。

デフォルト OS の設定

デフォルトの初期起動 OS は、BootMagic をインストールしたホームパーティションの OS が、システムデフォルトとして自動的に選択されます。起動時間が経過する前に別の OS を選択しなかった場合、または起動時間が[なし]に設定されている場合は、この OS から BootMagic が自動的に起動します。

起動時間の詳細については、次の「起動時間の設定」を参照してください。

1. BootMagic のメインウィンドウで、システムデフォルトとして設定する OS を選択します。
2. [初期起動に設定] をクリックします。

別のハードディスクからの起動

最初のハードドライブ上にないオペレーティングシステムを起動するには、拡張パーティションの非表示を有効にする必要があります。拡張パーティションの非表示を有効にするには、[オプション]→[拡張パーティションの非表示]をクリックします。このオプションが選択されていない場合(デフォルト)は、最初のハードディスクからしか起動できません。

起動時間の設定

BootMagic のデフォルトの起動時間は30秒です。起動時間は変更できます。

- 起動時間を設定しない場合は、**[なし]**を選択します。BootMagic メニューが表示されずに、デフォルト OS が自動的に起動します。
- 起動時間を無制限に設定するには、**[無制限]**を選択します。起動する OS を指定するまで起動メニューが表示されます。
- 1～99秒の間で起動時間を設定するには、**[時間設定]**を選択します。起動時間として設定された秒数が経過するまでに OS を指定しないと、デフォルト OS が起動します。

起動時間を**[なし]**または**[時間指定]**に設定する場合は、有効な OS をシステムデフォルトとして必ず指定してください。デフォルト OS を指定しないと、システムを起動できません。

起動時間を**[なし]**に設定した後で、BootMagic 環境設定プログラムを実行できない OS を初期起動 OS として選択すると、環境設定を変更してほかの OS を起動することができなくなります。この場合は、左の **Shift** キーを押しながらコンピュータを起動します。タイマの設定がオーバーライドされて、BootMagic メニューが表示されます。この1回の起動に限り、**[無制限]**オプションと同じようにタイマが無視されます。

BootMagic メニューで DOS または Windows を選択し、BootMagic 環境設定プログラムを実行して、初期起動 OS または起動時間を変更できます。

BootMagic の無効化

状況に応じて BootMagic を無効にする場合があります。たとえば、OS の起動に関する問題を診断するためにシステムを繰り返し再起動する場合、または別のオペレーティングシステムをインストールする場合、BootMagic が毎回ロードされると不便です。BootMagic を無効にすると、BootMagic の MBR (マスターブートレコード) は、オリジナルの MBR のコピーに置き換えられます。

BootMagic を無効にしても、環境設定の内容には影響しません。BootMagic が再び有効になるまで、現在のすべての設定内容が保存されます。

1. BootMagic のメインウィンドウで、**[BootMagic を有効にする]**チェックボックスをオフにします。

このチェックボックスのチェックを一度消した場合、次にチェックするまでの間、環境設定オプションが使用不可になり、BootMagic は無効となります。

2. **[保存して終了]**をクリックし、変更を保存して環境設定プログラムを終了します。

コンピュータを再起動すると、BootMagic はロードされず、初期起動 OS が自動的に起動されます。

BootMagic を再び有効にするには、ハードディスクまたは BootMagic 緊急用ディスクから環境設定プログラムを実行します。BootMagic のメインウィンドウで、**[BootMagic を有効にする]**チェックボックスをオンにします。BootMagic を再び有効にすると、現在の MBR のコピーが保存され、BootMagic の MBR が再インストールされます。リブートすると、BootMagic は正常にロードされます。以前のすべての環境設定内容が復元されます。

BootMagic 緊急用ディスクの作成方法については、106 ページの「BootMagic 緊急用ディスクの作成」を参照してください。

BootMagic メニューの使い方

BootMagic のインストール後は、コンピュータを起動するたびに BootMagic メニューが表示されます。BootMagic メニューには、起動用として設定されたすべての OS が表示されます。各 OS は、ユーザーが指定した名前とアイコンで識別されます。デフォルト OS が自動的に強調表示されますが、表示されている OS のどれでも選択することができます。起動する OS をクリックしてください。方向キーを使用して OS を選択し、**Enter** キーを押すこともできます。

目的の OS が表示されていない場合は、BootMagic 環境設定プログラムを実行して、その OS をメニューに追加します。メニューのリストに OS を追加する方法については、108 ページの「BootMagic メニューへの OS の追加」を参照してください。

BootMagic によるオペレーティングシステムのインストール

BootMagic を使用すると、マシンの起動時に複数のオペレーティングシステムから容易に選択できるだけでなく、複数の OS を簡単にシステムにインストールすることができます。基本パーティションまたは論理パーティションへのインストールの詳細については、BootMagic オンラインヘルプの「BootMagic を使って新しいオペレーティングシステムをインストールする」を参照してください。OS 別のインストール問題に関するヘルプトピックを参照することもできます。

付録 A

他のプログラムと一緒に PartitionMagicを使用する

この付録で説明する内容は次のとおりです。

- Norton Utilities
- ディスク圧縮ユーティリティ
- オペレーティングシステム起動ユーティリティ
- ウィルス検出ソフトウェア
- ドライブオーバーレイソフトウェア
- SoundBlaster
- GoBack

Norton Utilities

PartitionMagic と Norton 製品は一緒に使用しても安全に動作させることができます。問題を避けるために役立つ情報を以下に示します。

Norton Disk Doctor

拡張パーティションがドライブの最終域まで及んでいる場合、Norton Disk Doctor (NDD) が以下のメッセージを表示することがあります。“An extended partition has invalid parameters and probably is inaccessible. Correct this situation if you are unable to access partitions on hard disk 1. Do you wish to correct this problem?” このメッセージが表示されないようにするには、PartitionMagic でドライブの最終域にある論理パーティションと拡張パーティションのサイズを変更して、ドライブの最終域より前に空き領域を確保します。

また、パーティションを削除、移動、またはサイズ変更すると、NDD はユーザーが誤ってパーティションを削除したのかもしれないと判断します。そのため、次のメッセージが表示されます。“If you are unable to access a disk that you previously could, you should revive this partition. Would you like to revive this partition?” 誤ってパーティションを削除したのであれば、**[はい]**を選択します。NDD を実行するたびにこのメッセージが表示されるのを避けるには、以下の手順を実行してください。

1. **[いいえ]** をクリックします。

NDD は次のメッセージを表示します。“You have chosen not to revive the partition. Do you want Norton Disk Doctor to mark the partition so it doesn’t ask about it again?”

2. **[はい]** をクリックします。

[Create Undo File] ダイアログが表示されます。

3. **[Skip Undo File]** をクリックします。アンドゥファイルの作成には多数のディスクットが必要です。

NDD は次のメッセージを表示します。“If you wish to undelete this partition at a later time, use the /UNDELETE switch”

4. **[OK]** をクリックします。

NDD は次のメッセージを表示します。“Partition information has been changed! Would you like to restart your computer?”

5. **[Restart Your Computer]** をクリックします。

Norton AntiVirus

Norton AntiVirus (NAV) は、パーティションテーブルやブートレコードが変更されると、ウィルスの攻撃があったと判断し、自動的に再予防措置を実行しようとします。変更を修復するかどうかの選択肢が表示された場合、**[Repair]** を選択しないでください。その代わり、PartitionMagic の使用後に予防措置を実行してください。

Norton SystemWorks

Norton SystemWorks がインストールされているシステム上で、PartitionMagic を使用できます。ただし、PartitionMagic を緊急用ディスクから起動する必要があります。Norton SystemWorks がインストールされている場合に Windows 上で PartitionMagic を実行しようとすると、ディスク書き込みエラーが出力される場合があります。

ディスク圧縮ユーティリティ

PartitionMagic は一部のディスク圧縮ユーティリティとは安全に使用できます。問題を避けるために役立つ情報を以下に示します。

警告： 圧縮パーティションを結合しないでください。ホストパーティションを失います。

DriveSpace と DriveSpace 3

PartitionMagic と DriveSpace を一緒に使用するには、まず Windows 95 または Windows 98 で DriveSpace または DriveSpace 3 ドライブのサイズを変更しなければなりません。そのために、以下の手順を実行します。

1. Windows のデスクトップで [マイコンピュータ] をダブルクリックします。
2. 変更するドライブを右クリックして、メニューから [プロパティ] をクリックします。
3. [圧縮] タブをクリックします。
4. [圧縮] メニューから [詳細設定] をクリックします。
5. [詳細プロパティ] メニューから [ドライブスペースの実行] をクリックします。
物理ドライブ、圧縮ドライブ、およびホストドライブの一覧が表示されます。
6. 変更したい圧縮ボリュームを選択します。
7. メニューの上部にある [ドライブ] をクリックします。
8. [ドライブ] メニューから [空き領域の調整] をクリックします。
[空き領域の調整] メニューが表示されます。メニューの下部にスライドバーがあります。
9. 圧縮領域を増加させる (圧縮ボリュームを拡大する) には、スライドバーを左に動かします。非圧縮領域を増加させる (圧縮ボリュームを縮小する) には、スライドバーを右に動かします。

圧縮ドライブのホストを縮小したい場合は、バーを右に動かしてホスト上の非圧縮領域を増加させます。その後で、PartitionMagic のサイズ変更/移動機能を使ってホストのパーティションを小さくすることができます。既にパーティションのサイズを大きくして、圧縮ボリュームに領域を追加したい場合は、スライドバーを左に動かします。

オペレーティングシステム起動ユーティリティ

OS/2 のデュアルブートとシステムコマンダー(2.0 以上)とともに、PartitionMagic によって行われた起動セクタ変更に対応します。PartitionMagic で変更したドライブにシステムコマンダーをインストールする場合は、バージョン 2.06 以上が必要です。また、BootMagic を利用することも出来ます。詳しくは、(株)ネットジャパンへお問い合わせください。

既にコンピュータにシステムコマンダーがインストールされている場合は、複数の基本パーティションが同時に表示されないように構成する必要があります。表示設定された複数の基本パーティションが作成されないようにシステムコマンダーを構成するには、システムコマンダーメニュー上の各オペレーティングシステムについて以下の手順を実行します。

1. [Operating System Selection] メニューでオペレーティングシステムを選択します。
2. Alt+S を押します。
3. [Local Special Options] → [Primary partitions accessible on drive 0] をクリックします。
画面には、[All]、[Auto] (デフォルト)、および [None] の 3 つのオプションが表示されます。
4. [None] をクリックします。
これで、選択したオペレーティングシステムが起動すると、ほかの基本パーティションは表示されなくなります。
5. メニュー上の各オペレーティングシステムについて、手順 1 ～ 4 を繰り返します。

ウィルス検出ソフトウェア

PartitionMagic は、マスターブートレコードとパーティションの起動セクタを変更します。ウィルス検出ソフトウェアは、PartitionMagic の変更対象がブートコードではなくパーティションテーブルであることを検出できなければなりません。しかし、実際には、PartitionMagic の変更処理がウィルスの侵入と誤って判断される場合があります。このような問題が発生したら、PartitionMagic の使用中はウィルス検出ソフトウェアを停止し、ソフトウェアメーカーに問題の発生状況を連絡してください。

マザーボードには、BIOS にウィルス検出ソフトウェアを搭載しているものがあります。これが PartitionMagic の動作不良の原因となる場合は、BIOS のウィルス検出ソフトウェアを無効にしてから PartitionMagic を再起動してください。

ドライブオーバーレイソフトウェア

Ontrack DDO、Microhouse EZ-Drive または Pro-Drive、Maxblast、WD DDO、Seagate DDO などのドライブオーバーレイソフトウェアを使用すると、コンピュータがより大きなディスクドライブにアクセスできるようになります。PartitionMagic がこれらのソフトウェアと互換性を持つのは、ドライブオーバーレイソフトウェアが PartitionMagic よりも前にロードされている場合だけです。

コンピュータをディスクセットから起動する場合、ドライブオーバーレイソフトウェアがロードされないため、PartitionMagic はドライブから正しい情報を得ることができません。ディスクセットから起動した場合でも、以下の手順でドライブオーバーレイソフトウェアをロードできます。

1. ハードディスクから起動するときと同じようにコンピュータを起動します。
2. 画面に指示が表示されたら、**スペース**または**Ctrl** キーを押します。
3. ドライブオーバーレイソフトウェアの情報が表示され、ディスクセットから起動するオプションが表示されます。このオプションを選択して、画面に指示が表示されたら起動ディスクセットを挿入します。

SoundBlaster

SoundBlaster Live サウンドカード用の DOS ドライバは、起動モードに入る必要のある PartitionMagic の操作と衝突する場合があります。CONFIG.SYS ファイルと AUTOEXEC.BAT ファイルで SoundBlaster ドライバをコメントアウトして、PartitionMagic での作業が終わるまで SoundBlaster ドライバをアンロードすることをお奨めします。

GoBack

Roxio の GoBack ソフトウェアで監視されるハードディスク上のパーティションを変更する必要があるとき、まず GoBack を無効 (オフ) にする必要があります。

1. GoBack のメインメニューから、**[オプション]→[GoBack を使わない]**をクリックします。

ハードディスク上でパーティションの変更を開始する前に、まずコンピュータを再起動して、PartitionMagic を開始する必要があります。PartitionMagic で変更を終了したら、GoBack を再度有効にします。

PowerQuest のすべてのパーティション管理ユーティリティと完全な互換性を保つシステム復旧ソフトウェアの場合、PowerQuest の SecondChance ソフトウェアを使用する必要があります。

付録 B

トラブルシューティング

この付録で説明する内容は次のとおりです。

- 一般的なトラブルシューティング
 - DOS 上で PartitionMagic を実行するためにメモリを解放する
 - CD-ROM にドライブレターを割り当てる
 - SCSI ハードディスクで PartitionMagic を使用する
 - PqRP パーティション
 - 診断エラーを解決する
 - パーティションテーブルエラーを解決する
 - パーティションテーブルとウィルス
 - サイズを変更したパーティションから起動できない
- PartitionInfo による診断レポートの作成
- エラーメッセージと対処方法

一般的なトラブルシューティング

DOS上でPartitionMagicを実行するためにメモリを解放する

DOS版のPartitionMagic実行ファイルを使用するには、コンピュータのアドレス空間の最初の640KB (コンベンショナルメモリ)のメモリのうち、585KB以上が必要です。十分なコンベンショナルメモリが確保できない場合にメモリを解放する方法は数種類あります。

MEMMAKERを実行する (MS-DOSのみ)

MEMMAKERは、DOSの起動時にロードされるデバイスドライバやプログラムの設定を変えることなく、コンベンショナルメモリを節約するようにコンピュータを自動的に設定するプログラムです。MEMMAKERは、できるだけ多くのアプリケーションをコンベンショナルメモリからハイメモリに移動することによって、コンベンショナルメモリを確保します。MEMMAKERを実行するには、DOSプロンプトで「MEMMAKER」と入力します。以降は、画面に表示される指示に従って操作します。

MEMMAKERは、DOS 5.0から6.22まででのみ使用できます。Windows 95やWindows 98のDOSモードでは使用できません。

F8キーを使用して、プログラムがロードされないようにする (MS-DOS6.2x以上)

コンピュータを起動した直後、DOSの起動中にF8キーを押します。CONFIG.SYSファイルとAUTOEXEC.BATファイルに記述されているコマンドが1つずつ読み取られ、これらのコマンドを実行するかどうかを確認するメッセージが表示されます。デバイスドライバをロードするコマンドや、PartitionMagicの実行に必要なないTSRプログラムに対してNキーを押すと、ソフトウェアがメモリにロードされません。

オペレーティングシステム圧縮ファイルを削除する

DOS 6.2x、Windows 95、またはWindows 98を使用していて、システムにDriveSpace、DoubleSpace、Stackerなどを使った圧縮ドライブがない場合は、作成する起動ディスクからオペレーティングシステム圧縮ファイルDRVSPACE.BINまたはDBLSPACE.BINを削除することができます。それによってコンベンショナルメモリが解放されます。なぜなら、DOS 6.22、Windows 95、およびWindows 98は、CONFIG.SYSとAUTOEXEC.BATの内容に関係なくこれらのファイルをメモリにロードするからです。

DRVSPACE.BINおよびDBLSPACE.BINは隠しシステムファイルです。これらのファイルを削除するには、以下の手順を実行します。

1. 起動ディスクをディスクドライブに挿入します。
2. DOSプロンプトを表示します。
3. 「A:」と入力します。Enterキーを押します。画面に「A:¥>」と表示されます。
4. 「ATTRIB -R -H -S *.BIN」と入力して、Enterキーを押します。
5. 「DEL *.BIN」と入力して、Enterキーを押します。

CD-ROMにドライブレターを割り当てる

コンピュータにCD-ROMドライブまたはその他のリムーバブルメディアがある場合は、ドライブレターの割り当てが原因で生じる問題について注意する必要があります。

Windows NT上では、PartitionMagicでドライブレターの割り当てを変更できます。それ以外の場合、これはオペレーティングシステムの機能となります。オペレーティングシステムはドライブレターを次の順番で割り当てます。(1)各ハードディスク上で最初に認識した基本パーティション、(2)各ハードディスク上のすべての論理パーティション、(3)各ハードディスク上のその他の基本パーティション、(4)CD-ROMドライブおよびその他すべての種類のリムーバブルメディア。

通常、固定ディスクに続いて、すべてのリムーバブルメディアにドライブレターを割り当てる必要があります。

CD-ROMは最後にドライブレターが割り当てられるドライブであるため、ハードディスク上でパーティションの追加や削除を行うとCD-ROMドライブのドライブレターに影響がおよびます。場合によっては、オペレーティングシステムによりCD-ROMドライブにドライブレターが割り当てられないこともあります。そのような場合は、以下の手順で対処してください。

Windows 95/98を使用していて、CD-ROMに対してWindows 95/98のドライバを使用している場合：

1. ツールバーから[スタート]→[設定]→[コントロールパネル]をクリックします。
2. [システム]をダブルクリックします。
3. [デバイスマネージャ]タブをクリックします。
4. [CD-ROM]をダブルクリックします。
5. CD-ROMドライブの名前をダブルクリックします。
6. [設定]タブを選択します。
7. [開始ドライブ文字]ボックスおよび[終了ドライブ文字]ボックスで、「Z」を入力または選択します。OSはそれ以外の使用可能なドライブレターをすべて割り当ててからは「Z」を使用しないため、パーティションを変更してもCD-ROMのドライブレターが無効になることはありません。
8. [OK]をクリックして[設定]ページを閉じます。
9. [OK]をクリックして[システムのプロパティ]ダイアログボックスを閉じます。
10. コンピュータを再起動するかどうかを確認するメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。

DOS または Windows 3.x を使用している場合、または Windows 95/98 を使用しているが CD-ROM ドライブを DOS でロードしている場合：

1. DOS プロンプトを表示します。
2. 「EDIT C:¥CONFIG.SYS」と入力します。

CONFIG.SYS ファイルが DOS のエディタプログラムで開きます。LASTDRIVE=drive という行を探します。ここで、drive は任意のアルファベットです。この「drive」の部分を「Z」に変更します。これによって、OS は「Z」までのすべてのドライブレターを割り当てることができます。
3. CONFIG.SYS ファイルに LASTDRIVE=drive という文が含まれていない場合は、単に「LASTDRIVE=Z」と入力して追加します。
4. [ファイル]→[終了]を選択します。
5. ファイルの保存を確認するメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。C:¥> プロンプトに戻ります。
6. 「EDIT C:¥AUTOEXEC.BAT」と入力します。
7. AUTOEXEC.BAT ファイルが DOS のエディタプログラムで開きます。「MSCDEX」という語を含む行を探します。「L:drive」というパラメータがこの行の終わりに表示されています。ここで、「drive」は、PartitionMagic で変更を加える前に CD-ROM に割り当てられていたドライブレターです。この「drive」の部分を「Z」に変更します。OS はそれ以外の使用可能なドライブレターをすべて割り当てては「Z」を使用しないため、パーティションを変更しても CD-ROM のドライブレターが無効になることはなくなります。詳細については、DOS プロンプトで「HELP MSCDEX」と入力してください。

コンピュータがネットワークに接続されている場合、ネットワークにログインしたときに「Z」やその他のアルファベットの終わりのほうの文字がネットワーク検索ドライブに割り当てられることがあります。そのような場合は、ネットワーク検索ドライブに使用されている最後の文字の直前の文字を CD-ROM に割り当ててください。
8. [ファイル]→[終了]を選択します。
9. ファイルの保存を確認するメッセージが表示されたら、[はい]をクリックします。
10. DOS プロンプト (C:>) が表示されたら、マシンを再起動します。

SCSI ハードディスクで PartitionMagic を使用する

PartitionMagic を SCSI ハードディスク上で使用するには、ソフトウェア割り込み 13 をサポートする SCSI コントローラカードが必要です。ほとんどの SCSI コントローラでは、カード上の BIOS でソフトウェア割り込み 13 のサポートを有効にできます。これができない SCSI コントローラでは、メーカーに問い合わせてアダプタがソフトウェア割り込み 13 をサポートできるかどうかを確認してください。一般的な規則として、FDISK を使ったディスクのパーティション分割が可能であれば、PartitionMagic を使うことも可能です。

PqRP パーティション

PartitionMagic の動作中にコンピュータが異常終了した場合、メイン画面のパーティションリストに PqRP または PQFLEX というパーティションが表示されることがあります。

PartitionMagic は PqRP ファイルシステムや PQFLEX ラベルを持つパーティションをこのように示すので、パーティションが変更されていることが分かります。PqRP パーティションは不安定であると考えてください。PqRP パーティションからデータを回復したい場合は、テクニカルサポートにご連絡ください。

診断エラーを解決する

PartitionMagic は、パーティションを変更する前にパーティションの状態を詳細に診断します。**[エラー診断]** および **[情報]** を使用して同様の診断操作を実行し、問題が発見されたときにエラーメッセージを表示させることができます。詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」と 56 ページの「パーティション情報の表示」を参照してください。これらの診断は、オペレーティングシステムの CHKDSK、ScanDisk、または AUTOCHK ユーティリティで行われる診断と同様のものです。

PartitionMagic によるパーティションの診断は変更後にも行われます。通常は起こりませんが、データが失われる可能性もあります。通常問題となるのは軽微なファイルシステムエラーであり、これは CHKDSK /F /R (Windows 95/98 を使用している場合は ScanDisk) を使えばデータを失うことなく修復できます。それ以外のエラーについては、バックアップコピーからファイルを復元する必要があります。この問題が引き続き検出される場合は、(株) ネットジャパンのテクニカルサポートに連絡してください。

パーティションに対して **[診断]** を実行したときにエラーメッセージが表示された場合は、まずハードディスクのバックアップを作成し、その後、オペレーティングシステムの CHKDSK プログラムをエラーの発生したパーティションで実行します。1 回目の実行では、/F スイッチは使用しないでください。MS-DOS 6.x、Windows 95、または Windows 98 を使用している場合は、ScanDisk を実行します。通常の場合、CHKDSK および ScanDisk は PartitionMagic と同じ問題を検出します。ただし、DOS の CHKDSK プログラムでは拡張属性の問題は検出されません。

CHKDSK または ScanDisk の診断結果が **[エラー診断]** と異なる場合は、(株) ネットジャパンのテクニカルサポートに連絡してください。

CHKDSK または ScanDisk と **[エラー診断]** の診断結果が同じ場合、/F スイッチを指定して CHKDSK を実行するか、ScanDisk を実行して、問題を修復します。次に、/F スイッチを指定しないで再度 CHKDSK を実行し、パーティションに問題がなくなったことを確認します。OS/2 の場合は、この手順 (/F スイッチを指定しないで CHKDSK を実行) を 2 回実行します。

CHKDSK により、パーティションに問題がないことが報告されたら、再度 **[エラー診断]** を実行します。PartitionMagic で引き続き問題が検出される場合は、パーティションを再初期化して、バックアップコピーからファイルを復元します。

パーティションテーブルエラーを解決する

パーティションテーブルエラーは番号 100 から 199 までのエラーです。ほとんどの場合、パーティションテーブルエラーは、エラーのない新しいパーティションテーブルを作成して解決する必要があります。一般には、(1) ウィルスに感染していないことを確認する(次の節を参照)、(2) エラーの発生したパーティションにあるデータのバックアップを作成する、(3) パーティションを削除する、(4) パーティションを新規作成する、(5) データを復元する、という手順を実行します。FDISK プログラムは最新版の DOS から実行する必要があります。初期のバージョンでは、HPFS パーティションや非表示のパーティションを削除できない場合があります。また、OS/2 の FDISK プログラムを使用すると、パーティションが壊れていると認識して変更を行えない場合があります。

場合によっては、パーティションテーブルエラーを別な方法で解決できることもあります。PartitionInfo を実行して、パーティション上のエラーを確認します。(株) ネットジャパンのテクニカルサポートでは、パーティションテーブルエラーの解決のお手伝いをいたします。support@netjapan.co.jp 宛てに電子メールで PartitionInfo レポートをお送りください。PartitionInfo の詳細については、125 ページの「PartitionInfo による診断レポートの作成」を参照してください。

パーティションテーブルとウィルス

1 つのオペレーティングシステムで行われたパーティションの変更が他のオペレーティングシステムに反映されていない場合、マスターブートレコード (MBR) ウィルスに感染している可能性があります。

最新のウィルスに対応したウィルス検出ユーティリティを実行します。ウィルスが検出された場合は、データが失われている可能性があります。ウィルスを除去する前に、すべてのオペレーティングシステムを順に起動し、PartitionMagic の **[診断]** オプションでパーティションの状態を確認します。異常のないパーティションのファイルのバックアップを作成します。ウィルスの除去作業を実行し、もう一度 **[診断]** オプションでパーティションを診断します。再度異常が発見されたパーティションは削除して作成し直します。最後に、オペレーティングシステムを再インストールして、必要に応じてバックアップファイルを復元してください。

サイズを変更したパーティションから起動できない

FAT パーティションのサイズを変更すると、パーティションの先頭にあるいくつかのファイルを移動してしまう場合があります。たとえば、DOS、Windows 95、Windows 98 のオペレーティングシステムがインストールされている場合は、IO.SYS や MSDOS.SYS などのファイルを移動させてしまう可能性があります。起動パーティションをサイズ変更した後で起動できなくなった場合は、DOS または PartitionMagic 緊急用ディスクから SYS.COM を実行します。

PartitionInfo による診断レポートの作成

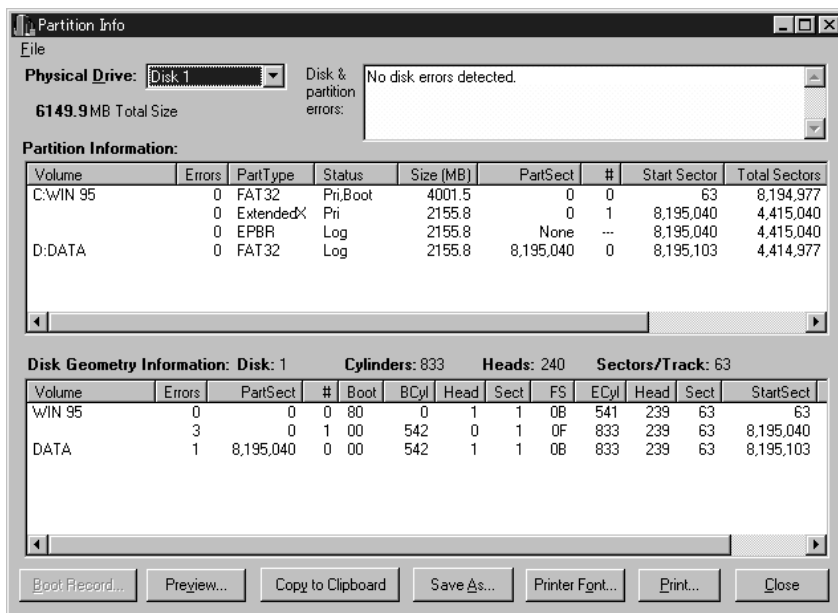
PartitionInfo は、ハードディスクパーティションテーブルの内容を示すレポートを作成します。レポートの情報は、パーティションに関するさまざまな問題の解決に役立ちます。

PartitionInfo は、Windows 95、Windows 98、Windows Me、Windows NT 4.0 Workstation、および Windows 2000 Professional で実行できます。DOS または Windows 3.x を使用している場合は、PARTINFO.EXE を実行してください(126 ページを参照)。

PartitionMagic を起動するたびに、PQ_DEBUG.TXT というスナップショットファイルが作成されます。このファイルには、マシン上のすべてのディスクおよびパーティションに関する情報が書き込まれます。このファイルは、一般的には Windows\System フォルダ (Windows 95/98 の場合) または %system root%\system32 ディレクトリ (Windows NT/2000 の場合) に保存されます。PQ_DEBUG.TXT ファイルは、PartitionMagic に関する問題の解決を PowerQuest テクニカルサポートに依頼するときに役に立ちます。

1. [スタート]→[プログラム]→[PowerQuest PartitionMagic 7.0]→[PartitionInfo] をクリックします。

PartitionInfo ウィンドウが表示されます。このウィンドウには、パーティションとディスクのジオメトリに関する情報と、ディスクおよびパーティションのエラーが表示されます。ディスクジオメトリ情報には、マスターブートレコードと拡張パーティションブートレコードから得られたデータが含まれます。



実際に問題となるのは、画面上部のボックスに表示されるエラーだけです。下の2つのボックスに表示される警告と情報は気にしなくてもかまいません。

2. [ドライブ] ドロップダウンリストから、情報を表示するディスクを選択します。
3. PartitionInfo レポートは、ファイルとして保存したり、印刷できます。

オプション操作の種類	操作手順
レポートをファイルとして保存する	[Save As] をクリックします。[ファイル名] ボックスに、ファイル名を入力します。[保存] をクリックします。情報は列ごとにタブで区切られて保存されるので、このファイルをワードプロセッサで開いて、簡単にレポートの書式を設定できます。
フォントを変更してレポートを印刷する	[Printer Font] をクリックします。必要なフォント、フォントスタイル、サイズなどを選択します。[OK] をクリックします。
プリンタ設定を変更する	[File] → [Printer Setup] をクリックします。印刷の向きを横方向に設定すると、レポートの右端まで印刷されます。
レポートを印刷する	[Print] をクリックし、[OK] をクリックします。

4. PartitionInfo を終了するには、[Close] をクリックします。

PARTINFO.EXE による診断レポートの作成

1 枚目の緊急用ディスクから PARTINFO.EXE を実行して、パーティション情報を取得することもできます。PARTINFO プログラムでは、基本的には PartitionInfo プログラムと同じ情報が得られますが、GUI インターフェイスではありません。

1. コンピュータを DOS で起動します。
2. 1 枚目の緊急用ディスクを挿入します。
3. PARTINFO の実行では、次のオプションを指定できます。

オプション操作の種類	操作手順
画面にパーティション情報を表示する	「PARTINFO」と入力して、 Enter キーを押します。
プリンタにレポートを直接送信する	「PARTINFO >LPT1」または「PARTINFO >PRN」と入力して、 Enter キーを押します。

レポートをテキストファイルとしてフロッピーディスクに保存する	「PARTINFO >A:¥PARTINFO.TXT」と入力して、 Enter キーを押します。
--------------------------------	--

エラーメッセージと対処方法

PartitionMagic のエラーメッセージと対処方法を、エラーの番号順に示します。エラーメッセージは、一定の番号範囲でカテゴリ別にまとめられています。

その他のエラー (3～38)

#3 メモリ不足

このエラーが発生するのは、極端に大きなパーティション (60 GB) をサイズ変更、移動、またはコピーしようとした場合です。DOS で EMM386 がロードされているときには、それより小さなパーティションの操作でも発生します。EMM386 は、プログラムがアクセスできるメモリの量を制限します。この問題を解決するには、CONFIG.SYS ファイルを開いて EMM386 の行をコメントアウトしてください。必要なメモリ容量の詳細については、4 ページの「PartitionMagic のシステム可動条件」を参照してください。

DOS 版の PartitionMagic 実行ファイルを使用するには、コンピュータのアドレス空間の最初の 640KB (コンベンショナルメモリ) のメモリのうちの 585KB 以上と合計 8MB のメモリが必要です。コンベンショナルメモリが不十分な場合の対策については、120 ページの「DOS 上で PartitionMagic を実行するためにメモリを解放する」を参照してください。

#8 DOS のリアルモードでメモリの割り当て / 排除ができませんでした

PartitionMagic では DOS エクステンダが使用されています。このため、DOS 版の PartitionMagic 実行可能ファイルを DOS、Windows 3.x、Windows 95、および Windows 98 で起動するには、コンピュータのアドレス領域の上位 1MB 内にある程度のメモリが必要です。ここに十分なメモリが確保されていないと、PartitionMagic はハードディスクにアクセスできません。解決方法については、120 ページの「DOS 上で PartitionMagic を実行するためにメモリを解放する」を参照してください。

#27 ドライブをロックできません

Windows 95 などのマルチタスキングオペレーティングシステムの場合、パーティションを安全に変更するためには、変更する前に PartitionMagic がパーティションをロックする必要があります。ハードディスクに他のプロセスで使用中のファイルが含まれていると、PartitionMagic はパーティションをロックできません。

この問題を解決するには、緊急用ディスクで再起動し、「LOCK_C:」と入力してから PartitionMagic を実行します。

#29 ロックされたドライブはロックできません

変更するパーティションが置かれているハードディスクがロックされていないことを確認してください。

#34 このベータ版は使用できません

(株) ネットジャパンでは、PartitionMagic のベータ版や評価版をリリースしています。これらは、製品版と比べて安定性が低いため、有効期限が設定されています。有効期限を経過すると、ベータ版と評価版は動作しません。

ディスクアクセスエラー (40～56)

40 番から 56 番のエラーメッセージは、ディスクへアクセスできないときに表示されます。ほとんどがハードウェア上の問題が原因です。簡単に解決できる問題もありますが、ハードディスクを交換しなければ解決できない場合もあります。PartitionMagic では、変更処理を実行する前に主要なエラーは検出されます。このため、ハードディスクを交換する前にデータのバックアップを作成できます。

#45 データに CRC エラーが起きました

PartitionMagic やその他のプログラムは、ハードディスク上の情報を読み込むときに、各セクタに含まれる CRC (巡回冗長性検査) 情報を検査します。CRC テストを実行した結果がそのセクタに格納されている値と異なると、CRC エラーが検出されます。その場合、通常は次の 2 つのうちいずれかの状況が考えられます。

- 読み込むファイルが何らかの原因で壊れています。
- ファイルの格納に使用されているセクタが不良になったために、そのセクタに格納されている部分が壊れています。

解決方法は、表面テストを実行して不良セクタが不良と識別されていることを確認してから、ファイルを読み込んだソフトウェアを再インストールして、システム上のファイルが壊れていない状態にします。更に、/IRE スイッチを指定して PartitionMagic を実行してみる必要があるかもしれません。

#48 セクタが見つかりません

このエラーメッセージは、特定のセクタからの読み込み、または特定のセクタへの書き込みができない場合に表示されます。考えられる原因はさまざまです。

このエラーメッセージが表示された場合は、BIOS がシステム上のオペレーティングシステムとハードディスクをサポートしていることを確認してください。また、該当するドライブに対して ScanDisk を完全に行い、データが不良セクタに書き込まれないようにします。

#49 書き込み不良です

#50 読み込み不良です

次の説明は 49 番と 50 番のエラーメッセージに共通しています。

ハードディスク上の特定のセクタへの書き込み/読み込みができません。次の原因が考えられます。

- コンピュータからビーブ音が鳴ったり、画面の中央に黒いボックスが表示されている場合は、コンピュータのBIOSでウイルス防止プログラムがオンになっています。BIOSのウイルス防止プログラムやブートセクタ保護プログラムをオフにしてください。
- ウィルス防止プログラム(TSRプログラムまたはDLLプログラム)が動作中です。ウイルス防止プログラムを終了してから、PartitionMagicを使用してください。
- ハードディスクに不良セクタがあります。この問題は、通常旧式のハードディスクでのみ発生します。このハードディスクでScanDiskを実行して、ディスクをスキャンし、不良セクタがないかどうかを調べてください。不良セクタが発見された場合は、ドライブの交換をお奨めします。
- PC Toolsでディスクのミラーリングを設定しています。ディスクのミラーリングのオプションを無効にしてください。

その他のエラー

#70 Windowsは削除されました

Windows 3.xを使用している場合、PartitionMagic 緊急用ディスクを作成してDOS用のPartitionMagicを起動する必要があります。

#89 EZ-Driveはドライブ上に見つかりましたが、実行されていません

#90 EZ-Driveはドライブ上に見つかりましたが、故障しています

#91 Disk Managerはドライブ上に見つかりましたが、実行されていません

これらのエラーは、“1つ目のヘッド”のエラーです。解決するには、(株) ネットジャパンのテクニカルサポートに連絡する必要があります。テクニカルサポートに連絡する前に、DOSプロンプトで「wrprog /bak >x:head1.dat」と入力してください。ここで、「x:」はマシン上のいずれかのドライブ名です。

wrprog.exe ファイルは、PowerQuest 製品フォルダのUtility¥DOS フォルダにあります。Windows NTを使用していてDOSを使用できない場合は、PowerQuest ソフトウェアに対して作成したDOS 緊急用ディスクを使用できます。

#98 Windows 2000をハイバーネーション状態にする

#99 Windows Meをハイバーネーション状態にする

ハイバネーションは、システムRAMをファイルに保存し、Advanced Power Managementを使用してシステムをシャットダウンする機能です。マシンを次に起動したときに、ハイバネーションファイルがRAMに読み込まれ、シャットダウン前の状態から実行が開始されます。

ハイバネーションを行ったシステムでは、起動すると、ハイバネーションが行われた時点と同じ状態になっていることが仮定されます。システムのハードウェア(ディスクおよびディスクパーティションを含む)に何らかの変更が加わっていると、予期しない結果が生じることがあります。

ハイバネーションモードのシステムに変更を加えることの詳細については、Microsoft Knowledge Baseの#241354を参照してください。

このエラーを避けるためには、マシンを通常の方法でシャットダウンしてから、再起動してください。

パーティションテーブルエラー (100 ~ 199)

100 番から 199 番はパーティションテーブルエラーです。解決方法についての一般的な情報は、124 ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」と 124 ページの「パーティションテーブルとウィルス」を参照してください。

#100 パーティションテーブルが不良です

マスターブートレコード (MBR) に登録できる拡張パーティションの数は 1 つです。また、各拡張パーティションのブートレコード (EPBR) に登録できる別の EPBR へのリンクの数は 1 つです。この制限を超えると、このエラーが発生します。また、複数のパーティションがアクティブ設定になっているときも同じエラーが発生します。この状況で何らかの変更処理を実行すると、ハードディスクから復元できるデータの量が減少することがあります。このため、PartitionMagic からハードディスクのパーティションはまったく認識されません。この問題を解決するために、新しく正常なパーティションテーブルを作成する必要がある場合は、124 ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」を参照して、手順を確認してください。

#104 パーティションにセクタがありません

パーティションには必ずセクタを指定してください。パーティションを削除してから、PartitionMagic を使用してください。

#105 パーティションが間違った境界線で始まっています

ハードディスクのパーティションテーブルに間違った値が登録されています。PartitionMagic では、パーティションの先頭と末端が適切なシリンダの境界内に必要があります。そうでない場合は、ディスクが部分的に壊れている可能性があります。この状況で何らかの変更処理を実行すると、データが失われる可能性があります。このため、PartitionMagic からハードディスクのパーティションはまったく認識されません。この問題を解決する手順については、124 ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」を参照してください。

#106 パーティションが 1 セクタ目から始まっています

エラー #105 を参照してください。

#107 パーティションがディスク末端より後ろで始まっています

パーティションを物理的なハードディスク領域よりも誤って拡張したときに、このエラーが発生します。ハードディスクが別のコンピュータやハードディスクコントローラで使用されていたか、BIOS の設定が変更された可能性があります。ハードディスクの物理ジオメトリは、オペレーティングシステムによってハードディスクに割り当てられる論理ジオメトリとは異なるので、注意してください。

#108 パーティションが最終シリンダで終わっていません

エラー #105を参照してください。

#109 パーティションがディスク末端より後ろで終わっています

エラー #107を参照してください。

#110 パーティションテーブルのセクタ数が一致しません

ハードディスクのパーティションテーブルに、このハードディスクにあるセクタ数が2種類登録されています。DOSとそれ以外のオペレーティングシステムでこのハードディスクを共用している場合、このエラーは深刻です。DOSともう1つのオペレーティングシステムで異なる登録値が使用される可能性があるため、パーティションがほぼ一杯になった時点でデータが失われることがあります。この問題を解決する手順については、124 ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」を参照してください。

#111 論理パーティションの先頭が拡張パーティションの領域外にあります

拡張パーティションブートレコード (EPBR) とは、ハードディスク上でパーティションテーブルを格納しているセクタのことです。EPBR パーティションテーブルは特別なテーブルであり、通常は有効なエントリが2つしかありません。1つは論理パーティションのエントリで、もう1つは次の EPBR へのポインタです。標準では、論理パーティションのエントリがテーブルの最初のエントリであり、次の EPBR へのポインタが2番目のエントリとなっています。3番目と4番目のエントリは使用されていません。IBM の Boot Manager などいくつかのユーティリティに対しては、このエントリの順番は重要です。このようなユーティリティは、最初のエントリが論理パーティションであり、2番目のエントリが次の EPBR へのポインタであることを前提としているからです。PartitionMagic で EPBR のエントリの順序が違っていることが検出されると、エラーの修復を確認するメッセージが表示されます。エラーを修復するように選択すると、PartitionMagic は EPBR エントリの順序を自動的に変更します。

#112 論理パーティションが拡張パーティションの領域外で終わっています

エラー #111を参照してください。

#113 パーティションが重複しています

ハードディスクのパーティションテーブルに間違った値が登録されています。重複するデータパーティションの一方に書き込みを行うと、もう一方のデータが破壊される場合があります。

このエラーは、OS/2 の FDISK のバグが原因で発生する場合があります。拡張パーティション内に空き領域がある場合、OS/2 の FDISK プログラムは拡張パーティションに一部重なった基本パーティションを作成することがあります。そのため、重なった基本パーティションに占有される領域に論理パーティションが作成されてしまいます。

基本パーティションが拡張パーティションの末端と重複していても、これが拡張パーティションの領域内にある論理パーティションと重なっていなければ、パーティションテーブルにパッチをあてることで、問題を解決できます。ただし、この作業は必ず資格のあるエンジニアが行ってください。パッチを間違えてあてると、ハードディスクにあるデータがすべて破壊されます。ほとんどの場合、この問題は124ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」で説明されている方法で解決できます。

#116 パーティションテーブルの先頭と開始値が一致していません

ハードディスクのパーティションテーブルにパーティションの先頭セクタが2種類登録されています。このエラーはオペレーティングシステムがパーティションテーブルの作成時とは別のハードディスクジオメトリを認識したときに発生します。次の原因が考えられます。(1) DOSとOS/2など、種別の異なるオペレーティングシステムがそれぞれ異なるハードディスクジオメトリを認識している、(2) フロッピーディスクから起動したために、ハードディスクから起動したときとは異なるドライバがロードされている、(3) OS/2 2.xからOS/2 Warpなど、オペレーティングシステムをアップグレードしたために異なるドライバが使用されるようになった、(4) ハードディスクやコントローラが変更されている、(5) BIOSがアップグレードされている、(6) BIOSのLBA設定が変更された、(7) ハードディスク上のパーティションテーブルがウィルスに感染している。

ほとんどの場合、この問題は124ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」で説明されている方法で解決できます。また、ウィルススキャナーを使用してパーティションテーブルのウィルスを取り除くこともできます。パーティションの作成後に、トラックのセクタ数やヘッド数が増えたと、データが失われる可能性があります。

#117 パーティションのドライブレターが確認できません

OS/2の場合、PartitionMagicは変更を行う前に各パーティションのドライブレターを識別する必要があります。OS/2で各パーティションのドライブレターを識別できない理由には、さまざまなものがあります。たとえば、システム上のドライバによってドライブレターがデフォルトから変更されている場合や、パーティションにシリアル番号がない場合などです。

PartitionMagicをWindowsで実行しているときもこのエラーが表示される場合があります。

解決方法としては、PartitionMagicをDOSから実行するか、Windows 95またはWindows 98のMS-DOSモードから実行します。PartitionMagicがDOSまたはMS-DOSモードから実行された場合は、各パーティションのドライブレターを識別する必要がありません。したがって、このエラーメッセージで示された問題が唯一の問題である場合は、PartitionMagicは正常に実行されます。

#120 論理ドライブのチェーンに互換性がありません

このエラーは、一部のオペレーティングシステムで、論理パーティションのチェーン接続順序を間違えた場合に発生します。DOS、OS/2、Windows 95、Windows 98、および Windows NT では、論理パーティションが昇順でチェーン接続される必要があります。オペレーティングシステムによっては、この条件が必須でないこともあります。たとえば、Linux FDISK ユーティリティのいくつかのバージョンでは、論理パーティションは作成順にチェーン接続されます。このエラーメッセージは非常に危険な状況を示しています。この状況で DOS の FDISK を使用すると、いくつかのパーティションが失われる可能性があります。

この問題の解決手順については、124 ページの「パーティションテーブルエラーを解決する」を参照してください。データのバックアップを保存して、パーティションを作成し直す場合、パーティションを削除するためには、そのパーティションを作成したプログラムを使用しなければならないことがあります。PowerQuest では、DOS FDISK か PartitionMagic を使ってパーティションを再作成することをお奨めします。

#121 ドライブの先頭セクタが読めません

ハードディスクの先頭セクタ (シリンダ 0、ヘッド 0、セクタ 1) には、マスターブートレコード (MBR) と基本パーティションのテーブルが記録されています。PartitionMagic が先頭セクタを読み込むときにエラーが発生すると、そのハードディスクは変更できません。この問題の解決方法については、エラー #50 を参照してください。

#122 現設定のまたは新規パーティション領域に、不良セクタが見つかりました。操作を安全に実行できませんので、変更処理は行なっていません

新規パーティション領域または現在のパーティション領域に不良セクタがあるため、パーティションを安全に移動できません。このエラーメッセージが表示されると同時に、データの損失を避けるために移動処理は中断されます。パーティションの移動先を変更することによって問題を修復できることがあります。ScanDisk か CHKDSK /F を実行してから処理を続行します。ハードディスクに不良セクタがあるときは、交換した方が安全です。

#140 重複している複数のパーティションが見つかりました。それらのパーティションは、削除を取り消すことができません

空き領域に 2 つ以上の削除されたファイルシステムが検出されました。各ファイルシステムが要求している領域が重複しています。それ以外には復元できるパーティションがありません。

ネットワークエラー (200 ~ 299)

#202 読み込み不良です

#203 書き込み不良です

ソケット読み込みで、要求された量のデータを読み込めませんでした。または、ソケット書き込みで、要求された量のデータを書き込めませんでした。ネットワーク接続が正しく動作していることを確認してください。操作中にこのエラーが発生した場合は、操作対象のパーティションおよびパーティションテーブルが壊れている可能性があります。このエラーが発生した場合、対象となるパーティションを削除し、パーティションテーブルを修復してから、もう一度操作を実行してください。

#215 タイムアウトまたはその他のエラーにより接続が切断されました

確立された接続がローカルに強制終了されました。ネットワーク接続が正しく動作していることを確認してください。操作中にこのエラーが発生した場合は、操作対象のパーティションおよびパーティションテーブルが壊れている可能性があります。このエラーが発生した場合、対象となるパーティションを削除し、パーティションテーブルを修復してから、もう一度操作を実行してください。

#217 タイムアウトにより接続を確立できませんでした

ネットワーク接続がタイムアウトしました。ネットワーク接続が正しく動作していることを確認してください。操作中にこのエラーが発生した場合は、操作対象のパーティションおよびパーティションテーブルが壊れている可能性があります。このエラーが発生した場合、対象となるパーティションを削除し、パーティションテーブルを修復してから、もう一度操作を実行してください。

#218 接続要求が拒否されました

ネットワーク接続が拒否されました。ターゲットマシンによって明確に拒否されたため、接続を確立できませんでした。このエラーは、PartitionMagic からリモートマシンに接続しようとした際、ほかのサーバーが既に接続していた場合に発生します。現在接続しているサーバーがリモートマシンからの接続を解除するまで、待つ必要があります。

#220 LSL (Link Support Layer) ドライバとサポートしている NIC ドライバをロードできません

LSL ドライバと適切な NIC ドライバがリモートエージェント起動ディスクに含まれていて、リモートエージェントの実行前にロードされていることを確認してください。

#221 接続は、ハードを実行しているピアまたは接続解除の失敗によってリセットされました

リモートエージェントによって接続が強制的に切断されました。このエラーは一般に、リモートホスト上のピアアプリケーションが突然停止されたか、ホストが再起動されたことを示しています。また、操作の実行中にキープアライブアクティビティが障害を検出したために、接続が切断された可能性もあります。実行中だった操作は失敗します。操作中にこのエラーが発生した場合は、操作対象のパーティションおよびパーティションテーブルが壊れている可能性があります。このエラーが発生した場合、対象となるパーティションを削除し、パーティションテーブルを修復してから、もう一度操作を実行してください。

#223 NET.CFGにおいて Link Support Layer (LSL) ドライバのバッファが宣言されていません

リモートエージェント起動ディスクのNET.CFG内のLink Support Layer (LSL) ドライバに対して、バッファが宣言されていません。NET.CFG ファイルを編集して、リンクサポートセクションにバッファを宣言してください。

#224 NET.CFGでのLink Support Layer (LSL) ドライバのバッファサイズが小さすぎます

リモートエージェント起動ディスクのNET.CFG内のLink Support Layer (LSL) ドライバに対して、バッファサイズが小さすぎます。NET.CFG ファイルを編集して、リンクサポートのバッファサイズを1600以上にしてください。

#225 LSL (Link Support Layer) ドライバは、ETHERNET_II フレームをサポートしていません

リモートエージェント起動ディスクのNET.CFG内のLink Support Layer (LSL) ドライバに、ETHERNET_II フレーム用の設定がありません。リモートエージェントには、Ethernet_II フレームのサポートが必要です。正しい操作を行うためには、リモートエージェント起動ディスクのNET.CFG ファイルを編集して、リンクドライバセクションにETHERNET_II フレームタイプを指定してください。

診断エラー (500 ~ 599)

診断エラーはPartitionMagicがパーティションの状態を診断するときに発生します。一般的な修復方法については、123 ページの「診断エラーを解決する」を参照してください。

#500 サブディレクトリが壊れています

このエラーメッセージに続けて、壊れたサブディレクトリ名が表示されます。該当するディレクトリとサブディレクトリにあるデータのバックアップを保存してから、壊れたサブディレクトリを削除してください。

#501 相互リンクされたファイルが見つかりました

複数のファイルから同じクラスタが要求されています。このエラーがNTFSパーティションで発生している場合は、PartitionMagicで問題を修復できます。詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」を参照してください。PartitionMagicで問題を解決するには、(1) 共有されているクラスタを関連ファイルすべてにコピーする、(2) 関連ファイルすべてを削除する、(3) ファイルを1つ残して、他のファイルをすべて削除する、のいずれかの操作を実行します。

#506 パーティションに十分な空き領域が無いため縮小できません

パーティションのサイズを縮小する場合、ある程度の空き領域が必要です。必要な容量はハードディスクの内容によって異なります。パーティションから不要なファイルや重複しているファイルを削除し、十分な空き領域を確保してから、もう一度操作してください。

#508 指定されたパーティションの変更処理はできません

パーティションに現在設定されている値と同じ値が入力されました。または、入力した値がシリンダ制限によって丸められたため、値が現在値と同じになってしまいました。より大きい変更値を入力してください。

#509 カレントまたは新しい領域に不良セクタが見つかりました

指定されたとおりにサイズを変更するために、PartitionMagicによりファイルシステム領域の拡張が試みられましたが、新規領域内に不良セクタが検出されました。いったん、パーティションを移動してから、サイズを変更してください。この問題が発生しても、データが失われることはありません。

#510 このファイルシステムのバージョンには対応していません

この新しいバージョンのファイルシステムで処理を実行するには、PartitionMagicのバージョンアップが必要です。アップデートされたバージョンのPartitionMagicについては、www.netjapan.co.jp を参照してください。

バッチエラー (600 ~ 633)

#600 バッチファイルが見つかりません

#601 バッチファイル書き込み中のエラー

#602 バッチファイルが見つかりません

PartitionMagicではパーティションの変更処理をすべて設定してから、[適用] ボタンをクリックして、まとめて実行することができます。この場合、PartitionMagicは実行の準備としてコマンドリストファイル(「バッチファイル」と呼ばれる)をディスクに書き込み、実行の際にこのファイルを読み込みます。変更の影響を受けるすべてのパーティションでロックが確保できる場合は、ただちに読み込みます。すべてのロックが確保できない場合は、コンピュータの再起動後に特別な「再起動」モードで読み込みます。Windows 95 版、Windows 98 版、および Windows

NT Workstation 版の PartitionMagic では、バッチファイルは Windows¥System ディレクトリに格納されます。DOS 版では、PartitionMagic の起動元のディレクトリに格納されます。バッチファイルの名前は PQ_SM40.PQB です。

これらのエラーメッセージはバッチファイルの作成や書き込みができなかったときや、コマンドファイルの実行時にファイルが見つからなかったときに表示されます。緊急用ディスクから PartitionMagic を実行する場合は、それらが書き込み保護になっていないことを確認します。問題の原因を特定できない場合は、PowerQuest のテクニカルサポートに連絡してください。

#603 不明なバッチ操作

PartitionMagic が理解できない操作がバッチファイルに含まれていました。ネットジャパンのテクニカルサポートに問い合わせてください。

#625 バッチ構造は変更されました

通常の場合、エラー 625 は、コマンドを実行するためにシステムが起動モードに入る必要があるときに発生します。エラー 625 が発生する場合、ネイティブの Windows 版の PartitionMagic において認識されるディスクのジオメトリが起動モード版の場合と異なっています。データを失う危険性があるため、安全のために PartitionMagic は変更を適用できません。

このエラーの原因となるハードウェア構成に共通する特徴は、Windows では認識できても、起動モード環境では認識できない SCSI やリムーバブルドライブなどのハードディスクを持つシステムだという点です。

次のような解決方法があります。

- 起動モードで実行せずに、操作がネイティブの Windows モードで実行されるようにします。PartitionMagic が起動モードに入るのは、パーティションをロックできない場合、すなわち、パーティション上に開いているファイルがある場合だけです。[変更の適用] ボタンをクリックする前に、すべての操作を PartitionMagic がロックできるドライブに限定するように試みてください。
- 問題のあるドライブは、おそらく SCSI、またはリムーバブルドライブです。このドライブの BIOS 設定を変更して、構成を変えます。これにより、ネイティブ環境と起動モード環境で同じハードディスク構成が検出されるようになります。これがうまくいかない場合は、問題のあるドライブを一時的に無効にすることもできます。

通常このエラーは、PartitionMagic の実行中に他のアプリケーションがディスク構成を変更したことを示しています。PartitionMagic の実行中には他のアプリケーションがロードされないようにしてください。

ユーザーの操作エラー (950 ~ 999)

#950 ディスクドライブが見つかりません

使用しているコンピュータには、パーティションを作成できるハードディスクはありません。フロッピーディスクドライブや多くのリムーバブルメディアドライブは、パーティションの作成機能をサポートしていません。**PartitionMagic**を使用して、このようなドライブにあるディスクに操作を実行することはできません。

#951 無効な値が入力されました

この操作で指定された範囲外の値が入力されました。または、入力した値がシリンダ制限によって丸められたため、範囲外の値になってしまいました。表示されている範囲を確認して、値を再入力してください。

#952 入力された値と現設定値が同じです。変更処理は実行していません

エラー #508 を参照してください。

#963 指定された操作は現在無効です

PartitionMagic では、すべての操作をすべてのパーティションに対して実行できるわけではありません。たとえば、**HPFS** パーティションを **NTFS** には変換できません。また、ハードディスク上に十分な空き領域がなければ、パーティションを作成することができません。

Windows では、使用できないオプションはメニューに表示されないか、淡色表示になります。しかし、**DOS** 版の **PartitionMagic** でスクリプトを実行している場合、メニューは表示されないため、どの操作が使用可能であるか知ることができません。本書の該当する項目を参照するか、オンラインヘルプの制限に関する項目で、操作が使用できない理由が説明されている部分をお読みください。

#967 指定された値は有効範囲外です

このエラーは、スクリプトから **PartitionMagic Pro** を実行する場合にのみ発生します。サイズ変更または移動の際に指定された値が可能な最小値と最大値の間にならない場合は、スクリプトの実行が停止し、このエラーが表示されます。

#968 無効なボリュームラベルが入力されたため、削除処理を実行しません

PartitionMagic でパーティションを削除するには、対象となるパーティションのボリュームラベルを入力する必要があります。このエラーは、入力されたボリュームラベルが、削除するパーティションのボリュームラベルと一致しない場合に表示されます。

#969 無効なボリュームラベルが入力されたため、処理を続行できません

PartitionMagic で既存のパーティションを初期化するには、対象となるパーティションのボリュームラベルを入力する必要があります。このエラーは、入力されたボリュームラベルが、初期化するパーティションのボリュームラベルと一致しない場合に表示されます。

#970 不良セクタ診断の設定値が無効です

このエラーは、プロフェッショナル版の PartitionMagic でスクリプトの実行中にのみ発生します。スクリプトコマンド SET DEFAULT BAD SECTOR TEST STATE の後に ON または OFF が指定されていないと、このエラーが表示されます。

#971 入力されたラベルが長すぎます

ボリュームラベルを入力すると、ラベルの有効性をチェックする機能が働きます。このメッセージはラベルが長すぎた場合に表示されます。ラベルは 11 文字以内でなければなりません。

#972 ラベルに無効な文字があります

ボリュームラベルを入力すると、ラベルの有効性をチェックする機能が働きます。このメッセージはラベルに無効な文字が使用されていた場合に表示されます。ボリュームラベルには [* ? : < > | + = ; ¥ / " ,] は使用できません。

#973 ボリュームラベルの先頭に空白は使用できません

ボリュームラベルを入力すると、ラベルの有効性をチェックする機能が働きます。このメッセージはラベルの先頭にスペースが入っている場合に表示されます。

#974 指定されたルートサイズは有効範囲外です

このエラーは、プロフェッショナル版の PartitionMagic でスクリプトの実行中にのみ発生します。[作成]、[フォーマット]、または[ルートサイズ変更]を使用したときに、指定したルートエントリ数がパーティションの許容範囲内にないと、このエラーメッセージが表示されます。通常、有効な範囲は 64 から 1,024 までです。

#975 指定クラスタサイズは対象パーティションで使用できませんでした

このエラーメッセージは、プロフェッショナル版の PartitionMagic でスクリプトの実行中にのみ表示されます。多くのコマンドにはクラスタサイズオプションがあります。スクリプトコマンドで無効なクラスタサイズ(パーティションのタイプとサイズに対して)が指定されると、このエラーが表示されます。

#976 現在の領域に指定されたファイルシステムは作成できません

このエラーメッセージは、プロフェッショナル版の PartitionMagic でスクリプトの実行中にのみ表示されます。[作成]または[フォーマット]コマンドを使用する場合は、ファイルシステムタイプも選択する必要があります。現在使用可能な領域で、指定したタイプのファイルシステムまたはパーティションが作成できない場合に、このエラーが表示されます。

#977 選択されたパーティションは無効です

このエラーメッセージは、プロフェッショナル版の PartitionMagic でスクリプトの実行中にのみ表示されます。[パーティションの選択]コマンドで選択されたパーティションが有効なパーティションでない場合に、このエラーが表示されます。

#978 最終操作の後に適切なパーティションに戻れません。スクリプトが中断されました

このエラーメッセージは、プロフェッショナル版の **PartitionMagic** でスクリプトの実行中にのみ表示されます。**PartitionMagic** は、各操作の後で、正しいパーティションがまだ選択されているかどうかを確認します。**PartitionMagic** が適切なパーティションを選択できない場合、スクリプト処理を終了して、このエラーを表示します。

#986 パーティションの情報が取得できません

このエラーが最も一般的に発生する状況は、MS-DOS ベースの TSR (起動終了後に常駐するプログラム) がバックグラウンドで動作しているときです。そのような TSR は、**Config.sys** または **Autoexec.bat** ファイルに含まれています。

その 1 つの例が **SUBST** コマンドです。**SUBST** は、パスをドライブレターに関連付けるために使用されます。このコマンドは「仮想ドライブ」を作成し、これは追加のローカルドライブとしてアクセスできます。**SUBST** コマンドは「汚い」または「破壊的な」TSR に分類されており、**PartitionMagic** のロード時に同時にロードすることはできません。

この問題を解決するには、**Config.sys** または **Autoexec.bat** 内で **SUBST** コマンドをロードする行をコメントアウトします。**PartitionMagic** を実行した後は、**SUBST** を元どおりにしてもかまいません。

問題の原因となる「汚い」または「破壊的な」TSR は、ほかにもあります。**SUBST** コマンドを使用していないのにこのエラーが表示される場合は、**Join**、**Append**、または **Assign** コマンドが含まれていないかどうかを確認し、含まれている場合はコメントアウトしてください。

このエラーは、C: ドライブが圧縮されている場合に表示されることもあります。C: ドライブが圧縮されている場合は、ドライブの圧縮を解除するか、**PartitionMagic** を緊急用ディスクから起動します。

このエラーは、複数のパーティションテーブルエラーが発生している場合に表示されることもあります。上記の解決方法がいずれも適用できない場合は、**PartitionInfo** または **PARTINFO** を実行して、(株) ネットジャパンのテクニカルサポートにレポートを送ってください。**PartitionInfo** および **PARTINFO** の詳細については 125 ページの「**PartitionInfo** による診断レポートの作成」を参照してください。

#993 パーティションに開いているファイルが含まれています。オペレーティングシステムの診断ユーティリティを使用してください

このエラーを修復するには、システムにあるウィルス防止プログラムを無効にして、DOS から **ScanDisk** を実行します。

NTFS 診断エラー (1500 ~ 1699)

1500 ~ 1699 番のエラーはNTFS 特有の診断エラーメッセージで、PartitionMagic を使ってパーティションの状態を診断したときに表示されます。PartitionMagic の [エラー診断] オプションを実行することで、解決できるエラーもあります。詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」と 123 ページの「診断エラーを解決する」を参照してください。

この節では、「属性」という言葉は「読み込み専用」、「隠し」、「システム」などを示すものではありません。ファイルのデータストリームの 1 つを指して使われます。

#1501 NTFS のバージョンが不正です

PartitionMagic が対応していないバージョンの NTFS ファイル形式でパーティションが作成されています。

#1503 NTFS クラスタサイズ不良です

NTFS のクラスタサイズには 512、1,024、2,048、4,096、8,192、16,384、32,768、65,536 バイトのいずれかを指定してください。

#1512 再起動レコードが一致していません

ジャーナルファイルに異なる 2 つの再起動エントリが記述されています。Windows NT Workstation が正しくシャットダウンされていない場合に、このエラーが起きることがあります。この問題を解決するには、Windows NT Workstation を再起動し、[シャットダウン] コマンドを使用してシャットダウンしてください。

#1513 ファイルレコード中の属性の位置が不正です

このエラーは、2001 年より前にリリースされた PowerQuest 製品にのみ発生します。通常は、影響を受けるディスク上で CHKDSK /F を実行することでこの問題を解決できます。

#1516 パーティションが不正に終了しました

ジャーナルファイルの再起動レコードに不正終了フラグが付けられています。Windows NT オペレーティングシステムがパーティションに書き込みをしている間に、停電、またはシステムクラッシュが起きたため、このエラーが発生した可能性があります。Windows NT を再起動して、「CHKDSK /F」を実行し、問題を修復してください。

#1527 更新のシーケンス番号が無効です

バッファに保管されている更新のシーケンス番号が一致しません。Windows NT オペレーティングシステムがパーティションに書き込みをしている間に、停電、またはシステムクラッシュが起きたため、このエラーが発生した可能性があります。Windows NT Workstation を再起動して、「CHKDSK /F」を実行し、問題を修復してください。

#1529 ディレクトリエントリ情報が一致していません

ファイルレコードに記録されたファイル属性とディレクトリエントリに記録されているファイル属性が異なります。このエラーがシステムファイル(ファイル0～10)で発生している場合は、Windows NT のCHKDSKで修復することはできません。オペレーティングシステムを再起動すると、Windows NTによって、パーティションのルートディレクトリが再構築されます。

#1538 連続した領域がないため移動できません

このパーティションには、連続させて保管する必要があるファイルのコピーが入るだけの、まとまった空き領域がありません。このエラーメッセージは、通常、**[サイズ変更]** オプションを使用してパーティションを縮小したときに表示されます。

#1539 ファイルサイズが一致していません

ファイルレコードに記録されたシステムファイル(ファイル0～15)のサイズが、ルートディレクトリのディレクトリエントリに記録されたサイズや、データストリームのサイズと一致しません。

#1544 外部属性の中に外部属性リストがあります

外部ファイルレコードに外部属性リストが入っています。

#1545 ファイル属性の順番が間違っています

ファイルの属性は数値形式の昇順に並べられている必要があります。

#1546 常駐または非常駐型以外の属性があります

属性の常駐フラグに常駐または非常駐以外の値が使用されています。

#1547 実行制限の不正です

最上位クラスタと最下位クラスタの差よりも大きなクラスタが実行に使用されました。

#1548 ファイルテーブルのエントリー数が16に達していません

ファイルテーブルには最低でも16以上のエントリが必要です。

#1549 ファイルテーブルのエントリー数が40億を超えています

ファイルテーブルには40億を超すエントリは記録できません。

#1604 ファイルの親にファイルがありません

ファイルの親ディレクトリに、このファイルへの参照が含まれていないか、ファイルのサイズ、日付、時刻などの情報が、ファイルの親ディレクトリが持つ情報と一致していません。このエラーは、PartitionMagicの[診断]オプションを実行することで解決できます。詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」を参照してください。このエラーを修復すると、PartitionMagicにより、ファイルの親ディレクトリ情報が更新されます。

#1609 クラスタを損失しました

ボリュームビットマップには、どのファイルからも要求されていない、つまり使用されていないクラスタが使用中であると表示されています。このエラーは、PartitionMagicの[診断]オプションを実行することで解決できます。詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」を参照してください。PartitionMagicでは、破損クラスタを削除、またはルートディレクトリにあるファイルに保存することにより、このエラーを修復することができます。保存した場合、ファイル名はFILEXXXX.PQEになります。XXXXには0000から9999までの数字が入ります。

#1630 属性ヘッダのサイズが無効です

ファイルサイズ情報が不正です。このエラーは、PartitionMagicの[診断]オプションを実行することで解決できます。詳細については、50 ページの「パーティションのエラー診断」を参照してください。このエラーを修復すると、PartitionMagicにより、正しいファイルサイズ情報が計算されます。

#1644 システムファイルシーケンス番号の不良です

システムファイルに間違ったシーケンス番号があります。システムファイルのシーケンス番号は1から15まででなければなりません。この問題はWindows NTのCHKDSKでは検出されない場合がありますが、Windows NTを再起動したときに該当パーティションがマウントなくなります。

#1647 ルートディレクトリのインデックスにエラーがあります

ルートディレクトリのインデックスに間違いがあります。Windows NTのCHKDSKを実行してもこのエラーは解決されません。Windows NTを再起動すると、このパーティションのルートディレクトリが自動的に再構築されます。

#1681 データが圧縮または分散されています

ファイルが圧縮されているため、NTFS ファイルシステムをFATまたはFAT32に変換できません。すべてのファイルの圧縮を解除しないと、変換は実行できません。圧縮されているファイルのFRS番号が示されます。

#1687 オブジェクトインデックスがあります

Windows 2000によって作成されたオブジェクトインデックスを持つファイルが見つかりました。たとえば、ユーザーがディスク領域クォータを割り当てた可能性があります。FATおよびFAT32ファイルシステムはオブジェクトインデックスをサポートしていないため、パーティションをFATまたはFAT32に変換した場合、この情報は保存されません。該当ファイルのFRS番号が示されます。

FAT 診断エラー (2000 ~ 2099)

診断エラーはPartitionMagicがパーティションの状態を診断するときに発生します。一般的な修復方法については、123ページの「診断エラーを解決する」を参照してください。

#2001 FATのコピーを認識できません

このエラーを解消するには、ScanDiskを実行してください。

ウィルスが原因で、このエラーが発生することもあります。ウィルススキャナーを実行して、ウィルスを駆除してください。

#2002 FATに無効なエントリーがあります

通常このエラーは、該当するパーティションに対してScanDiskを完全に実行することで修復できます。

#2003 ファイルサイズとファイルのFAT割り当てが一致しません

このエラーを修復するには、ScanDiskまたはCHKDSKを実行します。

#2005 いくつかのクラスタを損失しました

このエラーを修復するには、ScanDiskまたはCHKDSKを実行します。

#2012 パーティションに対してFATファイルシステムが大きすぎます

このエラーは次のような場合に発生します。

- パーティションのセクタ数が65,536を超えています。そして、起動セクタのbsHugeSectsフィールド(NotronのDISKEDITユーティリティでは“Big total number of sectors”)には、パーティションテーブルに示されているよりも多くのセクタがこのパーティションにあると示されています。
- パーティションのセクタ数は65,536以下ですが、起動セクタのbsSectsフィールド(NotronのDISKEDITユーティリティでは“Total sectors on disk”)には、パーティションテーブルに示されているよりも多くのセクタがこのパーティションにあると示されています。

この状況で、FATファイルシステムからパーティションの外側にある存在しない領域や他のパーティションに属する領域を使用しようとすると、データが失われる可能性があります。ファイルデータはパーティションの領域外に存在する可能性があるため、起動セクタにパッチをあてるだけでは、問題は解決できません。

このエラーを解決するには、パーティションにあるデータすべてのバックアップを保存してから、このパーティションを削除します。その後、パーティションを再度作成し、データを復元します。また、Norton Disk Doctorでこのエラーを解決できたという報告もあります。

#2013 FAT ジオメトリのコンポーネントが不良です

このエラーは次のような場合に発生します。

- ハードディスクにあるクラスタ数が、FATでの制限値を超えています。起動セクタのセクタ数、FAT数、ルートエントリ数、予約セクタ数、クラスタ1つあたりのセクタ数に誤った値が設定されている可能性があります。
- FATのセクタ数が小さすぎて、ハードディスクにあるクラスタが格納できません。

専門知識のあるエンジニアであれば、単純なパッチをあてることで、ハードディスクを修復できるでしょう。また、パーティションにあるデータのバックアップを保存し、パーティションを削除してから、これを再度作成して、ファイルを復元することもできます。

#2024 OS/2の拡張属性ファイルが壊れています

このエラーが発生するのは、OS/2でプログラムが誤ってOS/2拡張属性ファイルに書き込みまたは上書きを行った場合だけです。このエラーが発生した場合は、データのバックアップを保存してから、このパーティションを削除します。その後、パーティションを再度作成し、データを復元します。

#2027 ルートディレクトリのエントリ数が多い為、FAT32パーティションをFAT16パーティションに変更できません。いくつかのファイルをルートディレクトリからサブディレクトリに移動してから、再度実行してください

1ファイルに複数のエントリを使用するロングファイルネームがエラーの原因と考えられます。このエラーを解決するには、ルートディレクトリエントリの一部をサブディレクトリに移動して、ディスクのフラグメンテーションを解消してください。

#4002 ボリューム定義テーブルにはNetWareボリュームシグネチャがありません

エラー #3を参照してください。

BootMagic エラー (8000 ～ 8999)

これらのエラーは、“1 つ目のヘッド”のエラーです。解決するには、(株) ネットジャパンのテクニカルサポートに連絡する必要があります。テクニカルサポートに連絡する前に、DOS プロンプトで「wrprog /bak >x:head1.dat」と入力してください。ここで、「x:」はマシン上のいずれかのドライブ名です。

wrprog.exe ファイルは、PowerQuest 製品フォルダの Utility¥DOS フォルダにあります。Windows NT を使用していて DOS を使用できない場合は、PowerQuest ソフトウェアに対して作成した DOS 緊急用ディスクを使用できます。

オペレーティングシステムエラー (10,000 以降)

10,000 番以降のエラー番号はオペレーティングシステムエラーを表します。オペレーティングシステムエラーの番号は、 $10,032 - 10,000 = 32$ のように、表示されたエラー番号から 10,000 を引いたものです。エラーの解決方法の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

付録 C

テクニカルサポート

この付録では、テクニカルサポートについて説明します。

- テクニカルサポートへ連絡する前に
- テクニカルサポートフォーム
- テクニカルサポートを受けるための条件
- テクニカルサポートの連絡先
- 旧バージョンのサポート期間について
- 補足

テクニカルサポートへ連絡する前に

(株)ネットジャパンでは、総合的なテクニカルサポートを実施しています。但し、テクニカルサポートへご連絡いただく場合は、その前に本書で解説している問題への対処方法を参照し、お試しください。ハードディスクに関連した問題については、ハードディスクのメーカー、または購入先のお店にお問い合わせください。また、本書の発行後に変更された情報がREADME.TXTファイルに入っています。こちらも先に参照してください。

テクニカルサポートフォーム

本書の解説に適切な解決法が見つからなかった場合は、パッケージに同梱されている『ユーザー登録とテクニカルサポートのご案内』に「テクニカルサポートフォーム」がありますので、その用紙に必要事項をご記入の上、ファックスまたはEメールにてお送りください。

注意： PartitionMagic の CD-ROM の中には、パーティション診断ソフト PARTINFO が入っています。エラーが出た場合には、PARTINFO を実行し、解析した情報をテキストにしてEメールあるいはファックスにて弊社のテクニカルサポートまでお送りください。

DOS プロンプトにて、

PARTINFO > ドライブ名 : ¥PARTINFO.TXT

を実行する事で、解析した情報がテキストとして作成されます。

または、「PartitionInfo による診断レポートの作成」を参照願います。

テクニカルサポートを受けるための条件

本書の解説では問題解決に至らなかった場合は、以下の方法でテクニカルサポートへご連絡ください。ここでサポートを受けられるのは、PartitonMagic の登録ユーザーに限られています。無償サポートを受けられる期間は、ご登録日から 90 日間まで、とさせていただきます。また、Pro 版の無償サポート期間はサポートに架電してから 45 日間で、別途有償にて年間契約サポートサービスも用意しております。

テクニカルサポートの連絡先

注意： テクニカルサポートへお問い合わせなさる際には：

- テクニカルサポートフォーム (シリアル番号を必ず明記してください。)
- PARTINFO または PartitionInfo の結果 (前ページを参照してください。)
- 症状 (同梱のテクニカルサポートフォーム、もしくはそれに準拠したもので、なるべく手順がはっきりわかるようにお願いします。)

上記の資料をお送りください。(電話でお問い合わせなさる際も、お手元にこれらをご用意ください。) これらの情報がそろっていない場合には、ご回答できないこともございます。

ファックス 03-3864-5230 (Pro 版は 03-3864-5244)

上記に記載された内容と、発生した問題の概略をお送りください。

E メール support@netjapan.co.jp (Pro 版は enterprise-support@netjapan.co.jp)

Eメールでのメッセージも受け付けています。

送付先は、support@netjapan.co.jp です。また、弊社 Web サイト (www.netjapan.co.jp) や PowerQuest 社 Web サイト (www.powerquest.com) にも情報が掲載されていますので、お問い合わせいただく前にご参照ください。

郵便

郵送先：〒101-0032 東京都千代田区岩本町2-18-3
(株) ネットジャパン
テクニカルサポートまで

電話 03-3864-5290 (Pro 版は 03-3864-5266)

このサービスは、休日・祝日を除く月曜から金曜日の 10:00 から 12:00、13:00 から 17:00 の間に実施していますが、混雑が予想されますので、緊急の場合以外は極力お避けください。

旧バージョンのサポート期間について

旧バージョンのサポートは、新バージョンがリリースされてから 120 日間、また、製品の販売中止または他製品への統合から 180 日間を限度とします。

補足

- JIS キーボード(通常日本で販売されているものは全てこれです)を使用している場合、英語 MS-DOS を起動させた時に、“:”や“¥”を入力する方法は次のとおりです。
“:”の入力方法: Shift キーを押しながら“;+れ”が表示されたキーを押します。
“¥”の入力方法: “}む”が表示されたキーを押します。
- 本書は開発中の画面をもとに作成しています。お手元の製品の画面表示と異なる場合がある旨、ご了承ください。

索引

数字

- 4K 境界割り当て
 - FAT/FAT32 パーティションからの変換 75
- 64K クラスタ 23
 - 使用 69

B

- Boot Disk Builder 87
- BootMagic 103
 - インストールする 105
 - オンラインヘルプ 106
 - 起動時間、設定する 111
 - 緊急用ディスクの作成 106
 - システム可動条件 104
 - 設定する 107
 - トラブルシューティング 109
 - パスワードを設定する 108
 - 別のハードディスクからの起動 110
 - 無効化 111
 - メニューから項目を削除する 110
 - メニュー項目のプロパティの変更 110
 - メニューにオペレーティングシステムを追加する 108
- BootMagic の無効化 111
- BootMagic メニュー項目を削除する 110
- BootMagic を設定する 107

C

- CD-ROM、ドライブレターを割り当てる 121

D

- Disk Doctor、Norton 114
- DOS
 - PartitionMagic を起動する 7
- DriveMapper 36, 98
 - パーティションの結合後に実行する 84
- DriveSpace と PartitionMagic の互換性 115

F

- FAT/FAT32 パーティション
 - 4K 境界割り当てへの変換 75
- FAT16x 21
- FAT32x ファイルシステム 22
- FAT32 対応システム 23
- FAT32 ファイルシステム 22
 - 現在のオペレーティングシステムがサポートしているかどうか 23
 - パーティション、FAT に変換する 74
 - パーティション、関連する情報 57
- FAT 情報 58
- FAT ファイルシステム 21
 - FAT32 に変換する 73
 - FAT32 を変換する 74
 - NTFS に変換する 73
 - Windows NT で 64K クラスタを使用する 23
 - クラスタサイズ、64K 69
 - クラスタのサイズ、説明 68
 - クラスタのサイズ、変更する 68
 - クラスタの浪費領域 57
 - 診断エラーメッセージ 144
 - パーティションで OS/2 拡張属性エラーが発生 51
 - パーティション、関連する情報 57
 - パーティション、サイズを変更する 31
- FDISK、関連するエラーメッセージ 131, 133

G

- GoBack 117

I

- Info 56
 - FAT 情報 58
 - NTFS 情報 59
 - クラスタの浪費領域 57
 - ディスク使用状況 57
 - パーティション情報 58

J

JIS キーボード 150

L

LILO 43

Linux

新しいパーティションにインストールする 38

起動可能パーティションの作成、要件 37
パーティション作成後に起動できない 38, 44

ファイルシステム 22

論理パーティションの作成、シナリオ 42

M

MS ScanDisk 60

N

Norton utilities 114

AntiVirus 114

Disk Doctor 114

SystemWorks 115

NT CheckDisk 60

NTFS

診断エラーメッセージ 141

パーティション、関連する情報 59

パーティション、診断する 8

ファイルシステム 22

NTFS システムのパーティションに対する

7.8GB 制限 30

NTFS パーティション

FAT または FAT32 に変換する 75

関連する情報 57

最小サイズ 32

O

OS/2

FDISK、関連するエラー 130, 131

PartitionMagic を起動する 7

関連するエラーメッセージ 131, 132, 145

デュアルブート 116

P

PARTINFO 126

PartitionInfo プログラム 125

PartitionMagic

PartitionInfo プログラム 125

アンインストールする 11

システム可動条件 4

プログラム設定、項目を設定する 23

他のプログラムとの互換性 114

PartitionMagic Pro の機能 11

PartitionMagic でサポートされているファイル
システム 21

PartitionMagic とデュアルブートの互換性 116

PartitionMagic とドライブオーバーレイソフト
ウェアの互換性 117

PartitionMagic に対してハードディスクを
読み出し専用にする 24

PartitionMagic のアンインストール 11

PQ_DEBUG.TXT ファイル 125

PQBoot 100

コマンドラインスイッチ 101

複数の表示された基本パーティションと
ともに使用する (Windows NT) 101

PQFLEX パーティション 123

PqRP パーティション 123

R

README ファイル 26

S

ScanDisk 60

SCSI ハードディスク、PartitionMagic を
使用する 122

SoundBlaster Live DOS ドライバ 117

SystemWorks 115

U

Unformatted (未フォーマット) パーティション
22

USB のサポート 18

W

Windows

- PartitionMagicをインストールする 4
- PartitionMagicを起動する 7
- WindowsでのDriveSpaceの使用 115
- エラーの診断、解決する 123
- ドライブレター、変更 98

Windows 2000

- 緊急用ディスクを実行する 7
- ダイナミックディスク 18

Windows 2000 Professional、Windows XP、または Windows Me のハイパネーション状態 7

Windows 95、オペレーティングシステム圧縮 ファイルを削除する 120

Windows Me、ハイパネーション状態 7

Windows NT

- 64K FAT クラスタ 23
- CheckDisk 60
- PQBootを使用する 101
- 新しいパーティションにインストールする 38
- インストールできない 40
- エラーメッセージ、関連する 141
- 基本パーティションの作成(シナリオ) 39
- ドライブレターの変更 64

Z

Zip ディスク、PartitionMagic を使用する 18

あ

アイコン、ウィザード～を非表示にする 82

空き領域 22, 57

BootMagicをインストールするのに必要な 104

関連するエラーメッセージ 136, 142

再配置、ウィザードの使用 84

パーティションの移動に必要な 29

パーティションのサイズ変更に必要な 31 表示された 58

空き領域の再配置ウィザード 84

空き領域、再配置する 84

アクティブに設定する 67

新しいオペレーティングシステムへの対応 新規パーティションの作成を参照。

圧縮ユーティリティと PartitionMagic 115

い

移動する

パーティション 28

パーティション、起動可能 30

パーティション、シナリオ 32

インストールする

BootMagic 105

PartitionMagic、Windows 4

Windows NT、トラブルシューティング 40

オペレーティングシステム 38

オペレーティングシステム、複数の 67

インターフェイス、概要 14

インデックス、ルートディレクトリのエラー 143

う

ウィザード

空き領域を再配置する 84

概要 14, 82

実行する 82

新規パーティションの作成 83

パーティションの結合 84

パーティションのコピー 84

変更設定を適用またはキャンセルする 82 メイン画面のボタンを非表示にする 82

ウィザードボタンを非表示にする 82

ウィザードを実行する 82

ウィザードを使って作業を自動化する 82

ウイルス検出ソフトウェア 116

ウイルス、除去する 124

え

- エラーメッセージ 127
 - FAT 144
 - NTFS 固有の 141
 - OS/2 固有の 131, 132, 145
 - 空き領域、関連する 136, 142
 - 診断 135
 - その他 127, 129
 - ディスクアクセス 128
 - ネットワーク 134
 - パーティションテーブル 130
 - バッチ 136
 - ユーザーの操作 138
- エラーをスキャンする 60
- エラー、解決する
 - 診断 123
 - パーティションテーブル 124, 125
 - マスターブートレコード 124

お

- オペレーティングシステム
 - BootMagic でデフォルトを設定する 110
 - BootMagic によってサポートされている 105
 - BootMagic メニューに追加する 108
 - 新しいパーティションを作成する 37, 83
 - インストールする 38
 - 複数をインストールする 67
- オペレーティングシステム起動ユーティリティ
 - BootMagic 103
 - システムコマンドー 116
 - デュアルブート 116
- オンラインヘルプ 25
 - BootMagic 106

か

- 回線接続 86
- 拡張 X ファイルシステム 21
- 拡張オペレーション
 - アクティブに設定する 67
 - クラスタサイズの変更 68
 - ドライブレターの変更 64
 - パーティションの表示または非表示 65
 - 不良セクタを再診断する 64
 - ルートのサイズ変更 66
- 拡張属性
 - 関連エラー 51, 145
 - 関連する情報 59

- 拡張パーティション 21
- [拡張パーティションの非表示] 110
- 可動条件、システム 4

き

- 起動可能なパーティション
 - FAT、トラブルシューティング 124
 - Linux、トラブルシューティング 38, 44
 - NT、トラブルシューティング 30
 - 作成する 37
- 起動可能パーティション間で切り替える 100
- 起動コード境界 38
- 起動コード領域 15
- 起動時間、BootMagic 用に設定する 111
- 起動スイッチ 8, 93
- 起動スイッチ、PartitionMagic
 - PartitionMagic CD の PMSCRIPT.PDF を参照。
- 起動スイッチ、PQBoot 101
- 起動ディスク、BootMagic 起動ディスクの作成 106
- 起動、BootMagic メニューと 112
- 機能、新しい 1
- 基本パーティション
 - 表示または非表示 66
 - 論理パーティションに変換 78
- 緊急用ディスク
 - BootMagic 106
 - PARTINFO を実行する 126
 - PartitionMagic を起動する 7
 - Windows 2000 Professional、Windows XP、または Windows Me 上での起動 7
 - 起動に使用する、ハードディスクが圧縮されている場合 140
 - 作成する 5
 - システム可動条件 4
 - スクリプトを実行する 93
 - 内容 6
 - 容量が足りない 8
- 緊急用ディスクを作成する 5

く

- クラスタ
 - 64K 23
 - 64K、使用 69
 - FAT、必要なサイズ 70
 - サイズ 68

サイズを変更する 68
クラスタサイズ 58, 59, 70
クラスタの浪費領域 57
クラスタ、不良 64

け

警告 76

こ

コピーする
パーティション 48
パーティション (ウィザード) 84
パーティションをリモートエージェントと
の間で 86
コマンドラインスイッチ 8, 93
PQBoot 101
コンテキストヘルプ 25
コンベンショナルメモリ、解放する 120

さ

最終物理セクタ 58
サイズ変更操作 28
サウンドカードドライバ、PartitionMagic と
互換性がない 117
削除したパーティションを復元する 45
サポート、USB ドライブ 18

し

システム可動条件 4
BootMagic 104
システムコマンドー 116
シナリオ
Linux パーティションの作成 42
パーティションのサイズ変更と移動 32
パーティションを作成する 41
詳細、表示 20
状態の診断、ディスク 28
状態を診断する、パーティション 50
処理の実行、一般的な処理 17
新機能 1
新規パーティションの作成ウィザード 83
診断
エラーメッセージ 135
エラーを解決する 123
診断レポート 126

す

スイッチ 93
スクリプト処理
オンラインヘルプを参照。
スクリプトを作成する 93
ScriptBuilderを検出できない 11
緊急用ディスクから実行する 93
ステータスバー 16

せ

セクタ、不良 129, 139
セクタ、不良箇所を再診断する 64
選択する
操作 19
パーティション 18
物理ディスク 18
先頭FATセクタ 59
先頭MFTクラスタ 59
先頭データセクタ 59
先頭物理セクタ 58

そ

操作
MS ScanDisk 60
NT CheckDisk 60
移動 28
コピー 48
サイズ変更 28
削除 44
作成 34
情報 56
診断 50
選択する 19
未実行の操作の表示 20
元に戻す 19
ラベル 46
操作手順の概要 17
ソフトウェア要件 4

た

ダイナミックディスク 18

ち

重複したパーティション、修復する 131

て

ディスクアクセスに関するエラーメッセージ
128

ディスク圧縮ユーティリティ、DriveSpace 115

ディスク使用状況 57

ディスク状態の診断 28

ディスク領域、浪費部分を調べる 57, 70

ディスク、選択する 18

ディスク、ダイナミック (Windows 2000) 18

データの損失、その原因 23, 51, 65, 124, 131,
132, 144

データの保護 1

データパーティション 105

テクニカルサポート 147

テクニカルサポートへ連絡する前に 148

手作業でクラスタのサイズを変更する 68

手順の概要 17

デフォルトのオペレーティングシステム 110

起動時間を設定する 111

と

ドライブレター

DriveMapper で再マッピングする 98

Windows NT における変更 64

パーティションリストの 15

変更 36

問題、変更によって生じる 98

ドライブレターの変更 64

ドライブレターを再マッピングする 98

トラブルシューティング 119

FAT または FAT32 に変換すると失われる

NTFS の機能 76

Linux 38, 44

PartitionMagic がインストールされた

パーティションを非表示にする 7

PartitionMagic が起動モードで

クラッシュする 117

PartitionMagic の DOS 版 8

SystemWorks がインストールされているマ
シンにおけるディスク書き込みエラー
115

Windows NT をインストールできない 40

回線機能が実行できない 11

起動時にコンピュータがフリーズする 109

緊急用ディスク、ディスク 1 の容量が

足りない 8

コンピュータが起動しない 5

サイズ変更したパーティションから

起動できない 124

入力した変更設定が消えたように見える
82

パーティションの削除を元に戻したが、

削除前と同じではない 46

ワークステーションが起動できない 30

ね

ネットワークエラー 134

は

パーティション

NTFS を診断する 8

PqRP 123

アクティブ 16

アクティブ、設定 67, 100

移動する 28

移動する、シナリオ 32

ウィザードを使用して作成する 83

エラーをスキャンする 60

起動可能な 37, 67, 100

基本、表示または非表示 66

結合する 52

コピーする 48

サイズ変更の制限 31

サイズを変更する 28

サイズを変更する、シナリオ 32

削除する 44, 138

削除を元に戻す 45

作成する 34

作成、シナリオ 41

サポートされるファイルシステム 21

シュレッドする 44

状況 16

状態を診断する 50

情報 56

初期化する 47, 138

シリアル番号 58

選択する 18

重複、修復する 131

で 64K FAT クラスタを使用する 23

データ 105

名前を付ける 46

バックアップを作成する 48

非表示 16

表示または非表示 65

複数の基本パーティションを表示する 65,
116

- 分割 54
 - 変更設定を適用する 20
 - メインウィンドウ内のマップ 15
- パーティション種別 58
- パーティション情報 58
 - PartitionInfo プログラムを参照。
- パーティションテーブル
 - ウィルスを除く 124
 - エラーメッセージ 130
 - エラーを解決する 124, 125
- パーティションに名前を付ける 46
- パーティションの数を少なくする 52
- パーティションの結合 52
 - ウィザード 84
- パーティションのサイズを変更する
 - サイズ変更したパーティションから起動できない 124
 - シナリオ 32
 - 制限 31
- パーティションの削除 44
- パーティションの削除を元に戻す 45
 - 制限 46
- パーティションの初期化 47
- パーティションのバックアップの作成 48
- パーティションの非表示 65
- パーティションの表示 65
- パーティションの複製 48
- パーティションの分割 54
- パーティションマップ 15
- パーティションリスト
 - アスタリスク (*), 説明 15
 - 状況 16
 - ドライブレター 15
- パーティションリストのアスタリスク (*) 15
- パーティションを作成する 34
 - ウィザードの使用 83
 - 起動可能な 37
 - シナリオ 41
 - その結果生じるドライブレターの変更 36
 - ファイルシステム 83
- パーティションをシュレッドする 44
- パーティションを破壊する 44
- パーティションをリモートエージェントとの間で移動する 86
- パーティション、診断する 50
- ハードウェア要件。システム可動条件を参照。

- ハードディスク
 - SCSI、PartitionMagic を使用する 122
 - USB のサポート 18
 - ジオメトリ 1, 130, 132
 - 初期化する 47
- ハードディスク、読み出し専用 24
- パスワード
 - BootMagic 用に設定する 108
 - 変更する 11
- パスワードの変更 11
- パスワード保護 10
 - 削除する 11
- パッチエラーに関するメッセージ 136
- パッチファイル
 - スクリプト処理を参照。
- パッチファイル、緊急用ディスクから実行する 93

ひ

- 非常用ディスク
 - 緊急用ディスクを参照。
- 表示メニュー 14

ふ

- ファイルシステム、ウィザードによって表示される情報 83
- ファイルレコードのサイズ 59
- 物理ジオメトリ 58
- 物理セクタ総数 58
- 物理ディスク、選択する 18
- 不良セクタ 24
 - 再診断する 64
- 不良セクタ診断を省略する 24
- 不良セクタを再診断する 64
- プログラム設定 23
 - FAT32 対応システム 23
 - FAT 上の OS/2 EA エラーを無視する 23
 - WindowsNT 用 64K FAT クラスタを使用する 23
 - ウィザードボタン、非表示にする 82
 - ハードディスクの保護設定をする 24
 - 不良セクタ診断を省略する 24

へ

別のハードディスクからのOSの起動 110

ヘルプ、オンライン 25

ヘルプ、コンテキスト 25

変換する 73

FAT/FAT32から4K境界割り当てに 75

FAT32をFATに 74

FATをFAT32に 73

FATをNTFSに 73

NTFSパーティションをFATまたは

FAT32に 75

NTFSをFATまたはFAT32に、制限 76

基本パーティションを論理パーティ
ションに 78

変更設定をキャンセルする 20

ウィザードから 82

変更設定を適用する 20

ウィザードから 82

変更設定を保留にする 20

変更設定、適用する 20

ほ

ボリューム、名前を付ける 46

ま

マスターファイルテーブル 59

マスターブートレコード 130, 133

マスターブートレコードウィルス、除去する
124

み

未実行の操作、表示 20

未使用領域、再配置する 84

め

メインウィンドウ

概要 14

緊急用ディスク 16

ステータスバー 16

メインウィンドウのパーティションリスト 15

メモリ、PartitionMagicを実行するために
解放する 120

も

元に戻る 19

ゆ

ユーティリティ 6

ユーティリティ、オペレーティングシステム

AUTOCHK 123

CHKDSK 50, 59, 123

FDISK 131, 133

NT CheckDisk 60

ScanDisk 60, 123

よ

読み出し専用、ハードディスクを設定する 24

ら

ラベル 46

り

リスト、パーティション。パーティション
リストを参照。

リムーバブルメディア、PartitionMagicを
使用する 18

リムーバブルメディア、ドライブレターを
割り当てる 121

リモートエージェント 86

エラー 134

概要 86

起動ディスクを使わずに実行する 91

起動ディスク、Windowsで作成する 87

起動ディスク、使用する 91

リモートエージェント用の起動ディスク

Windowsで作成する 87

含まれるファイル 91

リモートエージェント用の起動ディスクを
作成する 87

リモートサーバー

リモートエージェントも参照。

る

ルートディレクトリ

FAT、容量 59

インデックス、エラー 143

サイズを変更する 66

ロングファイルネーム 66

ルートディレクトリのサイズを変更する 66

れ

例

パーティションのサイズ変更と移動 **32**

パーティションを作成する **41**

レター、ドライブ。ドライブレターを**参照**。

ろ

浪費領域を回復する **68**

浪費領域、回復する **68**

ロングファイルネーム **66**